

にし おさ かべ にし はら い せき
西 刑 部 西 原 遺 跡
(J 区)

令和2年3月

宇都宮市教育委員会



調査区全景（合成写真上空より 左が北）



調査区全景（合成写真上空より 上が北）

序

西刑部西原遺跡は、宇都宮市の南部、インターパーク地内に所在する遺跡です。この周辺には砂田遺跡、杉村遺跡、権現山遺跡、磯岡遺跡、立野遺跡など「東谷・中島地区遺跡群」と呼ばれる大規模な集落跡があり、本遺跡もこの遺跡群の一部であります。また、古代の官道である推定東山道もあり、貴重な遺跡が密集している地域であります。

今回、栃木トヨタ自動車株式会社の店舗建設に先立ち、影響を受けることになった埋蔵文化財の取扱いについて、事業者と協議いたしました。その結果、遺構保存が行えない部分について記録保存のための発掘調査を実施しました。その結果、古墳時代から平安時代にかけての集落跡の一部が確認され、西刑部西原遺跡の他の調査結果とあわせ、遺跡の集落の変遷などを知る上で貴重な資料を得ることができました。

本報告書は今回の発掘調査で得られたこれらの成果をまとめたものであり、多くの方々にご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、埋蔵文化財の取り扱い協議から発掘調査、そして報告書作成・刊行に至るまで、多大なるご協力とご理解をいただきました関係各位、関係機関に対しまして、厚く御礼申し上げます。

令和2年3月

宇都宮市教育委員会
教育長 小堀茂雄

例　言

1. 本書は、栃木県宇都宮市インターパーク四丁目2-7に所在する西刑部西原遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、栃木トヨタ自動車株式会社による店舗建設に伴う事前調査として、同社の委託を受けて、宇都宮市教育委員会の指導の下、株式会社東京航業研究所が実施した。
3. 発掘調査は、平成31年3月6日～6月14日まで実施し、その後令和2年3月31日まで整理・報告書作成作業を行った。
4. 本報告書の執筆・編集は、諸星良一が行った。第3章第4節(4)まとめは宅間清公が行った。ただし、第1章第1節(1)調査に至る経緯は、宇都宮市教育委員会文化課田中宏迪によるものである。
5. 調査組織

宇都宮市教育委員会

教育長　水越　久夫（平成30年度）

小堀　茂雄（令和元年度）

文化課長　松本　邦夫（平成30年度）

山口　達雄（令和元年度）

文化課主幹　今平　利幸

文化課文化財保護グループ係長　君島　直人（平成30年度）

前原　義之（令和元年度）

文化課文化財保護グループ

竹下　亘・田中　宏迪

調査主体者・株式会社東京航業研究所

中本　直士　代表取締役

諸星　良一　調査担当者

6. 調査に係る図面・写真等の諸記録および出土遺物は、宇都宮市教育委員会が保管している。

7. 発掘調査、資料整理及び報告書執筆にあたって、下記の諸氏・機関からご指導並びにご協力を賜った。個々にご芳名を記して感謝の意を表したい（敬称略）。

亀田幸久　鎌江宏之　塙本師也　長井光彦　栃木トヨタ自動車株式会社　栃木ダイハツ販売株式会社
晋豊建設株式会社

8. 調査参加者

塩沢寿男　島田敦子　高山文雄　山内愛子　高橋麻佐美　日向野久雄　菊池辰巳　大昇昇
鈴木和二　吉永寛

凡　例

1. 第1図は都市計画図「IX - IE 11 - 4」を部分複製加筆した。第2図は国土地理院発行2万5千分の1地形図「宇都宮東部」「上三川」を部分複製加筆した。
2. 掘団の縮尺は、遺構が1/100, 1/60, 1/30、遺物が1/3である。
3. 遺構・遺物実測図中の表示は次のとおりである。

[■] ……粘土範囲　[■] ……須恵器　[■] ……黒色範囲

4. 遺物観察表内の（ ）は推定値、（ ）は残存値を表す。

5. 遺跡・遺構の略号は以下のとおりである。

西刑部西原遺跡：UT-NS　住居跡：SI　土坑：SK　溝：SD　ピット：P

6. 遺構図面上の北の方針は座標北を示す。断面図の水準線は海拔標高を示す。

目 次

序 例 言 凡例

1はじめに	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 発掘調査の経過	1
2遺跡の位置と環境	2
(1) 地理的環境	2
(2) 歴史的環境	3
3調査の方法と成果	6
(1) 調査の方法	6
(2) 層序	6
(3) 遺構と遺物	8
(4) まとめ	67

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図 本調査範囲と周辺の地形	2	・第10号住居跡(SI-09・SI-10) 挖り方	24
第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡	4	第21図 第9号住居跡(SI-09)出土遺物	25
第3図 基本層序	6	第22図 第10号住居跡(SI-10)出土遺物	26
第4図 調査区全体図	7	第23図 第11号住居跡(SI-11)	27
第5図 第1号・第4号住居跡(SI-01・SI-04) ・カマド(SI-01)	13	第24図 第11号住居跡(SI-11)カマド	28
第6図 第1号・第4号住居跡(SI-01・SI-04) 挖り方	14	第25図 第11号住居跡(SI-11)出土遺物	28
第7図 第1号住居跡(SI-01)出土遺物	14	第26図 第12号住居跡(SI-12)	29
第8図 第4号住居跡(SI-04)出土遺物	15	第27図 第12号住居跡(SI-12)カマド	30
第9図 第2号住居跡(SI-02)	15	第28図 第12号住居跡(SI-12)出土遺物	30
第10図 第2号住居跡(SI-02)出土遺物	15	第29図 第13号住居跡(SI-13)	31
第11図 第3号住居跡(SI-03)	16	第30図 第13号住居跡(SI-13)カマド	32
第12図 第3号住居跡(SI-03)カマド・掘り方	17	第31図 第13号住居跡(SI-13)出土遺物	32
第13図 第3号住居跡(SI-03)出土遺物	18	第32図 第14号住居跡(SI-14)	33
第14図 第5号住居跡(SI-05)・カマド	19	第33図 第14号住居跡(SI-14)カマド	34
第15図 第5号住居跡(SI-05)出土遺物	20	第34図 第14号住居跡(SI-14)出土遺物	34
第16図 第6号住居跡(SI-06)	21	第35図 第15号住居跡(SI-15)	36
第17図 第7号・第8号住居跡(SI-07・SI-08)	21	第36図 第15号住居跡(SI-15)掘り方	37
第18図 第9号・第10号住居跡(SI-09・SI-10)	22	第37図 第15号住居跡(SI-15)出土遺物	37
第19図 第9号住居跡(SI-09)カマド	23	第38図 第16号住居跡(SI-16)	38
第20図 第10号住居跡(SI-10)カマド・第9号		第39図 第16号住居跡(SI-16)出土遺物	38
		第40図 第17号住居跡(SI-17)	39

第 41 図	第 17 号住居跡 (SI-17) 出土遺物	39	第 63 図	第 7 号土坑 (SK-07)	56
第 42 図	第 18 号・第 19 号住居跡 (SI-18・SI-19)	40	第 64 図	第 8 号・第 9 号土坑 (SK-08・SK-09)	56
第 43 図	第 18 号住居跡 (SI-18) 出土遺物	41	第 65 図	第 10 号土坑 (SK-10)	56
第 44 図	第 20 号・第 21 号住居跡 (SI-20・SI-21) ・第 20 号住居跡 (SI-20) カマド	42	第 66 図	第 11 号土坑 (SK-11)	56
第 45 図	第 20 号住居跡 (SI-20) 出土遺物	43	第 67 図	第 12 号土坑 (SK-12)	56
第 46 図	第 21 号住居跡 (SI-21) 出土遺物	43	第 68 図	第 13 号土坑 (SK-13)	57
第 47 図	第 22 号住居跡 (SI-22)	44	第 69 図	第 14 号土坑 (SK-14)	57
第 48 図	第 22 号住居跡 (SI-22) 出土遺物	45	第 70 図	第 15 号土坑 (SK-15)	57
第 49 図	第 23 号住居跡 (SI-23)	45	第 71 図	第 16 号土坑 (SK-16)	57
第 50 図	第 23 号住居跡 (SI-23) 出土遺物	45	第 72 図	第 17 号土坑 (SK-17)	57
第 51 図	第 1 号円形周溝 (SZ-01)	46	第 73 図	第 18 号土坑 (SK-18)	57
第 52 図	第 1 号円形周溝 (SZ-01) 出土遺物	47	第 74 図	第 19 号土坑 (SK-19)	58
第 53 図	第 1 号掘立柱建物跡 (SB-01)	48	第 75 図	第 20 号土坑 (SK-20)	58
第 54 図	第 2 号掘立柱建物跡 (SB-02)	49	第 76 図	第 21 号土坑 (SK-21)	58
第 55 図	第 3 号掘立柱建物跡 (SB-03)	50	第 77 図	第 25 号土坑 (SK-25)	58
第 56 図	第 4 号掘立柱建物跡 (SB-04)	51	第 78 図	第 1 号井戸跡 (SE-01)	59
第 57 図	第 1 号性格不明遺構 (SX-01)	52	第 79 図	第 1 号溝跡 (SD-01)	60
第 58 図	第 1 号性格不明遺構 (SX-01) 出土遺物	52	第 80 図	第 2 号溝跡 (SD-02)	61
第 59 図	第 1 号・第 3 号・第 6 号土坑 (SK-01・SK-02・SK-03)	55	第 81 図	ピット (1)	62
第 60 図	第 2 号土坑 (SK-02)	55	第 82 図	ピット (2)	63
第 61 図	第 4 号土坑 (SK-04)	55	第 83 図	ピット (3)	64
第 62 図	第 5 号土坑 (SK-05)	55	第 84 図	ピット (4)	65
			第 85 図	遺構外出土遺物	66
			第 86 図	検出遺構時期別分布図	69

表 目 次

第 1 表	第 1 号住居跡出土遺物観察表	14	第 13 表	第 16 号住居跡出土遺物観察表	38
第 2 表	第 4 号住居跡出土遺物観察表	15	第 14 表	第 17 号住居跡出土遺物観察表	39
第 3 表	第 2 号住居跡出土遺物観察表	16	第 15 表	第 18 号住居跡出土遺物観察表	41
第 4 表	第 3 号住居跡出土遺物観察表	18	第 16 表	第 20 号住居跡出土遺物観察表	43
第 5 表	第 5 号住居跡出土遺物観察表	20	第 17 表	第 21 号住居跡出土遺物観察表	43
第 6 表	第 9 号住居跡出土遺物観察表	26	第 18 表	第 22 号住居跡出土遺物観察表	45
第 7 表	第 10 号住居跡出土遺物観察表	26	第 19 表	第 23 号住居跡出土遺物観察表	45
第 8 表	第 11 号住居跡出土遺物観察表	28	第 20 表	第 1 号円形周溝出土遺物観察表	47
第 9 表	第 12 号住居跡出土遺物観察表	30	第 21 表	第 1 号性格不明遺構出土遺物観察表	52
第 10 表	第 13 号住居跡出土遺物観察表	32	第 22 表	ピット計測表	65
第 11 表	第 14 号住居跡出土遺物観察表	35	第 23 表	遺構外出土遺物観察表	66
第 12 表	第 15 号住居跡出土遺物観察表	38			

図版目次

- 卷頭図版 調査区全景（合写真上空より 左が北） 調査区全景（合写真上空より 上が北）
- 図版 1 第1号住居跡（SI-01）検出状況（南から） 第2号住居跡（SI-02）検出状況（東から） 第3号住居跡（SI-03）検出状況（南から） 第4号住居跡（SI-04）検出状況（南から） 第5号住居跡（SI-05）検出状況（南から） 第6号住居跡（SI-06）検出状況（東から） 第7号住居跡（SI-07）検出状況（南西から） 第8号住居跡（SI-08）検出状況（東から）
- 図版 2 第9号住居跡（SI-09）検出状況（南から） 第10号住居跡（SI-10）検出状況（南から） 第11号住居跡（SI-11）検出状況（南から） 第12号住居跡（SI-12）検出状況（南から） 第13号住居跡（SI-13）検出状況（南から） 第14号住居跡（SI-14）検出状況（南から） 第15号住居跡（SI-15）検出状況（東から） 第16号住居跡（SI-16）検出状況（東から）
- 図版 3 第17号住居跡（SI-17）検出状況（西から） 第18・19号住居跡（SI-18・19）検出状況（南から） 第20号住居跡（SI-20）検出状況（南から） 第21号住居跡（SI-21）検出状況（東から） 第22号住居跡（SI-22）検出状況（東から） 第23号住居跡（SI-23）検出状況（東から） 第1号円形周溝（SZ-01）検出状況（東から） 第1号掘立柱建物跡（SB-01）検出状況（南から）
- 図版 4 第2号掘立柱建物跡（SB-02）検出状況（南から） 第3号掘立柱建物跡（SB-03）検出状況（南から） 第4号掘立柱建物跡（SB-04）検出状況（東から） 第1号性格不明遺構（SX-01）検出状況（北から）
- 図版 5 第1号井戸跡（SE-01）土層断面（北から） 第1号井戸跡（SE-01）検出状況（北から） 基本層序（北から）
- 図版 6 第1号住居跡（SI-01）出土遺物 第2号住居跡（SI-02）出土遺物 第3号住居跡（SI-03）出土遺物
- 図版 7 第4号住居跡（SI-04）出土遺物 第5号住居跡（SI-05）出土遺物
- 図版 8 第9号住居跡（SI-09）出土遺物
- 図版 9 第10号住居跡（SI-10）出土遺物 第11号住居跡（SI-11）出土遺物 第12号住居跡（SI-12）出土遺物 第13号住居跡（SI-13）出土遺物
- 図版 10 第14号住居跡（SI-14）出土遺物 第15号住居跡（SI-15）出土遺物 第16号住居跡（SI-16）出土遺物 第17号住居跡（SI-17）出土遺物
- 図版 11 第18号住居跡（SI-18）出土遺物 第20号住居跡（SI-20）出土遺物 第21号住居跡（SI-21）出土遺物 第22号住居跡（SI-22）出土遺物 第23号住居跡（SI-23）出土遺物 第1号円形周溝（SZ-01）出土遺物 第1号性格不明遺構（SX-01）出土遺物遺構外出土遺物

1 はじめに

(1) 調査に至る経緯

平成 30 年 11 月 2 日付で栃木トヨタ自動車株式会社（代表取締役社長 新井将能）より宇都宮市インターパーク四丁目 2-7 の西刑部西原遺跡（県番号 4354）内での店舗建設に伴い、文化財保護法第 93 条の届出が提出された。11 月 7 日付で市教育委員会文化課から県教育委員会文化財課（以下、県文化財課）へ進達し、これに対し、県文化財課より確認調査の必要があるとの指示が 11 月 15 日付であったため、事業者である栃木トヨタ自動車株式会社の担当者及び事業者代理人である株式会社フケタ設計の担当者と協議し、確認調査を実施することになった。

確認調査は、12 月 17 日から 21 日まで実施した。調査の方法は、建物建設が予定されている場所に、9 本のトレンチを設定し、遺構の有無を確認した。調査の結果、竪穴住居跡 18 軒のほか、溝跡、多数の土坑・小穴等を確認し、遺物としては、土器片が多数出土した。

その後、この調査結果を平成 31 年 1 月 9 日に事業者側に通知し協議した結果、工法等の事業計画の変更は難しいとの結論に至ったため、記録保存のための発掘調査を実施することになった。発掘調査の費用に関しては、事業者である栃木トヨタ自動車株式会社が負担することになり、2 月 12 日付で宇都宮市教育委員会教育長水越久夫と埋蔵文化財発掘調査に関する覚書の交換を行った。

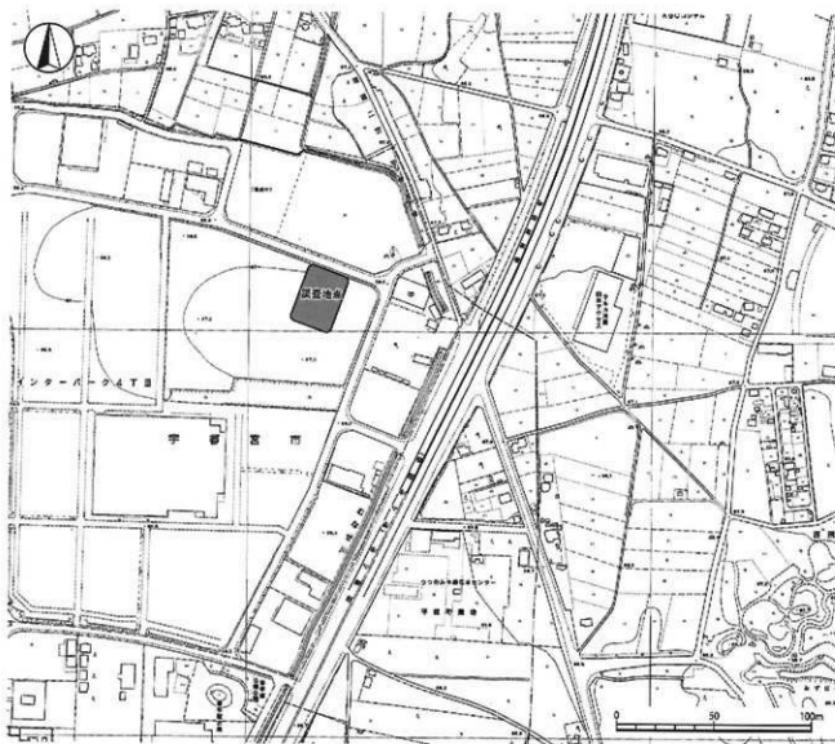
これを受けて、事業者は株式会社東京航業研究所（以下、「受託業者」という。）と発掘調査業務の委託契約を締結し、この契約に基づき、受託業者から平成 31 年 2 月 22 日付で文化財保護法第 92 条第 1 項に規定する「埋蔵文化財発掘調査の届出」が提出された。発掘調査は、この届出に基づき、市教育委員会指導の下、実施することになった。

(2) 発掘調査の経過

発掘調査は、平成 31 年 3 月 6 日から開始し、6 月 14 日に終了した。3 月 4 日は機材を搬入し、6 日より調査区西側半分を対象として重機による表土掘削を開始した。盛土層が 2 m 以上に及ぶため、表土掘削作業に際しては掘削面の安全法面への対策を十分に行なった。廃土は、調査区東側の後半に調査予定の場所に整形して仮置きした。重機による表土掘削は 3 月 20 日に終了した。3 月 12 日より、人力による検出面の遺構確認を調査区北西側から開始した。検出面の精査に際しては、試掘調査により竪穴住居跡などの遺構が検出されていたため、遺構配置に注意し試掘調査のトレーニングを検出しながら、遺構確認を実施した結果、竪穴住居跡、土坑やピット、溝などが検出された。

3 月 19 日に、調査区内への原点移動、ベンチマーク設定、グリッド杭設置の作業を実施した。3 月 20 日から、人力による遺構の掘削、図面作成作業を開始した。5 月 7 日に、廃土置場確保のため、宇都宮市教育委員会立ち合いによる北西側の調査区の 1 回目の調査終了確認の検査を実施した。翌 8 日より重機による掘削と埋め戻しを開始し、残りの遺構の掘削、精査、測量作業を実施した。

5 月 27 日に廃土置場確保の必要性から、宇都宮市教育委員会立ち合いによる 2 回目の調査終了確認の検査を実施した。検査の後、埋め戻しを実施し、残りの遺構の掘削、精査、記録作業、測量作業を実施した。重機の作業は、埋め戻し作業が終了次第、東側の調査区の掘削を開始し、検出面の遺構確認と精査を順次開始し、検出遺構の掘削、精査、図面作成、記録作業、測量作業を実施した。6 月 5 日に宇都宮市教育委員会立ち合いによる調査終了確認の最終検査を実施し、基本土層の図面、注記の作成、残りの遺構の掘削、精査、記録、測量作業、空撮、片づけ作業を実施し発掘作業を終了した。重機による埋め戻し作業は、6 月 14 日に終了した。



第1図 本調査範囲と周辺の地形

2 遺跡の位置と環境

(1) 地理的環境

西刑部西原遺跡は、宇都宮市南東部、JR宇都宮駅から南東へ約7.5km、北関東自動車道上三川ICの北約1.3kmに位置している。栃木県の地勢を見ると北西部に位置する日光山塊や北東部に位置する八溝山塊に端を発する河川が県中央部から南部にかけて南流している。また、これらの河川の浸食により南北に長い河岸段丘が発達している。鬼怒川中流域両岸では何段かのそれが確認でき、上位の宝積寺台地、中位の宝木台地、低位の田原台地と呼称されている。これらのうち田原台地では鹿沼輕石層の堆積は見られないことから、その下限が3.2万年前をさかのぼることはない。中位から上位の台地は鹿沼輕石層を確認でき、これらの台地の形成の古さを物語っている。

本遺跡は、日光山塊に端を発する鬼怒川と田川にはさまれた岡本・磯岡台地上に位置している。岡本・磯岡台地は宝木台地相当の中位段丘で、西側で低位段丘である田原台地と接し、東側は鬼怒川低地を臨む。遺跡はこの岡本・磯岡台地の南東部の段丘面上の平坦部に立地し、西側およそ0.9kmが田原台地との崖線に

なる。標高は 87m 程である。

周辺は、かつては田畠や山林が広がっていたが、国道 4 号線バイパスや北関東自動車道上三川 IC の建設やそれに付随したインターパークの開発事業によりその様子を大きく変えている。またこれらの事業に伴い多くの遺跡が調査された場所でもある。

(2) 歴史的環境

西刑部西原遺跡周辺では北関東自動車道、4 号線バイパス、インターパーク建設に先立ち数多くの遺跡が発掘調査されている。大規模な面積を発掘したものが多く、複数時期にわたる遺跡も多い。以下、時代ごとにその概要を述べることにする。

旧石器時代

田原台地（低位段丘）に位置する磯岡北遺跡（37）・磯岡遺跡（51）・砂田遺跡（24）から少數の製品・未製品・剥片等が出土している。また、権現山遺跡（45）では石器集中区が 2 箇所調査され、ナイフ型石器や剥片が出土している。西赤堀遺跡（50）では、石器集中区が 6 箇所調査され、尖頭器・スクレーパー・グレイバーが出土している。

縄文時代

草創期から前期にかけては遺物のみ或いは陥穴・土坑などが少數調査されている。その中で杉村遺跡（43）では、早期撚糸文系土器後半の可能性のある竪穴状造構と梢円形の深い土坑が調査されている。同遺跡では早期の遺物として、撚糸文系土器・沈線文系土器・条痕文系土器が出土している。そのほか砂田遺跡・立野遺跡（35）・磯岡遺跡で同様に早期の土器が出土している。また、遺物は出土していないが、西刑部西原遺跡をはじめ、畠中に今市・七本桜軽石を含む落し穴と思われる遺構が検出されている。

中期では、磯岡遺跡・磯岡北遺跡でそれぞれ阿玉台式期の住居跡が 1 軒、中島笠塚遺跡（32）で加曾利 E I 式期の住居跡が 1 軒、立野遺跡で土坑が見つかっている。地形的な制約からであろうか、この周辺では大規模集落はないと思われる。大規模な遺跡は地図外になるが、岡本・磯岡台地の南東部の鬼怒川台地を臨む島田遺跡で阿玉台 I b ~ 加曾利 E II 式の集落が営まれている。

後期～晚期にかけても周辺では大きな遺跡は見られず、後期の遺構は西赤堀遺跡で称名寺式期の住居跡が、立野遺跡で堀之内 I 式期の土坑が見つかっている。晚期では権現山遺跡で大洞 C 2 式期の住居跡が 1 軒調査されているという。その他は、遺物が出土しているに過ぎない。

弥生時代

前期は権現山遺跡で変形工字文を描く甕が、百目鬼遺跡（58）でも前期末から中期初頭に比定される土器が出土している。

中期では、後半になると遺物・遺構が増えてくる。磯岡北遺跡で中期後半の住居跡および土坑が調査されている。特に第 3 号土坑からは御新田段階から上山段階の土器に伴って福島県に故地をもつ二本同時施文具による渦巻き文を描く土器が出土している。広域編年を考える上で貴重な共伴事例である。立野遺跡でも遺物は少ないが中期後半の土坑が検出されている。権現山遺跡では中葉から後半にかけての資料が遺構には伴わないがやまとまって出土している。

後期では、二軒屋式期の住居跡が 2 軒見つかっている瑞穂野団地遺跡（17）や、杉村遺跡で二軒屋式期の浅い皿状の土坑が 1 基検出されている。また、権現山遺跡ではアメリカ式石鎌が出土している。

古墳時代

古墳時代になると集落・古墳共に数多く営まれることになる。ただし、その萌芽は中期以降であり、前期に相当する遺跡は少ない。前期の遺跡は、砂田姥沼遺跡（31）・砂田東遺跡（22）・立野遺跡で少數の竪穴住居跡が知られている。杉村遺跡では前期末の住居跡から管玉が出土している。

中期になると大規模な集落が営まれる。成願寺遺跡（15）・砂田遺跡・砂田東遺跡・立野遺跡・杉村遺跡・



第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡

磯岡遺跡・権現山遺跡など、広範囲にわたり多数の遺跡が見つかっている。また、規模の大きな集落が営まれるのも特徴的である。中期後半～後期初頭の杉村遺跡では住居の中央付近にカマドが築かれる、所謂初期カマドをもつ住居が存在する。権現山遺跡・百目鬼遺跡では、中期から後期にかけて、地点を変え継続的に集落が営まれている。また、在地の土器に伴いTK 208・23・47型式に平行する須恵器が出土している。住居跡から出土したTK 208並行型式の須恵器は棟名ニツ岳渋川テフラ(Hr-FA)の下層から出土し、地域間の土器の並行関係や実年代を考える上で大きな指標となる。中期の集落では権現山遺跡で石製模造品が多数見つかっている。

集落遺跡の増加とともに古墳も多数築かれるようになる。中期の古墳としては5世紀第3四半期頃と思われる笠塚古墳(55)がある。全長約100mの前方後円墳で同時期の県内最大規模の古墳である。また、笠塚古墳より若干後出するとと思われる鶴舞塚古墳(57)が築かれる。

後期の古墳としては、墳長52mの前方後円墳で二重周溝をもつ6世紀初頭の琴平塚古墳(36)、円墳である松の塚古墳(59)、6世紀後半の帆立貝形前方後円墳である孤塚古墳(磯岡・西汗2号墳)(64)、前方後円墳である飯塚古墳(13)、下桑島西原遺跡(19)、磯岡・西汗古墳群(62)がある。また、詳細は不明であるが、東原古墳群(7)で前方後円墳が2基、さるやま城古墳群(8)で前方後円墳が2基を含む古墳が存在する。

権現山遺跡では、A区の北側低地部の東側で居館跡が見つかっている。全体の規模は不明であるが、居館を囲む溝跡が検出され、一辺約100mほどである。溝の内側には柵列が回り、溝と軸方向を同じくする掘立柱建物跡も検出されている。時期は5世紀後葉とされ、報告書では、同居館の主の奥津城として鶴舞塚古墳あるいは松の塚古墳が挙げられている。

古代

大規模な集落として猿山遺跡(18)・砂田遺跡・大闖台遺跡(25)・瑞穂野団地遺跡が挙げられる。磯岡遺跡では漆紙文書が見つかっている。

また、このことに連して、古代の東山道と想定された道路跡が、権現山遺跡・杉村遺跡・杉村北遺跡・磯岡北遺跡で見つかっている。道路の両端に側溝を持つもので東北→南西方位に直線的に見つかっている。側溝の土層の観察から、何回かの溝の掘り直しが認められ、道路の補修等が行われている。

中世

鎌倉時代から室町時代にかけて本遺跡周辺地域は宇都宮氏および芳賀氏の支配地域とされている。同時期の城郭としてさるやま城遺跡(46)・高島館跡(49)が知られている。

1 西刑部西原遺跡	15 成願寺遺跡	29 中道遺跡	42 内野遺跡	55 笠塚古墳
2 大久保台山遺跡	16 藤原遺跡	30 後尚塚遺跡	43 杉村遺跡	56 原古墳群
3 天王山遺跡	17 瑞穂野団地遺跡	31 砂田姫沼遺跡	44 桜橋背高塚	57 鶴舞塚古墳
4 猿山東原遺跡	18 猿山遺跡	32 中島笠塚遺跡	45 権現山遺跡	58 百目鬼遺跡
5 柿木坂遺跡	19 下桑島西原遺跡	33 赤沢高塚群	46 さるやま城遺跡	59 松の塚古墳
6 上桑島西原庚申塚	20 南原古墳	34 芦内遺跡	47 下小里原遺跡	60 権現塚古墳群
7 東原古墳群	21 下桑島西原南遺跡	35 立野遺跡	48 南浦遺跡	61 車塚古墳群
8 さるやま城古墳群	22 砂田東遺跡	36 琴平塚古墳群	49 高島館跡	62 磯岡・西汗古墳群
9 菅谷遺跡	23 砂田滝遺跡	37 磯岡北遺跡	50 西赤堀遺跡	63 西赤堀東遺跡
10 赤沢遺跡	24 砂田遺跡	38 西沼遺跡	51 磯岡遺跡	64 孤塚古墳(磯岡・西汗2号墳)
11 楠木西台古墳群	25 大闖台遺跡	39 古里原高塚群	52 石田古墳群	65 西赤堀南遺跡
12 桑島台古墳群	26 大闖高塚群	40 不動堂遺跡	53 原遺跡	66 磯岡B遺跡
13 飯塚古墳	27 小屋原遺跡	41 平塚原根岸遺跡	54 双子塚古墳	67 上石田遺跡
14 成願寺北遺跡	28 桜戸遺跡			

3 調査の方法と成果

(1) 調査の方法

調査区は北側に開口する「コ」の字状を呈している。調査は、段土置き場のスペース確保のため西側、南側、東側の3箇所に分割して実施した。表土除去後、遺構確認を行い、各検出遺構に対して土層観察用ベルトを設定し遺構の調査を行った。遺構内から出土した遺物は、覆土中の小片に関しては遺構毎に一括で取り上げ、床面やカマド出土遺物などに関してはその出土位置の記録及び撮影を行った。

平面図及び断面図は、原則縮尺1:20で手取りし、一部の遺構に関しては写真測量を併用した。写真は遺構毎に適宜撮影し、完掘後調査区毎に空中撮影を行った。写真は35mmモノクロ・リバーサルフィルム及びデジタルカメラで撮影した。

(2) 層序

調査区E-6グリッドの南壁中央部にトレーナーを設け、基本層序を観察した。Ia層は表土で厚い盛土であり2m以上の層厚を有する。Ib層以下は、黒ボク土で黒味が強い色調のシルト質土である。この黒ボク土は、土壤群の分類では、層厚黒ボク土壌、赤井統(Aki)と称される風成土壤で強粘質、あるいは粘質の土質の特徴を持っている(栃木県1984)。この黒ボク土は、中位段丘の磯岡台地の遺跡の所在地およびその周辺のみの、極めて限られた地理的範囲に分布する土壤である。

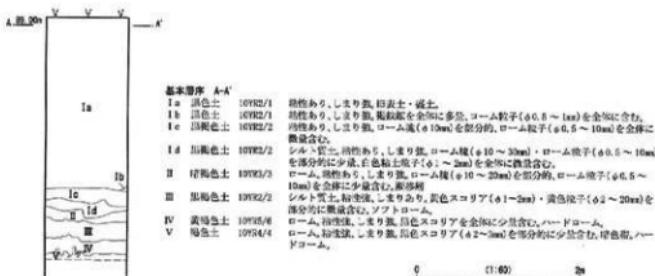
Ib層は部分的に確認された黒色土で褐鉄鉱の作用によるものか、やや赤みがある色調で、下位の黒ボク土と色調が明確に区別される淘汰の良いシルト質土である。

Ic層、Id層は黒褐色土である。Ic層は黒味の強い黒褐色土であるが、ローム層の含有量が少ない影響か、Ib層とId層とは色調で明確に区別される淘汰の良いシルト質土である。

Id層は、粗粒の白色粒子($\phi 1 \sim 2\text{ mm}$)を全体に微量に含む、ローム層の含有量の影響か、やや色調が褐色気味の淘汰の良いシルト質土である。含有される粗粒の白色粒子は、地域火山灰由来の火山灰が土壤化したものである可能性がある。

II層は、暗褐色土の黒ボク土とローム層の漸移層である。Id層の沈み込みにより層の境界が不明確で、黒ボク土がボール状に含まれる、粒度がやや粗い土層である。

III層より下位はローム層である。III層は黄橙色土のソフト・ローム層でやや粗粒である。IV層は明色の黄橙色土のハード・ローム層、V層は褐色土のハード・ローム層であるが、氷性土壤カクランの影響で分層線が激しく乱れている。土層の色調が暗色なので始良Tn火山灰(AT)より上位の第1暗色帯の可能性がある。



第3図 基本層序



第4図 調査区全体図

(3) 遺構と遺物

今回の調査では、住居跡 23 軒、円形周溝 1 基、掘立柱建物跡 4 棟、性格不明遺構 1 基、土坑 22 基、井戸 1 基、溝跡 2 条、ピット 32 基が検出された。掘立柱建物跡のうち、第 4 号掘立柱建物跡は整理作業時に土坑（第 22 ~ 24 号土坑）を変更したものである。遺物は 27 ℥ テンバコで 10 箱分である。

1. 住居跡 (SI)

住居跡は、古墳時代中期に属するものが 1 軒、古墳時代後期に属するものが 9 軒、奈良時代に属するものが 3 軒、平安時代のものが 5 軒、時期不明のものが 5 軒である。

第 1 号住居跡 (SI-01) (第 5 ~ 7 図・第 1 表)

C-1 グリッドに位置する。カマドの一部が僅かに北側調査区外へ続く。東側で第 4 号住居跡 (SI-04) を壊す。平面形は隅丸長方形を呈し、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。規模は長軸 4.00m、短軸 3.28m、深さ 0.40m、長軸方位は N - 83° - E を測る。床面はトレンチャーにより激しく擾乱されていたが、概ね平坦である。付帯施設は北壁東寄りにカマド、南東角にピットが検出された。

遺物は 6 点を掲載した。1・2 は土師器の坏、3 は須恵器の坏である。4~6 は土師器の壺、4 はカマドから出土している。3 は流れ込みと思われる。

古墳時代後期の帰属が推定される。

第 2 号住居跡 (SI-02) (第 9・10 図・第 3 表)

B-2 グリッドに位置する。西側は調査区外へ続く。平面形は隅丸方形が推定される。壁面は直線的にやや外反して立ち上がる。規模は長軸 3.30m 以上、短軸 1.66m 以上、深さ 0.30m、長軸方位は N - 6° - E を測る。床面はトレンチャーにより激しく擾乱されていたが、概ね平坦である。付帯施設は北壁東角寄りに粘土や焼土が塊状に検出されており、破壊されたカマドの痕跡が推定される。

遺物は 3 点を掲載した。1~3 は土師器の坏、1 は覆土中から、2・3 は床面直上から出土している。

古墳時代後期の帰属が推定される。

第 3 号住居跡 (SI-03) (第 11 ~ 13 図・第 4 表)

C-2 グリッドに位置する。平面形は隅丸台形を呈する。壁面は直線的にやや外反して立ち上がる。南西側で第 1 号不明遺構 (SX-01) を壊す。規模は長軸 5.09m、短軸 4.92m、深さ 0.47m、長軸方位は N - 25° - E を測る。床面はトレンチャーにより激しく擾乱されていたが、概ね平坦である。付帯施設は北壁にカマド、周溝は全周する。ピットは 9 基が検出され、P1 ~ P4 が主柱穴、南壁中央の P5 ~ P8 は入口施設に関係することが考えられる。

遺物は 6 点を掲載した。1 は土師器の坏、2~6 は土師器の壺である。5 は匂の可能性もある。2~4 は常総型壺、2 は床面直上、5 がカマドから出土している。

床面直上から出土した 2 から、奈良時代の帰属が推定される。

第 4 号住居跡 (SI-04) (第 5・6・8 図・第 2 表)

C-1 グリッドに位置する。北側は調査区外へ続く。西側を第 1 号住居跡 (SI-01) に壊される。平面形は方形が推定される。規模は長軸 3.04m 以上、短軸 1.24m 以上、深さ 0.56m、長軸方位は N - 6° - E を測る。床面はトレンチャーにより激しく擾乱されていたが、概ね平坦である。付帯施設は未検出である。

遺物は 3 点を掲載した。いずれも覆土中から出土しており 1 は土師器の壺、2 は土師器高坏の脚部である。3 は土製勾玉である。

古墳時代中期の帰属が推定される。

第5号住居跡 (SI-05) (第14・15図・第5表)

B・C-2グリッドに位置する。平面形は方形を呈する。壁面は直線的に外反して立ち上がる。南東側で第1号不明遺構 (SX-01) を壊す。規模は長軸4.80m、短軸4.30m、深さ0.52m、長軸方位はN-20°-Eを測る。床面はトレンチャーにより激しく攪乱されていたが、概ね平坦である。付帯施設は北壁にカマド、周溝は一部が残存するが、本来全周していたものと推定される。南西側の床面は一段下がる様相が確認され、造り替えや拡張などに関連する痕跡とも考えられる。

遺物は7点を掲載した。1は須恵器の壺、2・3は須恵器の高台付壺で同一個体の可能性がある。4は須恵器の壺、5~7は武藏型壺である。

平安時代の帰属が推定される。

第6号住居跡 (SI-06) (第16図)

A-3グリッドに位置する。平面形は方形が推定される。壁面は緩やかに外反して立ち上がる。西側は調査区外へ続く。規模は長軸3.31m以上、短軸0.90m以上、深さ0.26m、長軸方位はN-12°-Eを測る。床面はトレンチャーにより激しく攪乱されていたが、概ね平坦である。付帯施設は未検出であるが、北壁調査区外にカマドが構築されている可能性がある。

図示可能な遺物はない。

帰属時期は不明である。

第7号住居跡 (SI-07) (第17図)

C-2・3グリッドに位置する。平面形はやや不整な方形が推定される。壁面は緩やかに外反して立ち上がる。東側は試掘溝、第8号住居跡 (SI-08)、第1号円形周溝 (SZ-01) により壊される。規模は長軸4.12m以上、短軸3.82m以上、深さ0.24m、長軸方位はN-50°-Eを測る。床面はトレンチャーにより激しく攪乱されていたが、概ね平坦である。付帯施設は未検出である。

図示可能な遺物はない。

帰属時期は不明である。

第8号住居跡 (SI-08) (第17図)

C-2グリッドに位置する。平面形は不整形であるが、南壁がほぼ直線的に構築されており、本来は方形であった可能性も推定される。壁面は緩やかに外反して立ち上がる。東側は試掘溝に、東側および北側は第1号円形周溝 (SZ-01) により壊される。西側で第7号住居跡 (SI-07) を壊す。規模は長軸3.75m以上、短軸2.25m以上、深さ0.19m、長軸方位はN-88°-Wを測る。床面はトレンチャーにより激しく攪乱されていたが、概ね平坦である。付帯施設はピット1基が検出された。

図示可能な遺物はない。

帰属時期は不明である。

第9号住居跡 (SI-09) (第18~21図・第6表)

B-C-3グリッドに位置する。平面形は方形を呈する。壁面は直線的に立ち上がる。第10号住居跡 (SI-10) を重複して壊す。規模は長軸6.92m、短軸6.90m、深さ0.56m、長軸方位はN-12°-Eを測る。床面はトレンチャーにより激しく攪乱されていたが、概ね平坦である。付帯施設はカマド2基、ピット19基が検出された。カマドは北壁(第1カマド)と東壁(第2カマド)に構築される。P2、P3、P8は貯蔵穴が推定

される。P6, P7, P13～P15は入口施設に関係するものと思われる。

遺物は11点を掲載した。1・2は土師器の壺で内面黒色処理が施される。2は底部に「衣厨」の墨書がある。3は須恵器の高壺、4は須恵器の壺、5は灰釉陶器の小型壺、6～11はいずれも常縦型壺である。7は小型で底部に木葉痕が残る。2・4・6・7・9・10は床面直上、1・8・11はカマドから出土している。平安時代の帰属が推定される。

第10号住居跡(SI-10) (第18～20・22図・第7表)

B-2・3グリッドに位置する。平面形は方形を呈する。壁面は緩やかに外反して立ち上がる。南東側を中心に、第9号住居跡(SI-09)に重複して壊される。規模は長軸5.96m、短軸5.70m、深さ0.36m、長軸方位はN-3°-Eを測る。床面はトレンチャーにより激しく攢乱されていたが、概ね平坦である。付帯施設は北壁にカマド、主柱穴が推定されるピット2基が検出された。

遺物は3点を掲載した。1・2は土師器の壺、3は土師器の壺である。3は床面直上から出土している。古墳時代後期の帰属が推定される。

第11号住居跡(SI-11) (第23～25図・第8表)

B・C-3・4グリッドに位置する。平面形は方形を呈する。壁面は直線的にやや外反して立ち上がる。東側は試掘溝に壊され、西側は第12号住居跡(SI-12)を、東側および南側では第13号住居跡(SI-13)をそれぞれ壊す。規模は長軸4.09m、短軸3.69m以上、深さ0.48m、長軸方位はN-8°-Eを測る。床面は概ね平坦である。付帯施設は北壁にカマド、ピット4基が検出された。周溝は東壁と北壁西側、南壁で検出された。

遺物は4点を掲載した。1・2は土師器の壺、3は土師器の壺、4は須恵器の壺である。1は床面から、3はカマドから出土している。

奈良時代の帰属が推定される。

第12号住居跡(SI-12) (第26～28図・第9表)

B-4グリッドに位置する。平面形は方形を呈する。壁面は緩やかに外反して立ち上がる。北東角を第11号住居跡(SI-11)に、南側は攢乱により壊される。規模は長軸5.39m、短軸5.10m、深さ0.42m、長軸方位はN-18°-Eを測る。床面はトレンチャーにより激しく攢乱されていたが、概ね平坦である。付帯施設は北壁にカマド、主柱穴のピット2基が検出された。周溝は西壁で検出された。

遺物は3点を掲載した。1は土師器の壺、2は台付壺の接続部が推定される。3は須恵器の壺である。1・2は床面から出土している。

古墳時代後期の帰属が推定される。

第13号住居跡(SI-13) (第29～31図・第10表)

C-4グリッドに位置する。平面形は方形が推定される。壁面は直線的に立ち上がる。西側は第11号住居跡(SI-11)と試掘溝に壊される。規模は長軸5.36m、短軸3.37m以上、深さ0.45m、長軸方位はN-10°-Eを測る。床面は概ね平坦である。付帯施設は北壁にカマド、北東側に2箇所の貯蔵穴、ピット7基が検出された。P1～P4は主柱穴である。

遺物は5点を掲載した。1・2は土師器の壺、3・4は土師器の壺、5は土師器の壺である。3～5は床面から出土している。

古墳時代後期の帰属が推定される。

第14号住居跡 (SI-14) (第32～34図・第11表)

B・C・4・5グリッドに位置する。平面形は方形を呈する。壁面は直線的に立ち上がる。北西角付近を搅乱され、南側で第15号住居跡 (SI-15) を壊す。規模は長軸 5.10m, 短軸 4.54m, 深さ 0.31m, 長軸方位は N - 22° - E を測る。床面は概ね平坦である。付帯施設は北壁にカマド、主柱穴が推定されるピット2基、周溝は北壁を除き検出された。

遺物は10点を掲載した。1～4は土師器の壺、5は土師器の高盤、6・7は須恵器の壺、8は須恵器の甕、9・10は土師器の甕である。1～7および10は床面直上、9はカマドから出土している。

奈良時代の帰属が推定される。

第15号住居跡 (SI-15) (第35～37図・第12表)

B・C・4・5グリッドに位置する。平面形は方形を呈する。壁面は直線的に立ち上がる。北側で第14号住居跡 (SI-14) に壊される。規模は長軸 6.24m, 短軸 6.01m, 深さ 0.56m, 長軸方位は N - 3° - E を測る。床面は概ね平坦である。付帯施設は北壁にカマド、ピットは10基が検出され、P1～P4が主柱穴、南壁中央のP6・P8は入口施設に関係することが推定される。周溝は全周する。カマドは第14号住居跡 (SI-14) によりほぼ削平されており、掘り方が僅かに確認されたのみである。

遺物は6点を掲載した。1は須恵器の蓋と思われる。2・3は土師器の壺、4・5は土師器の甕、6は無茎の鉄鑓で穿孔1箇所が確認される。1～4は床面直上から出土している。

古墳時代後期の帰属が推定される。

第16号住居跡 (SI-16) (第38・39図・第13表)

B・4グリッドに位置する。平面形は方形が推定される。壁面は緩やかに外反して立ち上がる。西側は調査区外へ続く。規模は長軸 3.09m 以上、短軸 0.80m 以上、深さ 0.33m、長軸方位は N - 12° - E を測る。床面は概ね平坦である。付帯施設はピット1基が検出され、貯蔵穴と推定される。

遺物は1点を掲載した。1は土師器の壺である。覆土中から出土したことから、本遺構に関係するものではないと推定される。

帰属時期は不明である。

第17号住居跡 (SI-17) (第40・41図・第14表)

D・E・6グリッドに位置する。平面形は方形が推定される。壁面は直線的にやや外反して立ち上がる。南側は調査区外へ続く。北東側は搅乱される。規模は長軸 6.30m、短軸 2.82m 以上、深さ 0.41m、長軸方位は N - 88° - E を測る。床面は概ね平坦である。付帯施設は土坑1基(SK1)、ピットは6基が検出された。P1・P3・P5・P6に柱穴の可能性がある。周溝は確認部分全体に検出されるが、北壁中央付近で途切れる様相が見られることから搅乱部分にカマドが構築されていた可能性がある。

遺物は1点を掲載した。1はP3から出土した土師器の壺である。

古墳時代後期の帰属が推定される。

第18号・第19号住居跡 (SI-18・SI-19) (第42・43図・第15表)

E・4グリッドに位置する。平面形は方形を呈する。壁面は緩やかに外反して立ち上がる。北側は調査区外へ続く。第19号住居跡 (SI-19) を第18号住居跡 (SI-18) が重複するように壊して検出された。規模は第18号住居跡が長軸 4.08m、短軸 3.80m、深さ 0.30m、長軸方位は N - 10° - E、第19号住居跡が長軸 4.46m、短軸 4.00m、深さ 0.27m、長軸方位は N - 78° - W を測る。床面は概ね平坦であるが、第19号住居跡の床面が一段高い。付帯施設は南壁中央部に2基のピットが検出され、入口施設に伴う可能性がある。

遺物は第18号住居跡出土の5点を掲載した。1は須恵器の壺、2は土師器の高台付壺、3・4は土師器の壺、5は平瓦である。

第18号住居跡は平安時代の帰属が推定され、第19号住居跡は時期不明である。

第20号住居跡 (SI-20) (第44・45図・第16表)

E-4グリッドに位置する。平面形は方形が推定される。壁面は直線的にやや外反して立ち上がる。西側は調査区外へ続く。北側で第21号住居跡(SI-21)を壊す。規模は長軸3.65m、短軸2.15m以上、深さ0.25m、長軸方位はN-12°-Eを測る。床面は概ね平坦である。付帯施設は北壁にカマド、周溝はカマド付近を除き全周するものと思われる。ピットは4基が検出されたが、主柱穴と推定されるものはない。P4は入り口施設に関係する可能性が推定される。

遺物は2点を掲載した。1は土師器の壺、2は須恵器の壺、どちらも床面直上から出土している。

平安時代の帰属が推定される。

第21号住居跡 (SI-21) (第44・46図・第17表)

E-3・4グリッドに位置する。平面形は方形が推定される。壁面は直線的にやや外反して立ち上がる。西側は調査区外へ続く。南側で第20号住居跡(SI-20)に壊される。規模は長軸4.01m以上、短軸0.83m以上、深さ0.34m、長軸方位はN-10°-Wを測る。床面は概ね平坦である。付帯施設はピット2基が検出されたが、主柱穴と推定されるものはない。北東角部に焼土が検出されたことから、北壁調査区外にカマドが構築されている可能性がある。

遺物は1点を掲載した。1は土師器の壺、床面直上から出土している。

古墳時代後期の帰属が推定される。

第22号住居跡 (SI-22) (第47・48図・第18表)

E-3グリッドに位置する。平面形は方形を呈する。壁面は緩やかに外反して立ち上がる。東側は調査区外へ続く。北側の一部を攪乱され、北東角部をピット38に壊される。規模は長軸4.40m、短軸3.25m、深さ0.21m、長軸方位はN-80°-Wを測る。床面はトレンチャーにより激しく攪乱されていたが、概ね平坦である。付帯施設は北壁にカマド、周溝は西壁、南壁、東壁の一部に確認され、ピット3基(P1～P3)と貯蔵穴が推定される土坑1基(SK-1)が検出された。

遺物は1点を掲載した。1は土師器の壺、床面直上から出土している。

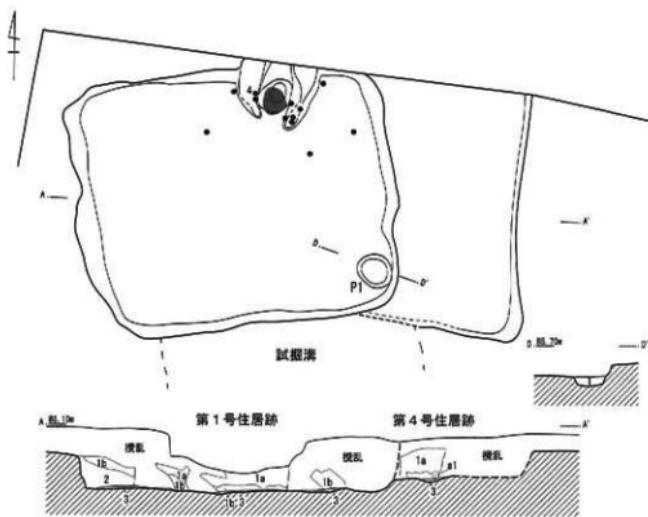
古墳時代後期の帰属が推定される。

第23号住居跡 (SI-23) (第49・50図・第19表)

E-2グリッドに位置する。平面形は方形が推定される。壁面は緩やかに外反して立ち上がる。西側は調査区外へ続く。規模は長軸3.57m、短軸2.42m以上、深さ0.32m、長軸方位はN-12°-Eを測る。床面はトレンチャーにより激しく攪乱されていたが、概ね平坦である。付帯施設は北壁にカマド、周溝はカマド付近を除き全周するものと思われる。

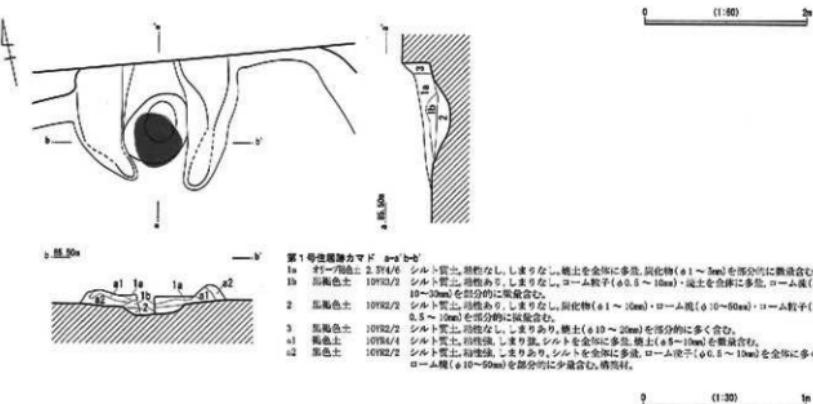
遺物は2点を掲載した。1は須恵器の壺、2は土師器の壺の把手である。1はカマドから出土している。

平安時代の帰属が推定される。

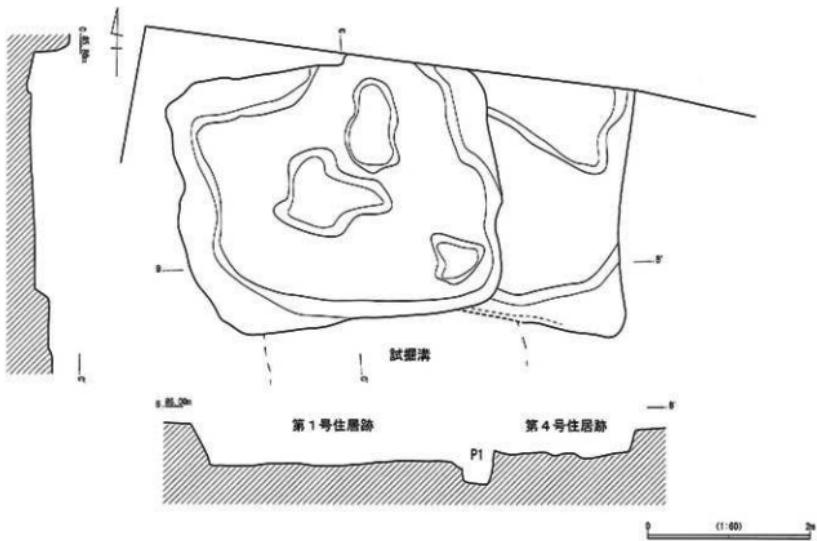


第1号住居跡・第4号住居跡 A-A'
 1a 黒褐色土 10TR2/2 シルト質土。粘性なし。しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全7%に多量。コーム塊($\phi 10 \sim 30\text{mm}$)を部分的に少量。堆土($\phi 3 \sim 30\text{mm}$)を部分的に含む。
 1b 黄褐色土 10TR2/2 シルト質土。粘性なし。しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全7%に多量。ローム塊($\phi 10 \sim 50\text{mm}$)・堆土($\phi 3 \sim 5\text{mm}$)を部分的に少量含む。
 2 黑褐色土 10TR2/2 シルト質土。粘性強。しまり強。シルトを全7%に多量。コーム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全7%に多く。ローム塊($\phi 10 \sim 50\text{mm}$)を部分的に少量含む。根張土。
 3 黄褐色土 10TR2/2 ローム。粘性なし。しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全7%に多量。ローム塊($\phi 10 \sim 30\text{mm}$)を部分的に少量含む。根張土。

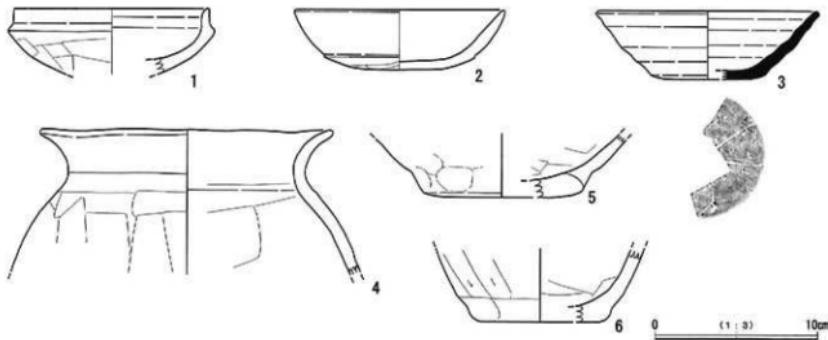
第1号住居跡 PI D-D'
 1 黑褐色土 10YR2/2 シルト質土。粘性あり。しまり強。コーム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多量。ローム塊($\phi 10 \sim 30\text{mm}$)を部分的に無量。シルト($\phi 1 \sim 10\text{mm}$)を部分的に含む。



第5図 第1号・第4号住居跡 (SI-01・SI-04)・カマド (SI-01)



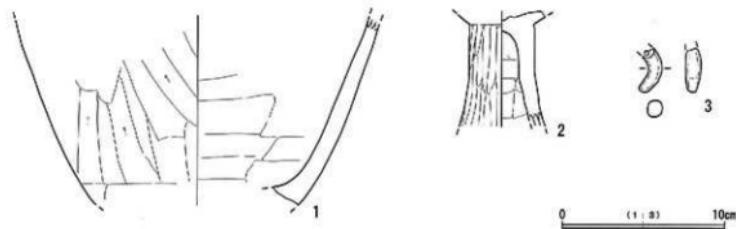
第6図 第1号・第4号住居跡 (SI-01・SI-04) 掘り方



第7図 第1号住居跡 (SI-01) 出土遺物

第1表 第1号住居跡出土遺物観察表

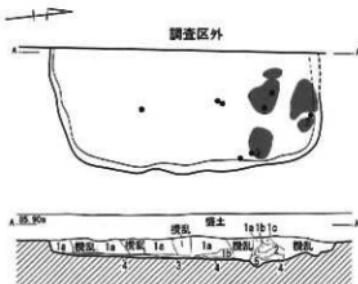
番号	種別	器種	残存 寸法 (cm)	底径 (cm)	柱洞 (cm)	柱洞 特徴	柱洞・特徴	黏土	色調	地成	出土位置	
1	土器	环	口部直径 (11.0)	-	(4.0)	口部内面：稍凹ナデ、体部外面：ヘラケズリ、体部内面：ヘラナデ・ナデ	白色灰・褐色 にぶい黄褐色	良	現土北東			
2	土器	环	口部直径 (12.0)	-	(3.7)	口部内面：稍凹ナデ、体部外面：ヘラケズリ、体部内面：ヘラナデ・ナデ	白色灰	良	現土北東			
3	灰土器	环	口部直径 (13.2)	(8.0)	(4.2)	内外面：ロクロ・ナデ、底部：周辺ヘラケズリ	白色灰・小粒 ナデ・ナデ	75734/1 乳白色	良	覆土灰		
4	土器	环	口部直径 (17.0)	-	(8.0)	口部外周：稍凹ナデ、底部外周：ヘラケズリ、周辺内面：ヘラナデ・ナデ	白色灰・褐色	75734/1 にぶい褐色	良	カマド		
5	土器	壳	底径	-	(9.6)	(3.0)	外縁：ヘラケズリ、内面：ヘラナデ・ナデ	白色灰	にぶい褐色	良	現土西	
6	土器	壳	底部	-	(7.6)	(4.5)	外縁：ヘラケズリ、内面：ヘラナデ・ナデ	白色灰・小粒	55735/4 にぶい褐色	良	現土	



第8図 第4号住居跡 (SI-04) 出土遺物

第2表 第4号住居跡出土遺物観察表

番号	相談	器種	残存	口径(cm)	深さ(cm)	特徴	技術・若歴	出土	色調	構成	出土位置
1	土解部	窓	外縁	-	-	(11.6)	外壁: ハラケズリ、内面: ハラナダ・ナダ	白色粒・小塊	SYR6/6 黒褐色	良	覆土
2	土解部	窓	脚部	-	-	(7.0)	外壁: 無モザイク、内面: ハラナダ	白色粒・無色	10YR5/2 灰青褐色	良	覆土
3	土器品	匂玉	上端部 欠損	長8 (2.7)	幅4 (1.4)	厚さ1.6	手捏ね形成	白色粒	10YR5/6 灰青褐色	良	覆土



第2号住居跡 A-A'

1a 黒褐色土 10YR2/1 シルト質土、颗粒あり、しまり強、礫土(φ1 ~ 20mm)を割合的に少含む。ローム粒子(φ0.5 ~ 10mm)を全土中に、ローム粒(φ0.5 ~ 7mm)を部分的に含む。

1b 黒褐色土 10YR2/1 シルト質土、颗粒あり、しまり強、シルトを全土に多く、ローム粒子(φ0.5 ~ 10mm)を全土中に含む。シルト質土、颗粒あり、しまり強、シルトを全土に多く含む。礫土(φ1 ~ 3mm)を部分的に含む。

1c 黑褐色土 10YR3/4 シルト質土、颗粒あり、しまり強、シルトを全土に多含む。礫土(φ1 ~ 3mm)を部分的に含む。

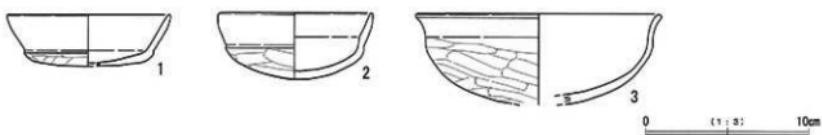
2 黒褐色土 10YR2/2 シルト質土、颗粒あり、しまり強、シルトを全土に多含む。礫土(φ3 ~ 50mm)を部分的に多含む。カット構成。

3 黑褐色土 10YR2/2 シルト質土、颗粒あり、しまり強、ローム粒子(φ0.5 ~ 10mm)を全体に多數含む。

4 黑褐色土 10YR2/2 シルト質土、颗粒あり、しまり強、ローム粒子(φ0.5 ~ 10mm)を全体に多く、ローム風を部分的に含む。シルトを部分的に多く、礫土を全体に含む。羅リ方粒土。

5 黑褐色土 10YR2/2 シルト質土、颗粒あり、しまり強、シルトを全土に多く、礫土を部分的に多く、ローム風(φ10 ~ 20mm)を割合的に少含む。ローム粒子(φ0.5 ~ 10mm)を全体に含む。

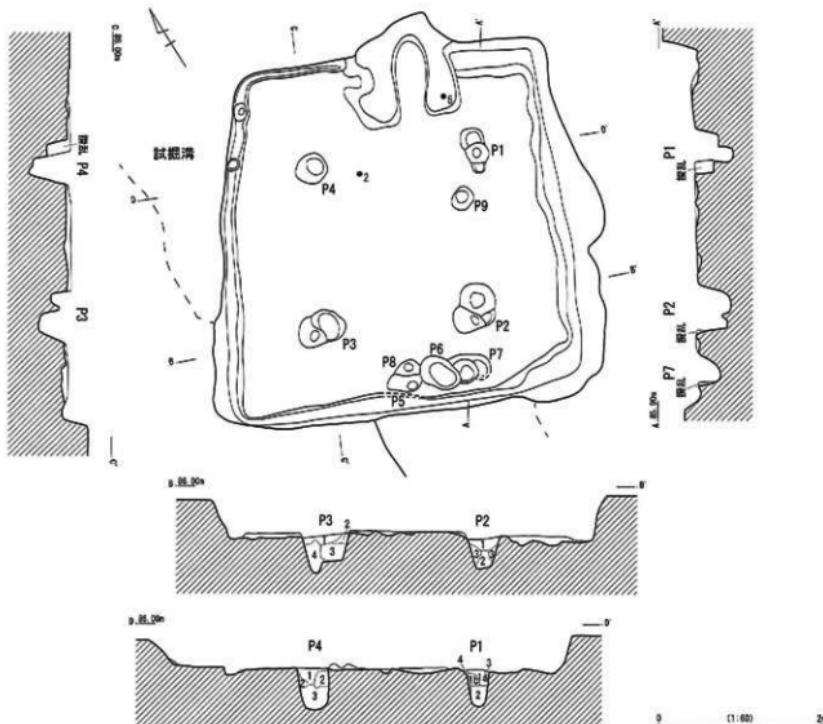
第9図 第2号住居跡 (SI-02)



第10図 第2号住居跡 (SI-02) 出土遺物

第3表 第2号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	説明	現存	口径 直径 底径 (cm)	高さ (cm)	性質	説明・特徴	地土	色調	焼成	出土位置
1	土師器	环	口縁部 底部 底面	(10.8)	-	3(2)	口縁内面：滑面ナガ。体部外面：ハラケナリ。体部内面：ヘラ ナダ・ナダ	白色粘	10786/2 に赤い斑状色	良	覆土
2	土師器	环	完形	9.4	-	4(1)	口縁内面：滑面ナガ。体部外面：ハラケナリ。体部内面：ヘラ ナダ・ナダ	白色粘・断色粘 砂	10786/2 に赤い斑状色	良	床面
3	土師器	环	口縁部 底部 底面	(14.8)	-	5(5)	口縁内面：滑面ナガ。体部外面：ハラケナリ。体部内面：ヘラ ナダ・ナダ。口縁外面～内面剥落付	白色粘	253V4/1 黄褐色	良	床面



第3号住居跡 P2 8-6'

- 黒褐色土 10782/2 シルト質土。粘性あり。しまり無し。ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、ローム塊(φ10~20mm)を部分的に散在含む。
- 褐褐色土 10782/3 ローム。粘性あり。しまりなし。ローム粒・コーム粒子を全体に多量含む。
- にじく美毛土 10785/4 ローム。粘性あり。しまりなし。ローム粒子を全体に多量含む。地土(φ1~3mm)を部分的に散在含む。

第3号住居跡 P3 8-6'

- 黒褐色土 10782/2 シルト質土。粘性なし。しまり無し。ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、ローム塊(φ10~20mm)を部分的に少量、地土(φ1~10mm)を部分的に散在含む。
- 褐褐色土 10782/4 シルト質土。粘性あり。しまりなし。ローム粒・コーム粒子を全体に多量含む。
- 褐褐色土 10782/5 ローム。粘性あり。しまりなし。ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、ローム塊を部分的に多量含む。シルトを部分的に散在含む。
- 黄褐色土 10785/5 ローム。粘性あり。しまり強。ローム塊・コーム粒子を全体に多量含む。

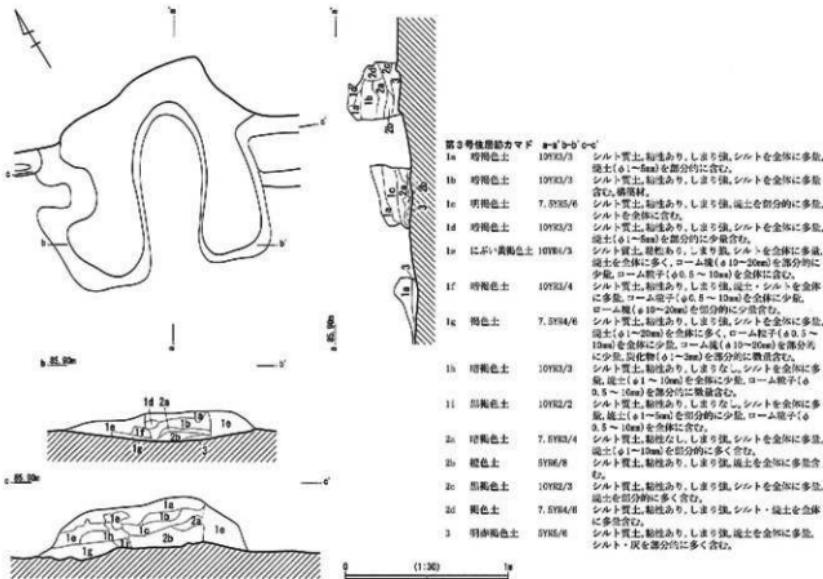
第3号住居跡 P4 8-6'

- 地場粘土 10782/2 シルト質土。粘性あり。しまりあり。シルトを全体に多量、コーム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、地土(φ1~10mm)を全体に、ローム塊(φ10~20mm)を部分的に含む。
- 褐褐色土 10782/2 シルト質土。粘性なし。しまりあり。シルト・ローム粒(φ10~30mm)を部分的に少量、地土(φ1~3mm)を部分的に混雜、ローム粒子(φ0.5~10mm)を部分的に含む。
- 褐色土 10784/6 シルト質土。粘性なし。しまりなし。ローム(φ10~20mm)・ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量含む。
- 褐褐色土 10782/3 シルト質土・ローム。粘性なし。しまりなし。ローム(φ10~50mm)を部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を多量、地土(φ1~10mm)を多く含む。
- 黄褐色土 10785/6 シルト質土・ローム。粘性なし。しまりなし。ローム(φ0.5~10mm)を全体に多量、ローム塊を部分的に含む。

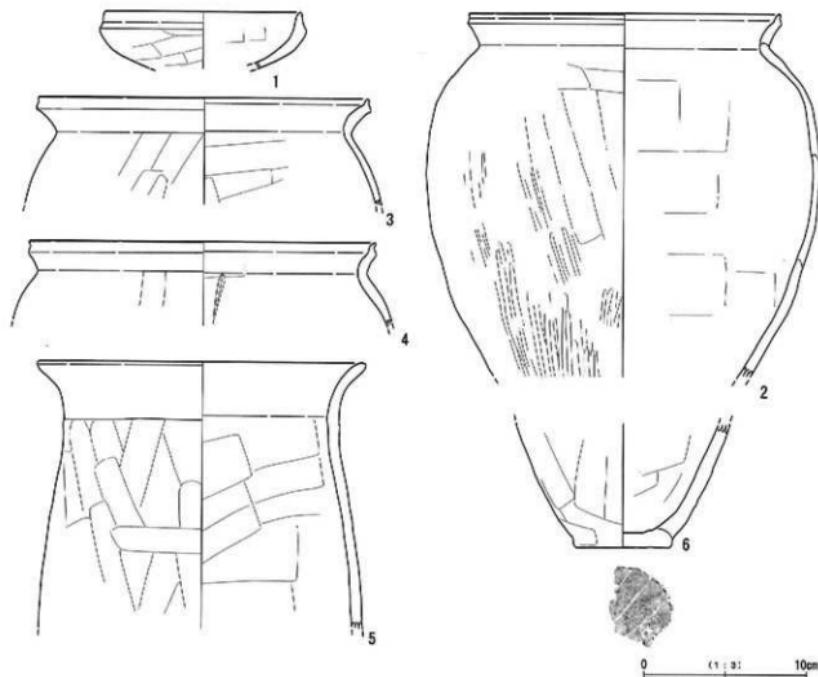
第3号住居跡 P4 8-6'

- 地場粘土 10782/2 シルト質土。粘性あり。しまり強。ローム粒・地土(φ3~20mm)を部分的に少量含む。
- 黄褐色土 10785/6 ローム。粘性なし。しまり強。ローム・地土を全体に多量含む。
- にじく美毛土 10785/6 ローム。粘性なし。しまりなし。ローム(φ0.5~10mm)を全体に多量、ローム塊を部分的に含む。

第11図 第3号住居跡 (SI-3)



第12図 第3号住居跡 (SI-03) カマド・掘り方



第13図 第3号住居跡(SI-03)出土遺物

第4表 第3号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	形状	残寸	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	特徴・特徴	胎土	色調	焼成	出土位置
1	土瓶器	壺 ～丸壺	(12.0)	-	(3.5)	(12.0)	口縁内側：模倣ナデ、体部外面：ヘラケズリ、底部内面：ヘラナデ・ナデ・ナラ	白色板・無色板	10YR7/3 に近い黄褐色	良	覆土北東
2	土瓶器	壺 ～全体	(19.0)	-	(22.0)	(19.0)	表面内側：模倣ナデ、体部外面：ヘラケズリ、底部内面：ヘラナデ・ナデ・ナラ	白色板・小確・砂粒	10YR5/3 に近い黄褐色	良	央面
3	土瓶器	壺 ～全体	(20.0)	-	(5.5)	(20.0)	口縁内側：模倣ナデ、外面：ヘラケズリ。内面：ヘラナデ・ナ	白色板・小確・砂粒	7.5YR5/3 に近い黄褐色	良	覆土東西
4	土瓶器	壺 ～丸壺	(21.0)	-	(3.2)	(21.0)	口縁内側：模倣ナデ、外面：ヘラケズリ、内面：ヘラナデ・ナ	白色板・小確・砂粒	10YR5/3 に近い黄褐色	良	覆土東西
5	土瓶器	壺 ～丸壺	(20.0)	-	(16.0)	(20.0)	口縁内側：模倣ナデ、体部外面：ヘラケズリ、体部内面：ヘラナデ・ナデ・ナラ	白色板・小確・砂粒	10YR7/4 に近い黃褐色	良	カマド
6	土瓶器	壺 ～丸壺	-	(5.6)	(7.0)	(5.6)	外面：ヘラケズリ、内面：ヘラナデ・ナデ、底部：木炭灰	白色板・小確・砂粒	10YR5/2 灰青褐色	良	覆土北東

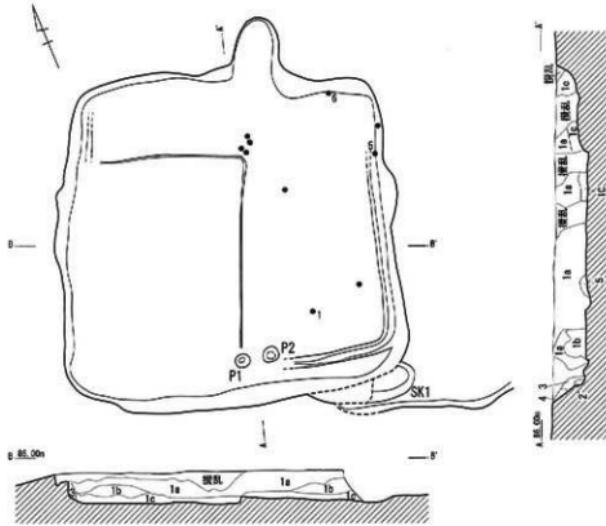
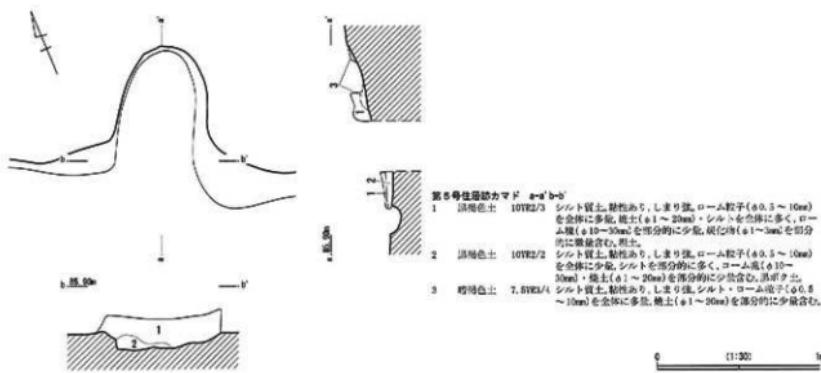


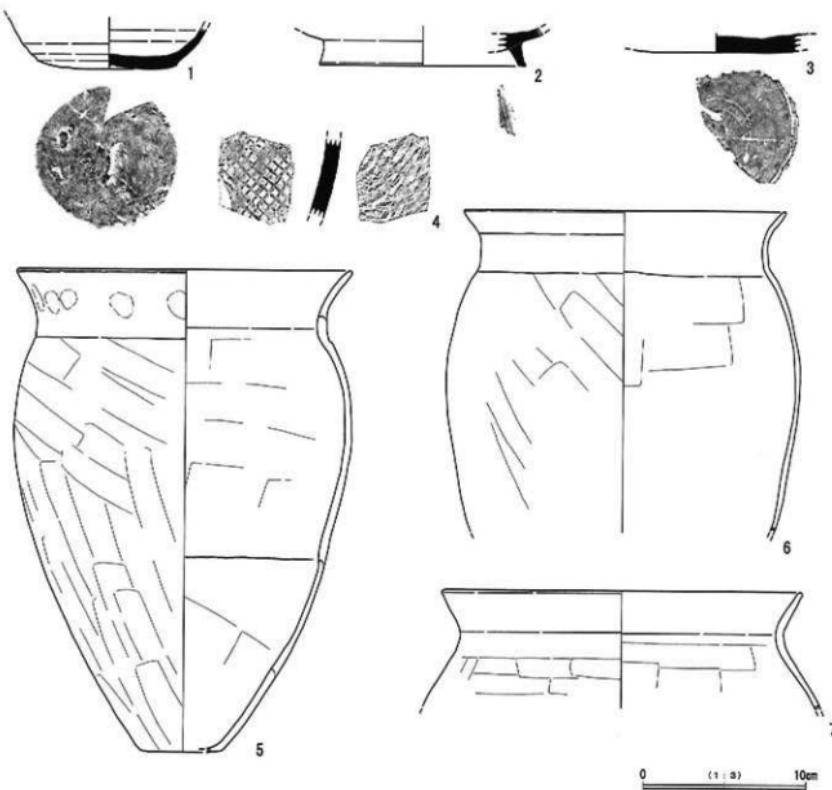
図5号住居跡 A-A' B-B'

- 1a 黒色土 10YR2/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子(φ1～2mm)・ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に少量。コーム塊(φ10～30mm)・炭化物(φ1～5mm)を部分的に散在含む。黒褐色土。
 1b 黒褐色土 10YR2/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。粘土(φ1～3mm)を全層に多く、ローム塊(φ10～30mm)・ローム粒子(φ0.5～10mm)を部分的に散在含む。
 1c 黒褐色土 10YR2/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に多く、粘土(φ1～15mm)を全層に少量。ローム塊(φ10～50mm)を部分的に少量含む。
 2 褐色土 10YR4/4 ローム、粘性あり、しまりあり。ローム塊・ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に多量含む。
 3 黒褐色土 10YR2/2 ローム、粘性あり、しまりあり。ローム粒子(φ0.5～10mm)を部分的に多く、ローム塊(φ10～20mm)・粘土(φ1～3mm)を部分的に散在含む。
 4 黑褐色土 10YR2/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に少量。ローム塊を部分的に含む。
 5 砂褐色土 10YR2/3 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に多量。シルトを全体に、ローム塊を部分的に含む。

0 (1:60) 2m



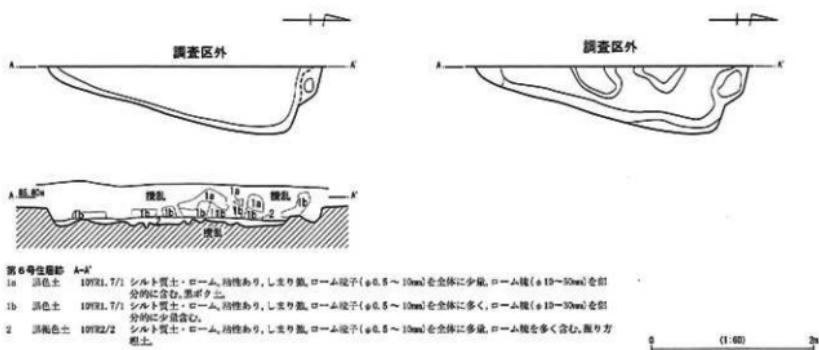
第14図 第5号住居跡 (SI-05)・カマド



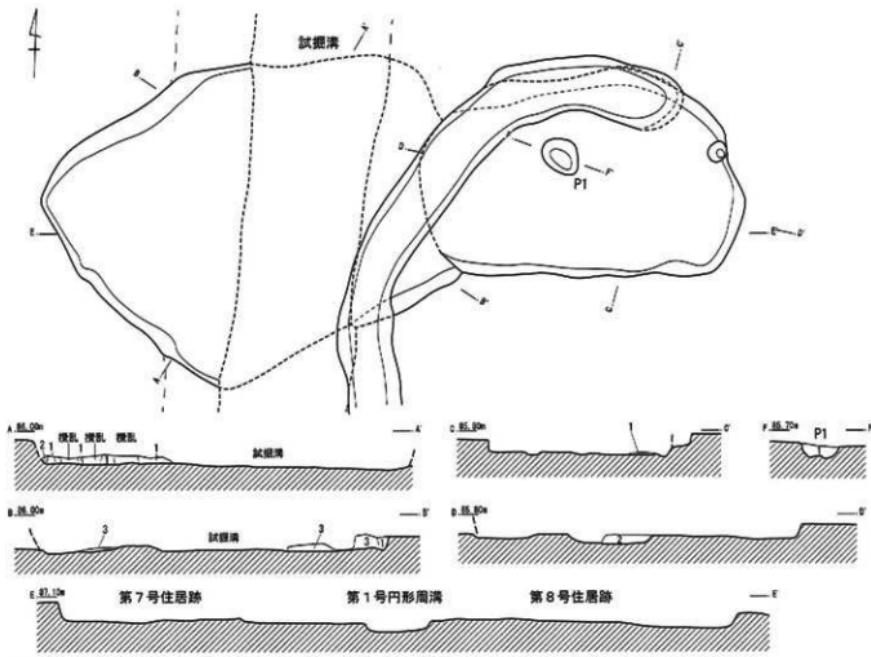
第15図 第5号住居跡(SI-05)出土遺物

第5表 第5号住居跡出土遺物類別表

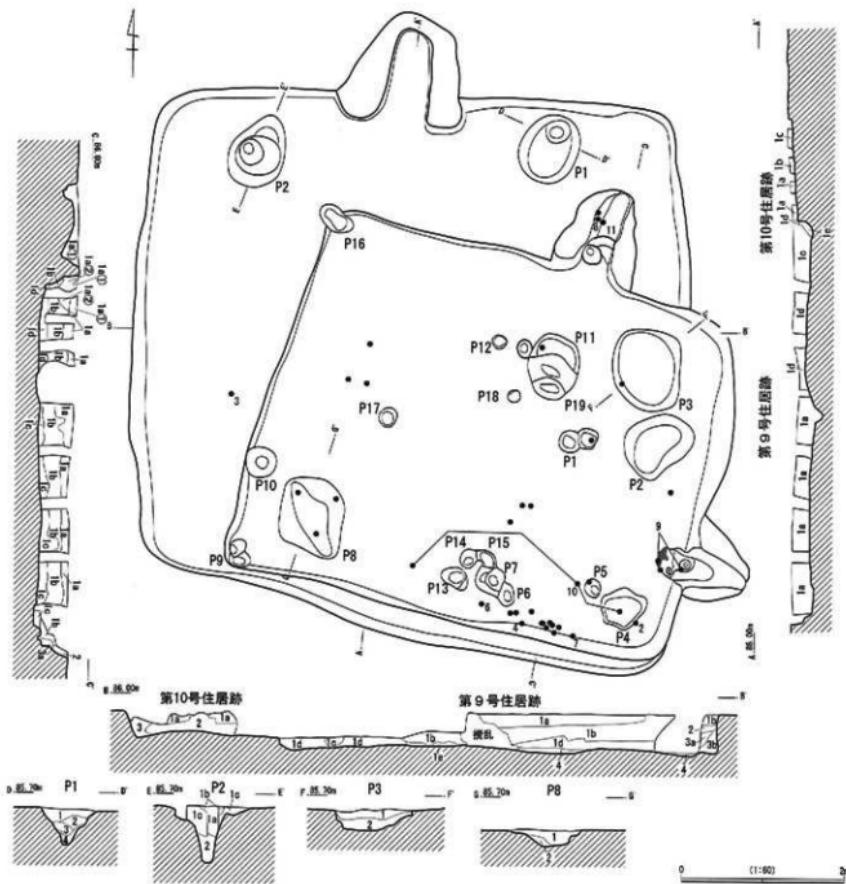
番号	種別	器種	残存 状態	口径 (cm)	高さ (cm)	内部 (cm)	技法・特徴	胎土	色調	構造	出土位置
1	瓶	杯	底残 ～流跡	-	8.2	(3.1)	内外面：コクロ・ナデ、底部：ヘラケズリ、内面底部付近	白色粘・小粒	75YR5/2 灰褐色	良	東東
2	瓶	器	底残	-	(12.6)	(2.4)	内面：コクロ・ナデ、底部：付割合	白色粘・小粒	75Y6/1 灰色	良	西北西南
3	瓶	器	底残	-	-	-	内外面：コクロ・ナデ、底部：付高台痕	白色粘・小粒	75Y6/1 灰色	良	西北北西
4	瓶	器	体部	-	-	-	外観：施子タキ、内面：同心円状凸痕	白色粘・小粒	25Y6/2 灰蓝色	良	西北北東
5	土器	器	口縁部 ～底部	(20.2)	(5.0)	(29.5)	口沿内外面：施位タキ・鉛鉛斑、体部外面：ヘラケズリ、体部内面：ヘラナデ・ナデ	白色粘	SYR4/1 にぶい・赤褐色	良	東南
6	土器	器	口縁部 ～底部	(19.6)	-	(3.9)	口沿内外面：施位ナデ、体部外面：ヘラケズリ、体部内面：ヘラナデ・ナデ	白色粘	SYR4/4 にぶい・赤褐色	良	東西
7	土器	器	口縁部 ～底部	(22.0)	-	(7.2)	口沿内外面：施位ナデ、体部下半外面：ヘラケズリ、内面：ヘラナデ・ナデ	白色粘・混生粘	10YR6/4 にぶい・黄褐色	良	北西



第16図 第6号住居跡 (SI-06)



第17図 第7号・第8号住居跡 (SI-07・SI-08)



第9号・第10号住居跡 A-E B-E C-E

1. 淡褐色土 10922/1 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5\sim1mm$)を全体に多く、ローム粒子($\phi 1\sim6mm$)・礁土($\phi 1\sim8mm$)・砂($\phi 0.5\sim2mm$)を部分的に微混含む。
2. 淡褐色土 10922/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5\sim1mm$)を全体に多く、白い粘土子($\phi 0.5\sim1mm$)を少く、ローム粒子($\phi 1\sim6mm$)を部分的に含む。
3. 淡褐色土 10922/3 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5\sim1mm$)を全体に多く、白い粘土子($\phi 0.5\sim1mm$)を多く含む。
4. 淡褐色土 10922/4 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5\sim1mm$)を全体に多く、白い粘土子($\phi 0.5\sim1mm$)を少く、コーン粘土子($\phi 0.1\sim1mm$)を少く含む。
5. 黄褐色土 10922/1 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5\sim1mm$)を全体に多く、白い粘土子($\phi 0.5\sim1mm$)を少く、ローム泥($\phi 0.1\sim2mm$)を微混含む。
6. 黄褐色土 10922/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5\sim1mm$)を全体に多く、白い粘土子($\phi 0.5\sim1mm$)を少く、ローム泥($\phi 0.1\sim2mm$)を微混含む。
7. 黄褐色土 10922/3 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5\sim1mm$)を全体に多く、白い粘土子($\phi 0.5\sim1mm$)を少く、ローム泥($\phi 0.1\sim2mm$)を微混含む。
8. 黄褐色土 10922/4 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5\sim1mm$)を全体に多く、白い粘土子($\phi 0.5\sim1mm$)を少く、ローム泥($\phi 0.1\sim2mm$)を微混含む。
9. 黑褐色土 10922/1 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5\sim1mm$)を全体に多く、白い粘土子($\phi 0.5\sim1mm$)を少く、ローム泥($\phi 0.1\sim2mm$)を微混含む。
10. 黑褐色土 10922/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5\sim1mm$)を全体に多く、白い粘土子($\phi 0.5\sim1mm$)を少く、ローム泥($\phi 0.1\sim2mm$)を微混含む。

第10号住居跡 P1-D-E

1. 淡褐色土 10922/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5\sim1mm$)を全体に多く、ローム泥($\phi 10\sim30mm$)・礁土($\phi 0.5\sim1mm$)を部分的に微混含む。
2. 淡褐色土 10922/3 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5\sim1mm$)を全体に多く、ローム泥($\phi 20\sim30mm$)を部分的に微混含む。
3. 淡褐色土 10922/4 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5\sim1mm$)を全体に多く、ローム泥($\phi 10\sim30mm$)を部分的に微混含む。
4. 黄褐色土 10922/3 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5\sim1mm$)を全体に多く、ローム泥($\phi 10\sim30mm$)を部分的に微混含む。
5. 黄褐色土 10922/4 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5\sim1mm$)を全体に多く、ローム泥($\phi 10\sim30mm$)を部分的に微混含む。

第10号住居跡 P2 E-E'

1. 淡褐色土 10922/1 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5\sim1mm$)を全体に多く、礁土($\phi 0.5\sim1mm$)を部分的に微混含む。
2. 淡褐色土 10922/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5\sim1mm$)を全体に多く、礁土($\phi 0.5\sim1mm$)を部分的に微混含む。
3. 黄褐色土 10922/1 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5\sim1mm$)を全体に多く、礁土($\phi 0.5\sim1mm$)を部分的に微混含む。
4. 黄褐色土 10922/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5\sim1mm$)を全体に多く、礁土($\phi 0.5\sim1mm$)を部分的に微混含む。

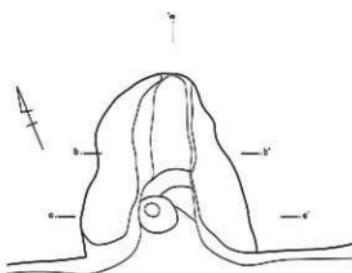
第10号住居跡 P3 F-F'

1. 黄褐色土 10922/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5\sim1mm$)を全体に多く、ローム泥($\phi 10\sim30mm$)・礁土($\phi 1\sim2mm$)を部分的に少混含む。
2. 黄褐色土 10922/5 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5\sim1mm$)を全体に多く、ローム泥($\phi 10\sim30mm$)を部分的に少混含む。

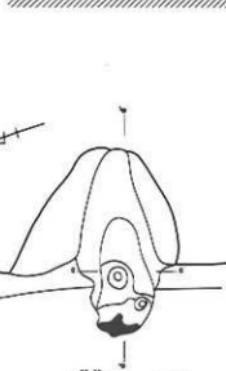
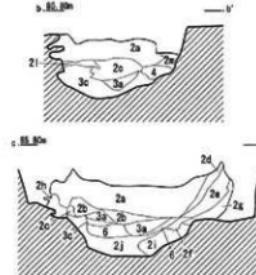
第10号住居跡 P4 D-G'

1. 黄褐色土 10922/1 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5\sim1mm$)を全体に多く、ローム泥($\phi 10\sim30mm$)を部分的に少混含む。シルト質土、粘性あり、しまり強。礁土($\phi 1\sim5mm$)を部分的に多量、ローム粒子($\phi 0.5\sim1mm$)を全体に含む。
2. 黄褐色土 10922/5 シルト質土、粘性あり、しまり強。礁土($\phi 1\sim5mm$)を部分的に多量、ローム粒子($\phi 0.5\sim1mm$)を全体に含む。

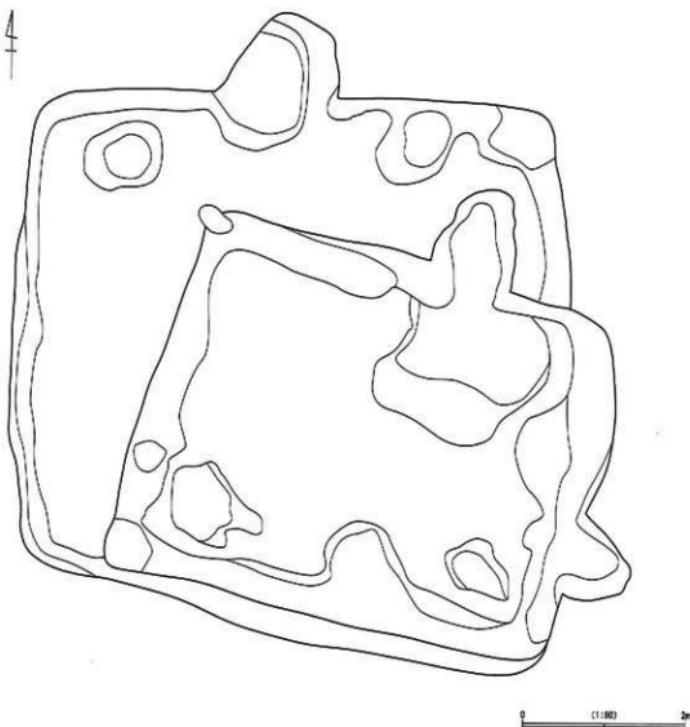
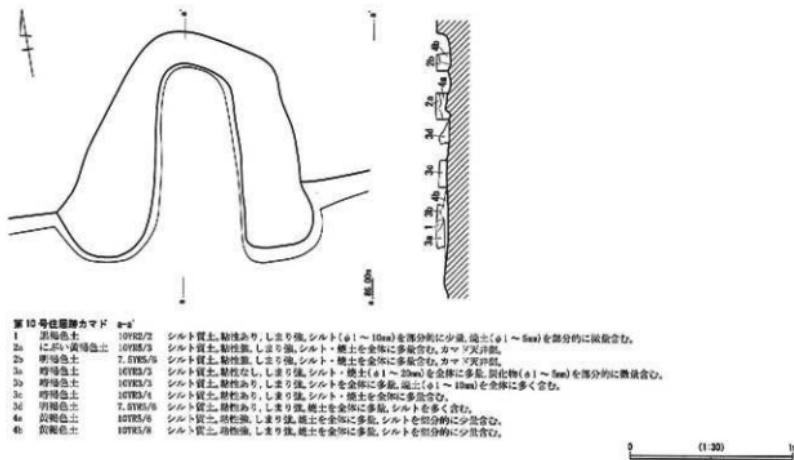
第18図 第9号・第10号住居跡 (SI-09・SI-10)



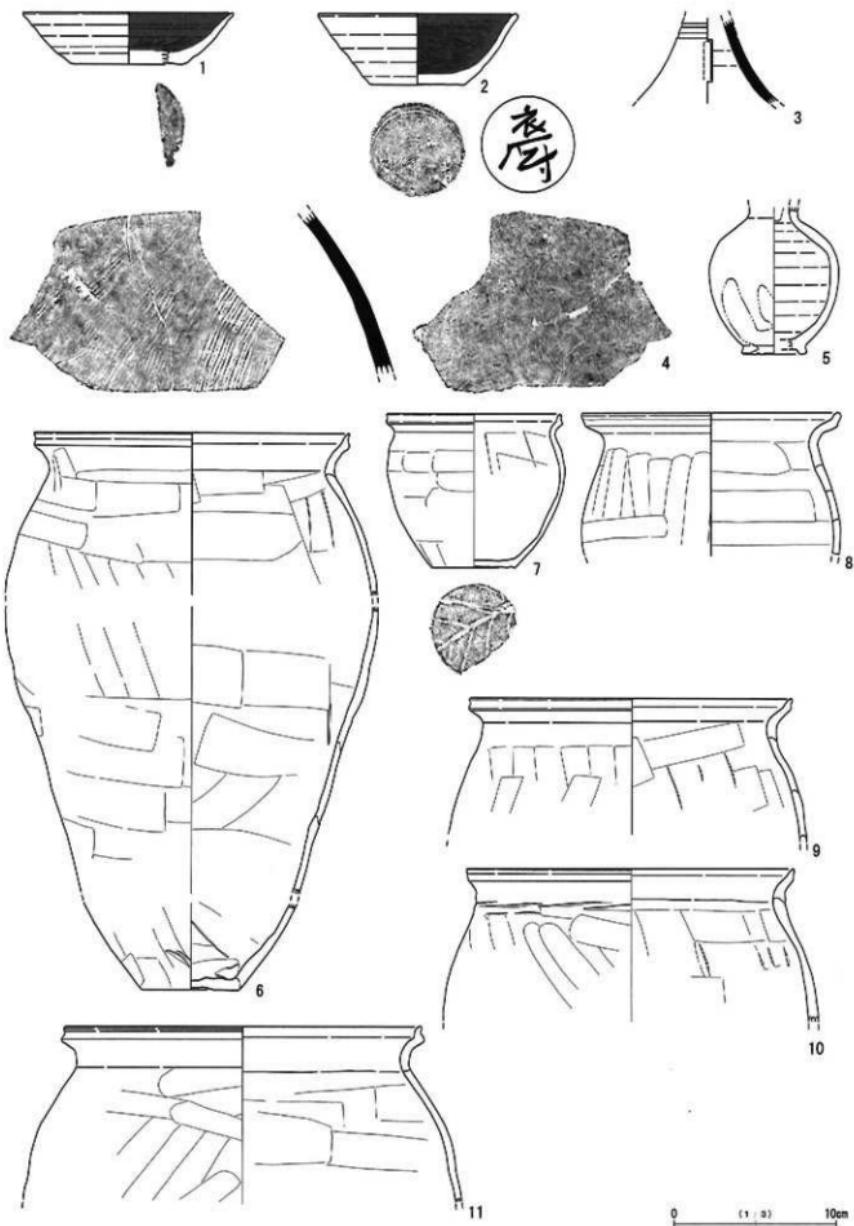
第9号桂磨跡第1カマド a-a' b-b' c-c'



第9章 住民調査システム



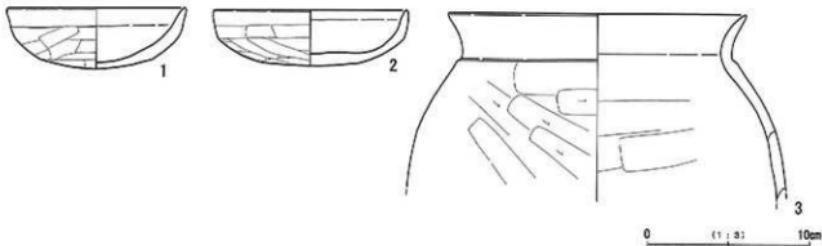
第20図 第10号住居跡(SI-10) カマド・第9号・第10号住居跡(SI-09・SI-10) 掘り方



第21図 第9号住居跡 (SI-09) 出土遺物

第6表 第9号住居跡出土遺物観察表

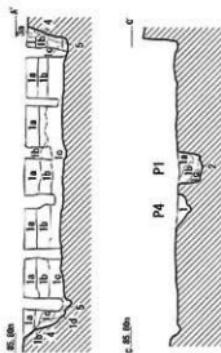
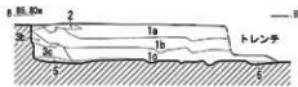
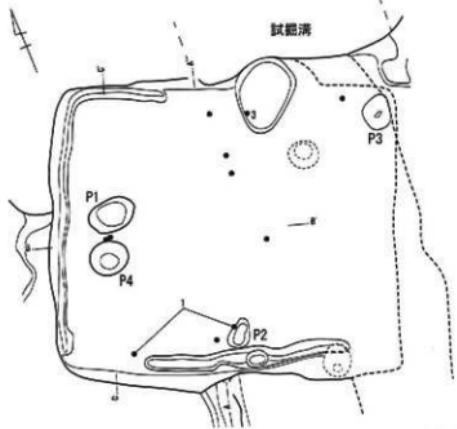
番号	種別	部類	残存	口径(cm)	高さ(cm)	形状(cm)	性状・特徴	胎土	色調	焼成	出土位置
1	土師器	环	口縁部 ～底部	(12.8) (6.6)	3.2	内外面：ロクロ・ナダ、底部：素焼き、内面赤褐色	白色粒	25YR 4/3 に赤褐色	良	カマド	
2	土師器	环	口縁部	12.0	5.6	4.4 内外面：ロクロ・ナダ、底部：素焼き、内面赤褐色	白色粒	10YR 4/3 に赤褐色	良	床面	
3	瓦	高环	周部	-	-	(5.0) 内外面：ロクロ・ナダ、通かし	白色粒	25YR 1/1 云灰色	良	覆土表面	
4	瓦	筒形	-	-	-	外面：平行子タキ、内面：ヘラナダ・ナダ	白色粒・白色粒・小粒	10YR 4/1 白色	良	床面	
5	灰陶	釜	周部 ～底部	-	(3.8)	(9.0) 内外面：ロクロ・ナダ	白色粒・白色粒	20YR 6/1 灰白色	良	淀土南京	
6	土師器	釜	口縁部 ～底部	(19.2)	(6.8)	(34.0) 二段内外面：粒状ナダ、外面：ヘラケズリ、内面：ヘラナダ・ナダ	白色粒・小砾・ 粉粒	75YR 2/4 に赤褐色	良	床面	
7	土師器	釜	口縁部 ～底部	(12.6)	5.2	(9.5) 二段内外面：粒状ナダ、外面：ヘラケズリ、内面：ヘラナダ・ナダ、底部：本陶系、外側焼付	白色粒・小砾・ 粉粒	75YR 5/3 に赤褐色	良	床面	
8	土師器	釜	口縁部 ～底部	(15.8)	-	(8.8) 二段内外面：粒状ナダ、体部下半部内面：ヘラケズリ、内面：ヘラケズリ	白色粒・小砾	75YR 6/4 白色	良	カマド	
9	土師器	釜	口縁部 ～底部	(19.8)	-	(8.8) 二段内外面：粒状ナダ、外側：ヘラケズリ、内面：ヘラナダ・ナダ	白色粒・小砾・ 粉粒	75YR 6/4 に赤褐色	良	床面	
10	土師器	釜	口縁部 ～底部	(19.8)	-	(9.0) 二段内外面：粒状ナダ、外側：ヘラケズリ、内面：ヘラナダ・ナダ	白色粒・小砾・ 粉粒	25YR 4/4 に赤褐色	良	床面	
11	土師器	釜	口縁部 ～底部	(25.6)	-	(10.9) 二段内外面：粒状ナダ、外面：ヘラケズリ、内面：ヘラナダ・ナダ	白色粒・小砾・ 粉粒	10YR 6/2 灰云灰色	良	カマド	



第22図 第10号住居跡(SI-10)出土遺物

第7表 第10号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	部類	残存	口径(cm)	高さ(cm)	形状(cm)	性状・特徴	胎土	色調	焼成	出土位置
1	土師器	环	口縁部 ～底部	(10.8)	-	(3.8) 口縁内外面：粒状ナダ、体部外側：ヘラケズリ、底部内面：ヘラケズリ・ナダ・ナダ、内面(完全)	白色粒・白色粒	10YR 6/3 に赤褐色	良	覆土	
2	土師器	环	口縁部	(11.8)	-	(3.5) 口縁内外面：粒状ナダ、底部内面：ヘラケズリ、底部内面：ヘラケズリ・ナダ・ナダ、口縁内面：内側焼付	白色粒	10YR 4/1 燒灰色	良	覆土南京	
3	土師器	釜	口縁部 ～底部	(18.0)	-	(11.5) 口縁内外面：粒状ナダ、体部外側：粒状ヘラケズリ、体部内面：ヘラケズリ・ナダ	白色粒・小砾・ 粉粒	10YR 6/4 に赤褐色	良	床面	



- 図11号住居跡 A-A' B-B'
- 1a 黒褐色土 10YR2/2 シルト質土、砂粒あり、しまり無、ローム粒子(φ 0.5 ~ 10mm)を全体に多く、ローム塊(φ 10mm・塊厚1.0 ~ 3mm)を部分的に散在含む。
 - 1b 黒褐色土 10YR2/2 シルト質土、砂粒あり、しまり無、ローム粒子(φ 0.5 ~ 10mm)を全体に多く、ローム塊(φ 10mm)を部分的に少數、炭土(φ 0.5 ~ 5mm)を部分的に散在含む。
 - 1c 黒褐色土 10YR2/2 シルト質土、砂粒あり、しまり無、ローム粒子(φ 0.5 ~ 10mm)を全体に多く、炭土(φ 0.5 ~ 1mm)を部分的に散在含む。
 - 1d 黒褐色土 10YR2/2 シルト質土、砂粒あり、しまり無、ローム粒子(φ 0.5 ~ 10mm)を全体に多く、ローム塊(φ 10mm ~ 30mm)を部分的に少數、炭土(φ 1 ~ 5mm)を部分的に散在含む。
 - 2 黑褐色土 10YR2/2 シルト質土、砂粒あり、しまり無、シルトを全体に多量、多く、ローム塊(φ 10 ~ 20mm)を部分的に散在含む。
 - 3a 黑褐色土 10YR2/2 シルト質土、砂粒あり、しまり無、炭土(φ 1 ~ 10mm)を部分的に散在含む。
 - 3b 黑褐色土 10YR2/2 シルト質土、砂粒あり、しまり無、ローム(φ 10 ~ 25mm)・ローム粒子(φ 0.5 ~ 10mm)を部分的に散在含む。
 - 3c 黑褐色土 10YR2/2 シルト質土、砂粒あり、しまり無、ローム(φ 10 ~ 25mm)・ローム粒子(φ 0.5 ~ 10mm)を部分的に散在含む。
 - 4 黑褐色土 10YR2/2 シルト質土、砂粒あり、しまり無、ローム(φ 10 ~ 25mm)・ローム粒子(φ 0.5 ~ 10mm)を部分的に散在含む。
 - 5 黄褐色土 10YR5/2 シルト質土、砂粒あり、しまり無、ローム(φ 0.5 ~ 10mm)を部分的に散在含む。

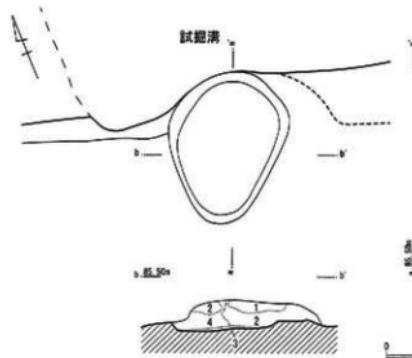
- 図11号住居跡 B-C
- 1a 黑褐色土 10YR2/2 シルト質土、砂粒あり、しまり無、コーム粒子(φ 0.5 ~ 10mm)を全体に多く、ローム(φ 10mm・塊厚1.0 ~ 3mm)を部分的に散在含む。
 - 1b 黑褐色土 10YR2/2 シルト質土、砂粒あり、しまり無、コーム(φ 0.5 ~ 10mm)を全体に多く、ローム(φ 10mm)を部分的に少數、炭土(φ 1 ~ 5mm)を部分的に散在含む。
 - 1c 黑褐色土 10YR2/3 シルト質土、砂粒あり、しまり無、ローム(φ 0.5 ~ 2mm)を全体に多く、炭土(φ 0.5 ~ 1mm)を部分的に散在含む。
 - 2 黄褐色土 10YR5/2 シルト質土、砂粒あり、しまり無、コーム(φ 0.5 ~ 10mm)を部分的に散在含む。

図11号住居跡 P4 C-C'

- 1 黑褐色土 10YR2/2 ローム、砂粒あり、しまり無、コーム(φ 0.5 ~ 10mm)を全体に多く、炭土(φ 1.0 ~ 10mm)・コーム塊(φ 10mm)を部分的に散在含む。

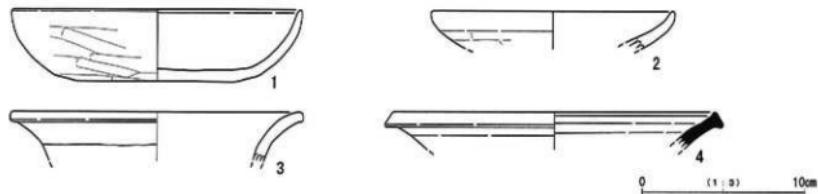
0 10m 1:60

第23図 第11号住居跡 (SI-11)



- 第 12 号住居跡カマド a-a' b-b'
1. 沈積土 10YR2/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。シルトを全層に多く、粘土(δ1~3mm)を部分的に混在する。
 2. 黒褐色土 10YR4/3 シルト質土、粘性あり、しまり強。シルトを全体に多く、粘土(δ1~3mm)を部分的に混在する。ローム質(δ10~20mm)を部分的に少含む。
 3. 黑褐色土 10YR2/1 シルト質土、粘性あり、しまり強。シルトを全体に多く、ローム質(δ0.5~10mm)を部分的に少含む。粘土(δ1~3mm)を部分的に少含む。
 4. 黑褐色土 10YR2/1 シルト質土、粘性なし、しまり強。ローム質(δ0.5~10mm)を部分的に多含む。ローム質(δ5~10mm)を部分的に少含む。
 5. 黑褐色土 10YR2/2 シルト質土、粘性なし、しまり強。ローム質(δ10~20mm)、ヨーム質(δ0.5~10mm)を全体に多く、炭化物(δ1~3mm)を全層に含む。

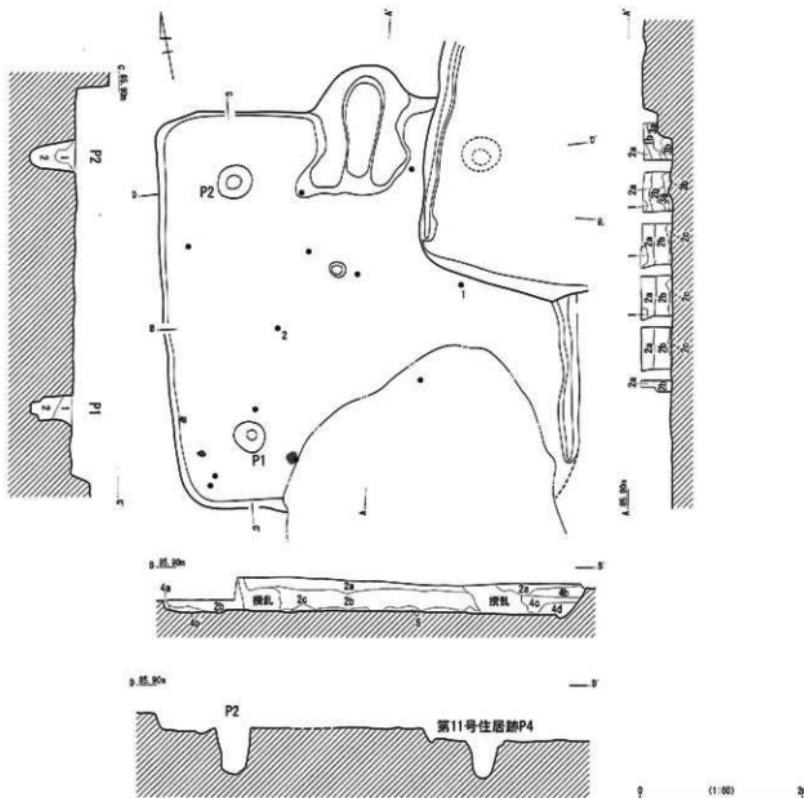
第 24 図 第 11 号住居跡 (SI-11) カマド



第 25 図 第 11 号住居跡 (SI-11) 出土遺物

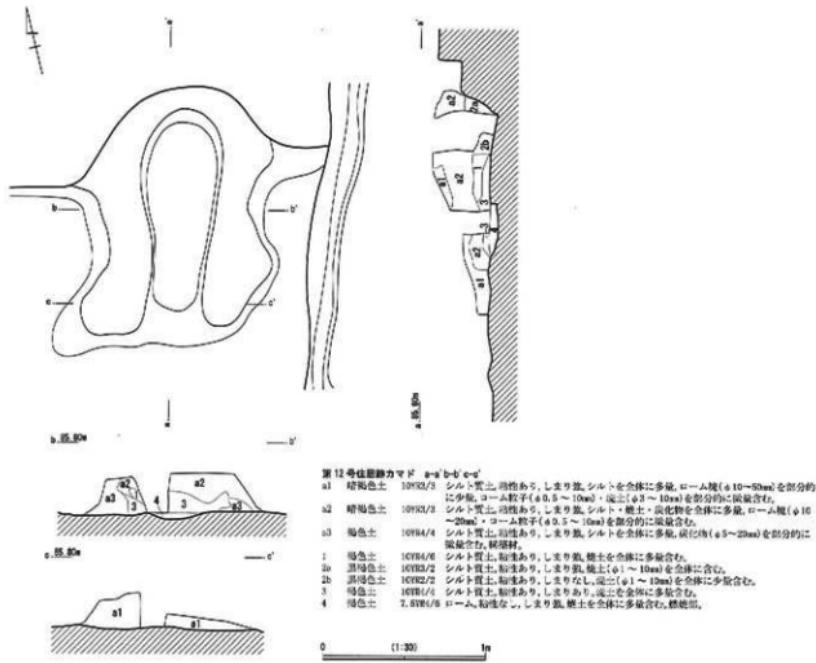
第 8 表 第 11 号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	部位	残存	口径 (cm)	高さ (cm)	厚さ (cm)	性状	技法・特徴	胎土	色調	焼成	出土位置
1	土器	碗	口縁部 一底部	(17.1)	9.8	4.6	口縁外斜面: 植松ナダ、底盤内面: ヘラケズリ、底盤外面: ヘラナダ・ナダ、底部: ヘラケズリ	白色粉・無色粉	75YR2/4 12.5cm×10cm	灰	床面	
2	土器	环	口縁部 一底部	(14.6)	-	(2.3)	口縁外斜面: 植松ナダ、底盤外面: ヘラケズリ、底盤内面: ヘラナダ・ナダ	白色粉・無色粉	10YR2/3 にぶい灰褐色	灰	屋上西面	
3	土器	甕	口縁部	(17.6)	-	(3.0)	口縁外斜面: 植松ナダ	白色粉・小瘤・妙皮	SYR2/4 にぶい褐色	灰	カマド	
4	土器	甕	口縁部	(19.8)	-	(2.4)	内外面: ロクロ・ナダ	白色粉	SYR2/4 にぶい褐色	灰	屋上西面	

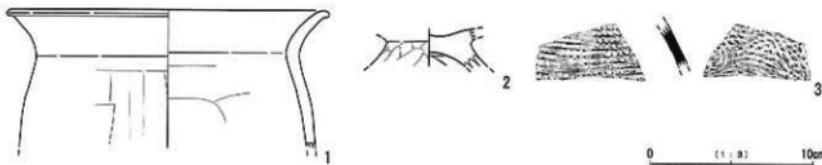


- 第12号住居跡 A-A' B-B'
- 馬場土 10YR2/2 シルト質土、粘性なし、しまり強。ヨーム粒子($\phi 0.5 \sim 1mm$)を部分的に散在含む。
 - 馬場色土 10YR2/2 シルト質土、粘性なし、しまり強。ヨーム粒子($\phi 0.5 \sim 1mm$)を全体に少量、ヨーム泥($\phi 10 \sim 20mm$)・粘土($\phi 2 \sim 10mm$)を部分的に散在含む。
 - 馬場色土 10YR2/2 シルト質土、粘性なし、しまり強。ヨーム粒子($\phi 0.5 \sim 1mm$)を全体に少量、ヨーム泥($\phi 10 \sim 20mm$)・粘土($\phi 1 \sim 3mm$)を部分的に散在含む。
 - 馬場色土 10YR2/2 シルト質土、粘性なし、しまり強。ヨーム粒子($\phi 0.5 \sim 1mm$)を全体に多く、ヨーム泥($\phi 10 \sim 20mm$)を部分的に少量含む。
 - 馬場色土 10YR2/2 シルト質土、粘性なし、しまり強。ヨーム粒子($\phi 0.5 \sim 1mm$)を全体に多く、ヨーム泥($\phi 10 \sim 20mm$)を部分的に少量含む。
 - 馬場色土 10YR2/2 シルト質土、粘性なし、しまり強。シルトを含む少量化。一ム粒子($\phi 0.5 \sim 1mm$)を全体に多く、ヨーム泥($\phi 10 \sim 20mm$)を部分的に少量含む。
 - 馬場色土 10YR2/2 シルト質土、粘性なし、しまり強。ヨーム粒子($\phi 0.5 \sim 1mm$)を全体に多く含む。
 - 馬場色土 10YR2/2 シルト質土、粘性なし、しまり強。ヨーム粒子($\phi 0.5 \sim 1mm$)を全体に多く、泥($\phi 5 \sim 10mm$)・ヨーム泥($\phi 10 \sim 20mm$)・泥土($\phi 1 \sim 10mm$)を部分的に多量含む。
 - 馬場色土 10YR2/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ヨーム粒子($\phi 0.5 \sim 1mm$)を全体に少量、ヨーム泥($\phi 10 \sim 20mm$)を部分的に散在含む。
 - 馬場色土 10YR2/2 ヨーム、粘性あり、しまり強。ヨーム泥($\phi 0.5 \sim 1mm$)を全体に多量。
- 第12号住居跡 P1 - P2 - G-C
- 馬場色土 10YR2/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ヨーム泥($\phi 10 \sim 20mm$)を全体に多量、ヨーム粒子($\phi 0.5 \sim 1mm$)を全体に少量含む。
 - 馬場色土 10YR2/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ヨーム粒子($\phi 0.5 \sim 1mm$)を全体に少量含む。

第26図 第12号住居跡 (SI-12)



第27図 第12号住居跡 (SI-12) カマド



第28図 第12号住居跡 (SI-12) 出土遺物

第9表 第12号住居跡出土遺物観察表

季分	種別	形状	残存	口径 (cm)	底径 (cm)	厚さ (cm)	所持 (cm)	種法・特徴	粘土	瓦器	焼成	出土位置
1	土器部	壺	口縁部 二修部	39.0	-	(8.5)	口縁内外面：絞位ハケナダ、体部外面：絞位ヘラケナダ、体部内面：ヘラナダ・ナダ		小粒	10936/4 に5い瓦軽色	良	床面
2	土器部	合付甕	接続部	-	-	(2.5)	外底：ヘラナダ、茎部内面：ヘラナダ・ナダ、脚部内面：ヘラナ		白色粒	10936/4 輕灰色	良	床面
3	吸水器	壺	体部	-	-	-	外表面：筋子タタキ、内面：同心円状凸起		白色粒	浅灰色	良	覆土面東

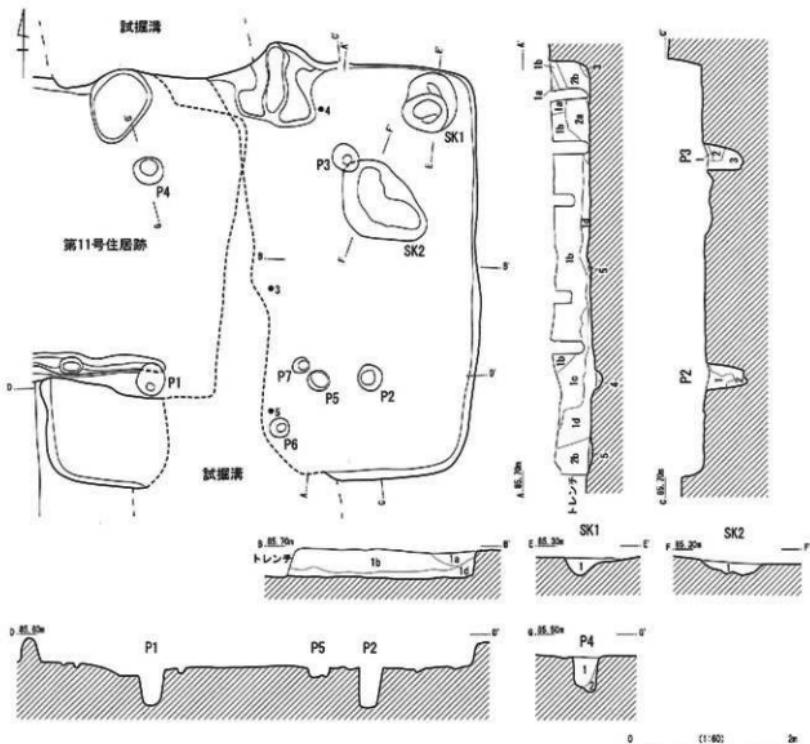


図 13 号住居跡 A-A' B-B'

- 1a 黄褐色土 1972/2 シルト質土。粘性あり。しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多く、ローム塊($\phi 10mm$)・泥炭($\phi 1 \sim 3mm$)を部分的に微量含む。
 1b 黄褐色土 1972/2 シルト質土。粘性あり。しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多く、ローム塊($\phi 10mm$)を部分的に少く含む。
 1c 黄褐色土 1972/2 シルト質土。粘性あり。しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多く、ローム塊($\phi 10 \sim 20mm$)を部分的に少く含む。
 1d 黄褐色土 1972/2 シルト質土。粘性あり。しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多く、ローム塊($\phi 10 \sim 30mm$)を部分的に少く含む。
 1e 黄褐色土 1972/2 シルト質土。粘性あり。しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多く、ローム塊($\phi 1 \sim 20mm$)を部分的に微量含む。
 1f 黄褐色土 1972/2 シルト質土。粘性あり。しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多く、ローム塊($\phi 1 \sim 20mm$)を部分的に微量含む。

第 13 号住居跡 SK1 E-E'

- 1 黄褐色土 1972/2 シルト質土。ローム。粘性あり。しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多く、ローム塊($\phi 10 \sim 70mm$)を部分的に少く含む。ローム塊($\phi 1 \sim 10mm$)を部分的に微量含む。

第 13 号住居跡 SK2 E-E'

- 1 黄褐色土 1972/2 シルト質土。ローム。粘性あり。しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多く、ローム塊($\phi 10 \sim 50mm$)・泥炭($\phi 1 \sim 20mm$)を全体に多く含む。

第 13 号住居跡 P2 C-C'

- 1 黄褐色土 1972/2 シルト質土。ローム。粘性あり。しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多量、ローム塊($\phi 10 \sim 50mm$)を全体に多く含む。
 2 黄褐色土 1973/6 コーム。粘性あり。しまり強。ローム塊、ローム粒子を全体に多量含む。

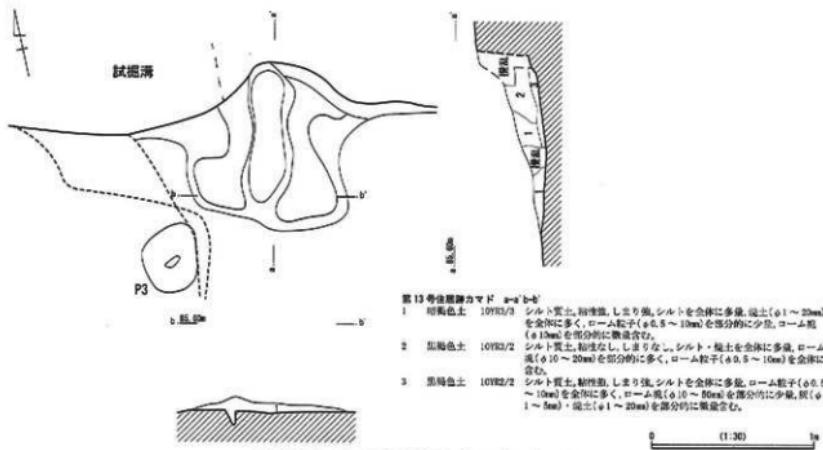
第 13 号住居跡 P2 C-C'

- 1 黄褐色土 1972/2 コーム。粘性あり。しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多く、泥炭($\phi 10 \sim 15mm$)・ローム塊($\phi 10mm$)を部分的に微量含む。
 2 黄褐色土 1973/6 シルト質土。ローム。粘性あり。しまり強。ローム塊、ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多量含む。
 3 黄褐色土 1973/6 コーム。粘性あり。しまり強。ローム塊、ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多量含む。

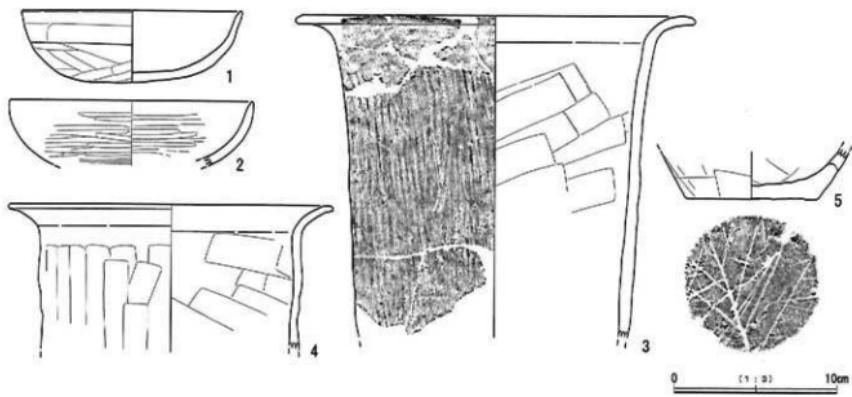
第 13 号住居跡 P4 G-G'

- 1 黄褐色土 1972/2 シルト質土。コーム。粘性あり。しまりなし。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多量、ローム塊($\phi 10 \sim 50mm$)を全体に多く含む。
 2 黄褐色土 1973/6 コーム。粘性あり。しまり弱。ローム塊、ローム粒子を全体に多量含む。

第 29 図 第 13 号住居跡 (SI-13)



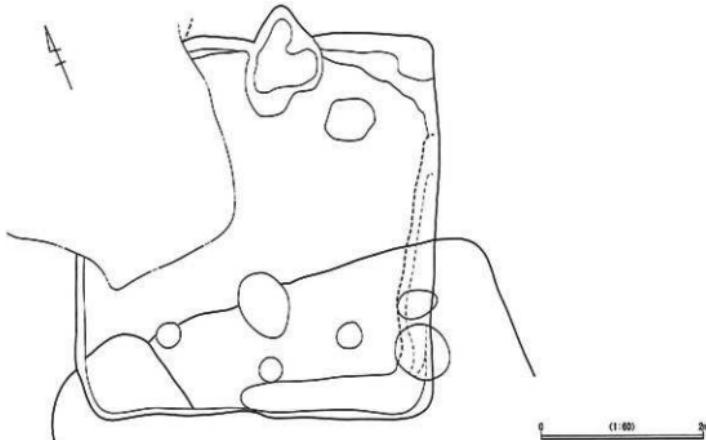
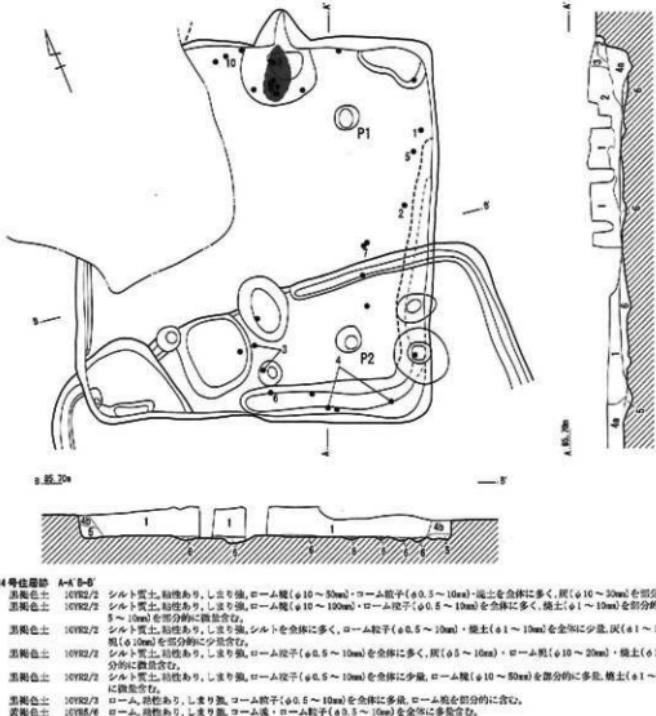
第30図 第13号住居跡(SI-13) カマド



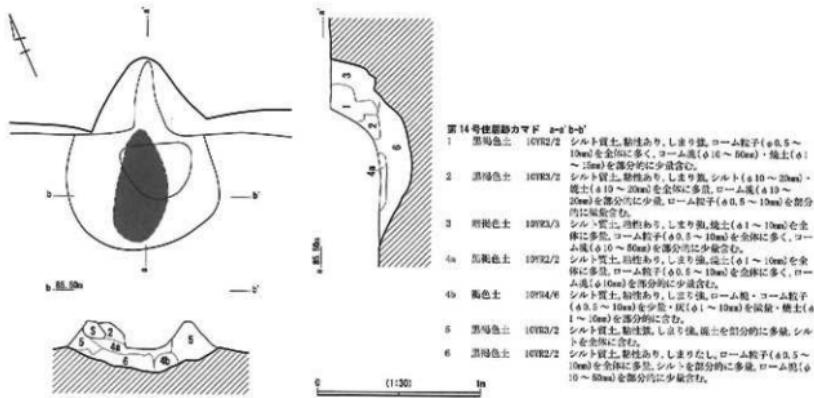
第31図 第13号住居跡(SI-13) 出土遺物

第10表 第13号住居跡出土遺物観察表

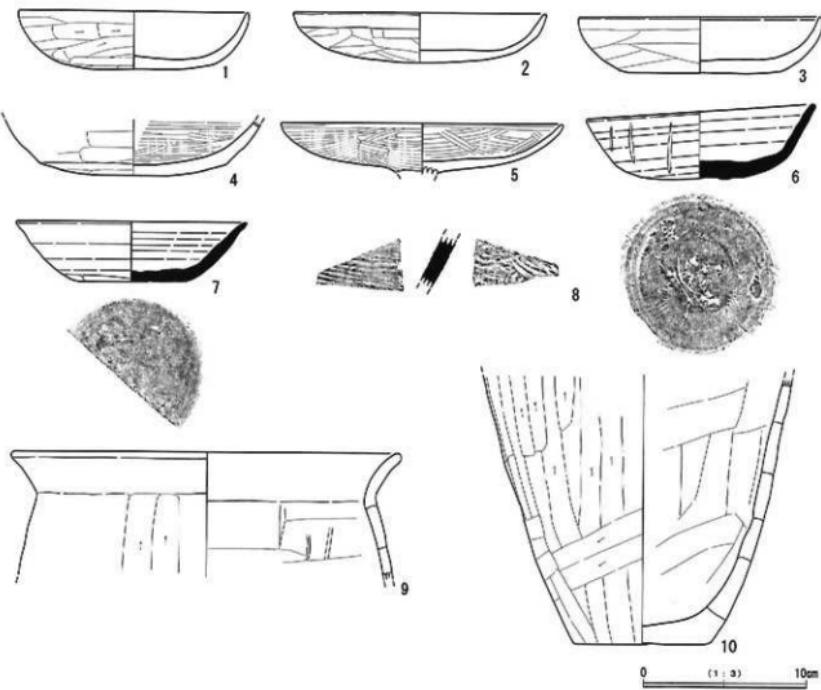
番号	種別	形状	質料	口径 (cm)	高さ (cm)	厚さ (cm)	探査・特徴	胎土	色調	焼成	出土位置
1	土器部	壺	口縁部 +底部	13.4	-	4.4	口縁内面：施硝ナダ、体部外面：ヘラケズリ、体部内面：ヘラナダ、ナダ	白色粒・黑色塊	7SY364/1 黒灰色	良	覆土
2	土器部	壺	口縁部 +底部	0.43	-	(48.0)	口縁内面：施硝ナダ、内外面：ミガキ	赤褐色	7SY364/ にぶい赤色	良	覆土直面
3	土器部	壺	口縁部 +底部	23.8	-	(9.6)	口縁内面：施硝ナダ、体部外面：平行タタキ、体部内面：ヘラナダ、ナダ	白色粒・小塊・ 沙粒	7SY364/2 灰褐色	良	底面
4	土器部	壺	口縁部 +底部	19.4	-	(9.0)	口縁内面：施硝ナダ、体部外面：施硝ナダ、ナダ、底部：木炭痕	白色粒・小塊・ 砂粒	SY364/ にぶい赤褐色	良	底面
5	土器部	壺	底部	-	(7.8)	(3.2)	外面：ヘラケズリ、内面：ヘラナダ・ナダ、底部：木炭痕	赤褐色・小塊	SY364/ にぶい赤褐色	良	底面



第32図 第14号住居跡 (SI-14)



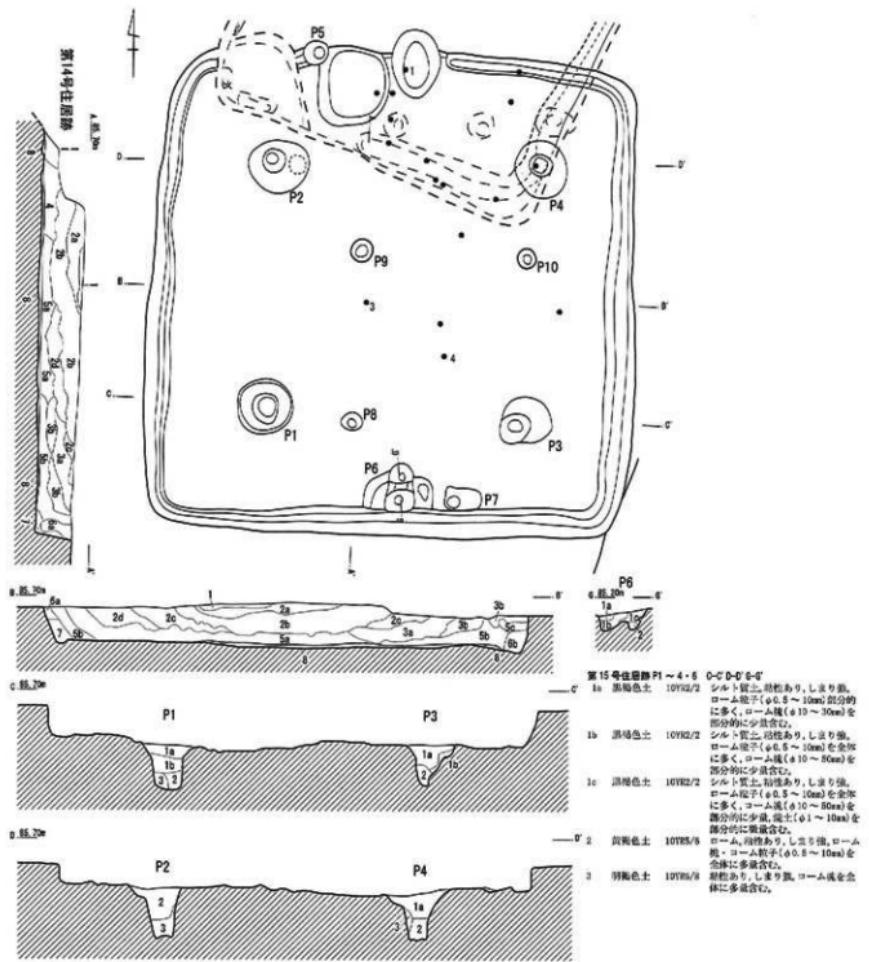
第33図 第14号住居跡(SI-14) カマド



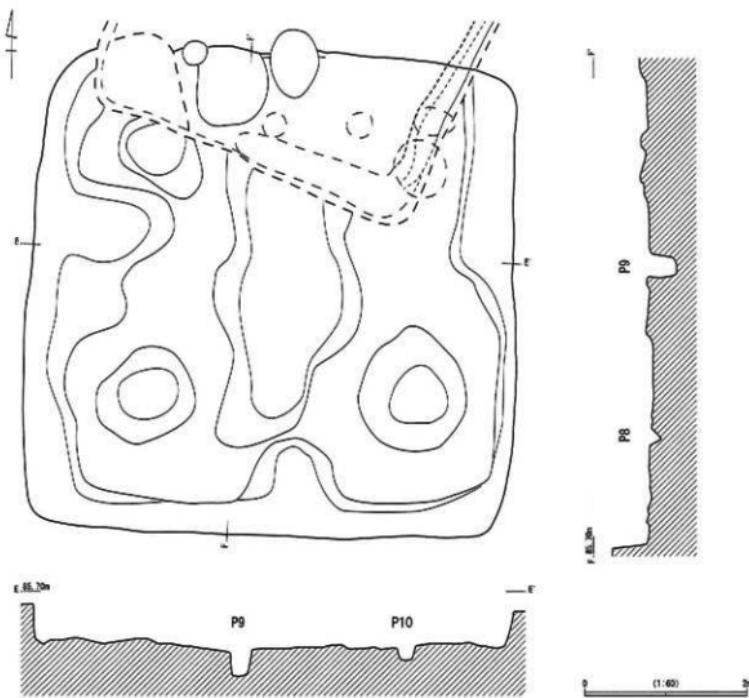
第34図 第14号住居跡(SI-14) 出土遺物

第11表 第14号住居跡出土遺物観察表

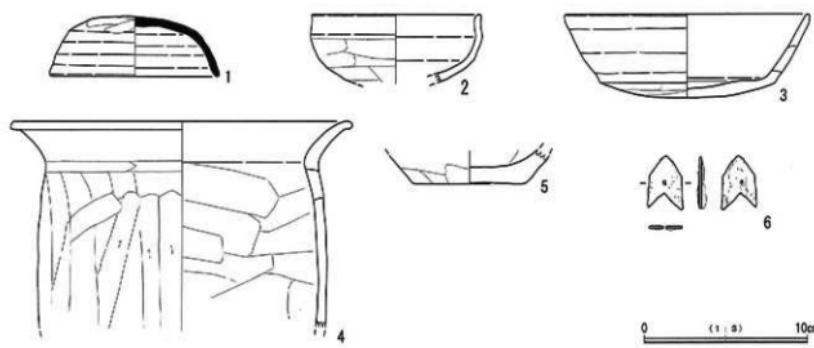
番号	種類	形態	直径 (cm)	高さ (cm)	厚さ (cm)	特徴・計測	粘土	色調	焼成	出土位置
1	土器部	环	口縁部 ～底部	138	-	36 二輪内外面：模様ナザ。底部外面：ヘラケズリ。底部内面：ヘラ ナザ・ナザ。口縁内側附近に凹凸	泥色紋・白色紋	SY35-6 明褐色	良	床面
2	土器部	环	口縁部 ～底部	152	-	31 口縁内外面：模様ナザ。底部外面：ヘラケズリ。底部内面：ヘラ ナザ・ナザ	白色紋・小織	SY36-6 褐色	良	床面
3	土器部	环	口縁部 ～底部	148	-	35 口縁内外面：模様ナザ。底部外面：ヘラケズリ。底部内面：ヘラ ナザ・ナザ	白色紋・赤色紋	SY36-6 紅色	良	床面
4	土器部	环	底部 ～底部	-	-	GL4 内部外縁：ヘラケズリ。底部内面：ミガキ・ナザ	白色紋・暗色紋・ 小織	SY35-6 暗褐色	良	床面
5	土器部	陶器	口縁部 ～底部	170	-	GL1 内外面：ミガキ	焦褐色・白色皮	SY35-4 12.灰褐色	良	床面
6	土器部	环	口縁部 ～底部	136	92	47 内外面：ロクロ・ナザ。底部：圓軸ヘラケズリ	白色紋・小織	SY4-1 褐色	良	床面
7	土器部	环	口縁部 ～底部	138	66	37 内外面：ロクロ・ナザ。底部：圓軸ヘラケズリ	白色紋・小織	SY4-1 褐色	良	床面
8	土器部	壳	体部	-	-	- 外裏：海藻タタキ・自然糊。内面：同心円状凸起	白色絹	23Y3/1 白色	良	現土北東
9	土器部	壳	口縁部	236	-	72 口縁内外面：模様ナザ	白色絹・小織	10Y35-2 灰青褐色	良	カマド
10	土器部	壳	体部 ～底部	-	82	(365) 体部外縁：ヘラケズリ。底部内面：ヘラナザ・ナザ	白色絹・褐色絹・ に玉手串柄色	SY35-4 小織	良	床面



第35図 第15号住居跡 (SI-15)



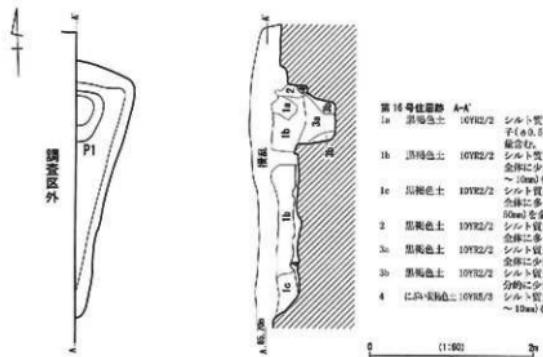
第36図 第15号住居跡(SI-15) 挖り方



第37図 第15号住居跡(SI-15) 出土遺物

第12表 第15号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	既存	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	技法・特徴	粘土	色調	焼成	出土位置
1	環状器	蓋	口縁部 破損	10.2	-	3.7	内外面：ロタロ・小字。底面：ヘラケズリ	白色粘・小環	5Y7/1 黒褐色	良	床面
2	土器部	环	口縁部 破損	(10.2)	-	(4.2)	口縁内外面：赤位ナダ。体部外面：ヘラケズリ。体部内面：ヘラ ナダ・ナダ	白色粘・白色粘 小環	10YR5/2 灰青褐色	良	床面
3	土器部	环	口縁部 破損	(14.0)	-	(5.1)	口縁内外面：模様ナダ。体部外下半：ヘラケズリ。体部内面：	白色粘・白色粘 小環	10YR5/4 灰青褐色	良	床面
4	土器部	环	口縁部 破損	(20.6)	-	(12.6)	ヘラナダ・ナダ。口縁外側：内面輪付着	白色粘・白色粘 小環	10YR5/4 灰青褐色	良	床面
5	土器部	环	底部	-	6.8	(2.1)	外面：ヘラケズリ。内面：ヘラナダ・ナダ	白色粘・小環 静度	10YR5/4 灰青褐色	良	床面
6	金糸 品目	筒織	完形	長径 3.3	軸 2.2	厚さ 0.15	牛糸に穿たる箇所。底面 3.58g	-	-	-	頂上西南



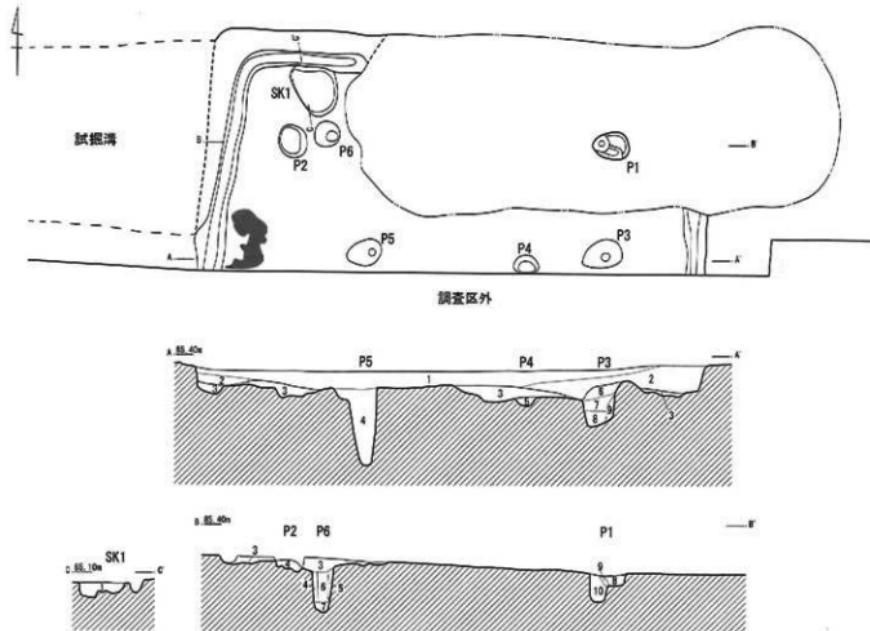
第38図 第16号住居跡 (SI-16)



第39図 第16号住居跡 (SI-16) 出土遺物

第13表 第16号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	既存	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	技法・特徴	粘土	色調	焼成	出土位置
1	土器部	环	口縁部 破損	(14.0)	-	(6.5)	口縁外面：模様ナダ。体部外上半：ミガキ・ナダ。体部外下 半：ヘラケズリ。体部内面：ミガキ・ナダ	白色粘・白色粘	7.5Y3/6 褐色	良	底土



第 17 号住居跡

- 1 黒色土 10Y2/1 シルト質土、粘性強、しまり強。コーム縫(φ 10 ~ 20mm)を部分的に少数。ローム粒子(φ 0.5 ~ 10mm)・砾土(φ 1 ~ 10mm)を全体に含む。
- 2 黄褐色土 10Y2/1 シルト質土、粘性強、しまり強。ローム粒子(φ 0.5 ~ 10mm)を全体に含む。
- 3 黄褐色土 10Y2/1 シルト質土、粘性強、しまり強。ローム粒子(φ 0.5 ~ 10mm)を全体に多く含む。
- 4 黄褐色土 10Y2/1 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム縫(φ 1 ~ 10mm)を部分的に少数含む。コーム縫(φ 10 ~ 20mm)を部分的に含む。
- 5 黄褐色土 10Y2/2 コーム、粘性強、しまり強。ローム粒子(φ 0.5 ~ 10mm)を全体に多量。ローム縫を部分的に多く含む。
- 6 黄褐色土 10Y2/6 シルト質土、ローム、粘性強、しまり強。ローム縫・ローム粒子(φ 0.5 ~ 10mm)を全体に多量含む。
- 7 にじく黄褐色土 10Y2/6/1 ローム、粘性強、しまり強。ローム縫。しまり強。コーム縫・ローム粒子(φ 0.5 ~ 10mm)を全体に多量含む。
- 8 暗褐色土 10Y4/4 ローム、粘性強、しまり強。ローム縫・ローム粒子(φ 0.5 ~ 10mm)を全体に多量含む。
- 9 黄褐色土 10Y5/6 ローム、粘性強、しまり強。ローム縫・ローム粒子(φ 0.5 ~ 10mm)を全体に多量含む。

第 17 号住居跡 P1 - P2 - P6 B-E

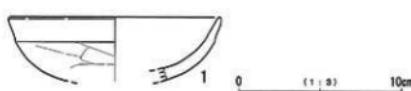
- 1 黒色土 10Y2/1 シルト質土、粘性強、しまり強。ローム粒子(φ 0.5 ~ 10mm)を全体に多く含む。
- 2 黄褐色土 10Y2/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム(φ 1 ~ 10mm)を部分的に少数含む。
- 3 黄褐色土 10Y2/5/1 ローム(φ 1 ~ 5mm)・砾土(φ 1 ~ 10mm)を部分的に多く含む。
- 4 黄褐色土 10Y2/6 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム(φ 0.5 ~ 10mm)を全体に多量含む。
- 5 黄褐色土 10Y2/6/2 ローム、粘性あり、しまり強。ローム縫・ローム粒子(φ 0.5 ~ 10mm)を全体に多量含む。
- 6 黄褐色土 10Y2/6/3 ローム、粘性あり、しまり強。ローム縫・ローム粒子(φ 0.5 ~ 10mm)を全体に多量含む。
- 7 にじく黄褐色土 10Y2/7/2 ローム、粘性あり、しまり強。ローム縫・ローム粒子(φ 0.5 ~ 10mm)を全体に多量含む。
- 8 黄褐色土 10Y2/8/2 シルト質土、粘性強、しまり強。ローム(φ 1 ~ 10mm)を部分的に多く含む。
- 9 黄褐色土 10Y2/8/4 ローム、粘性強、しまり強。ローム縫・ローム粒子(φ 0.5 ~ 10mm)を全体に多量含む。
- 10 黄褐色土 10Y2/8/5 ローム、粘性強、しまり強。ローム縫・ローム粒子(φ 0.5 ~ 10mm)を全体に多量含む。

第 17 号住居跡 SK1 D-C

- 1 黑色土 10Y2/1 シルト質土・ローム、粘性強、しまり強。ローム粒子(φ 0.5 ~ 10mm)を全体に多量。ローム(φ 10 ~ 50mm)を部分的に少数含む。

0 (1:60) 10cm

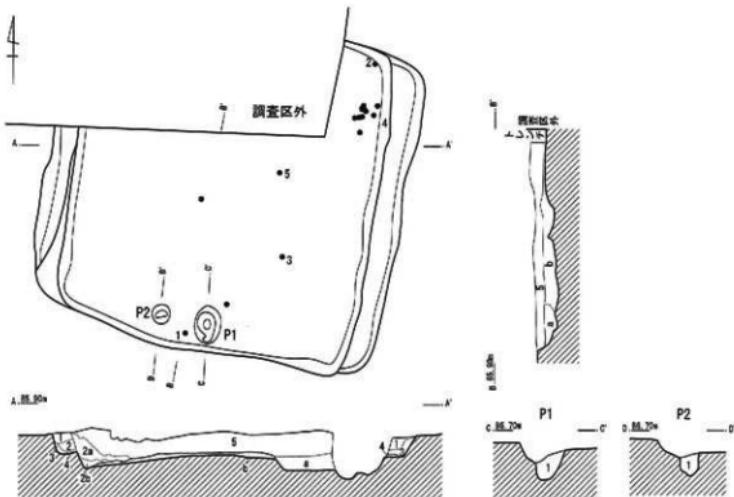
第 40 図 第 17 号住居跡 (SI-17)



第 41 図 第 17 号住居跡 (SI-17) 出土遺物

第 14 表 第 17 住居跡出土遺物観察表

番号	種別	種類	存続	口径 (cm)	瓶径 (cm)	高さ (cm)	枝法・特徴	鉢土	色調	被膜	出土位置
1	土器部	杯	口縁部 ～底部	12.8	-	3.9	二重片付鉢・硝酸ナトリウムナダ	白色泥・黑色泥	72YR8/4 にじく・松色	良	P3



第 18 号住居跡・第 19 号住居跡 A-A' B-B'

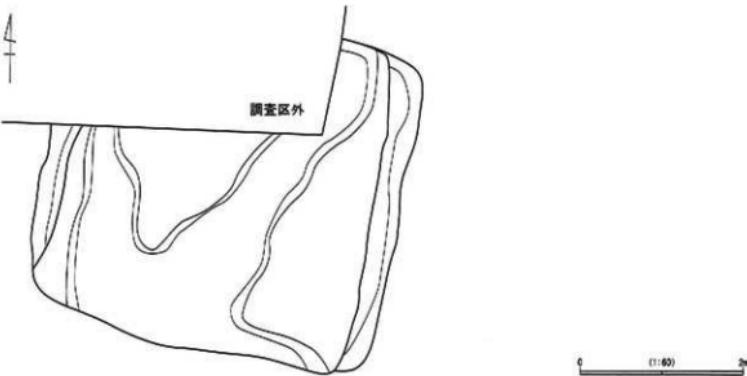
- 1 黒色土 10922/1 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に少部分含む。
- 2 黒褐色土 10922/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に少部分含む。
- 2a 黒色土 10922/1 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を部分的に多量含む。
- 2b 黒褐色土 10922/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 5\text{mm}$)・コム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多量含む。
- 3 黒褐色土 10922/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多く、ローム様を部分的に多量含む。
- 4 黒褐色土 10922/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多く、ローム様を部分的に多量含む。
- 5 黒褐色土 10922/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多く、ローム様を部分的に多量含む。
- a 黒褐色土 10922/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多量、ローム様($\phi 0.5 \sim 100\text{mm}$)を部分的に多く含む。
- b 黒褐色土 10922/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多量、ローム様($\phi 0.5 \sim 100\text{mm}$)を部分的に多く含む。

第 18 号住居跡 P1 O-O'

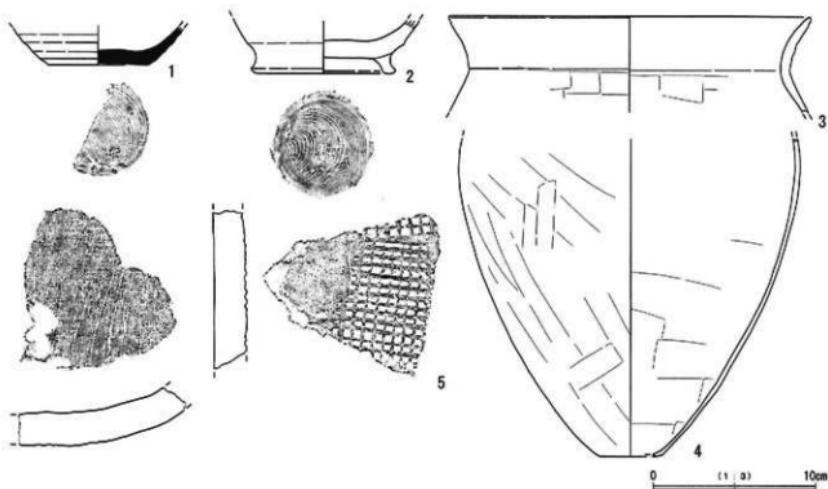
- 1 黒褐色土 10922/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多く、ローム様($\phi 10 \sim 30\text{mm}$)を少部分含む。

第 19 号住居跡 P2 D-D'

- 1 濃褐色土 10922/2 シルト質土、ローム、粘性なし、しまりなし。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多量、ローム様を部分的に多く含む。



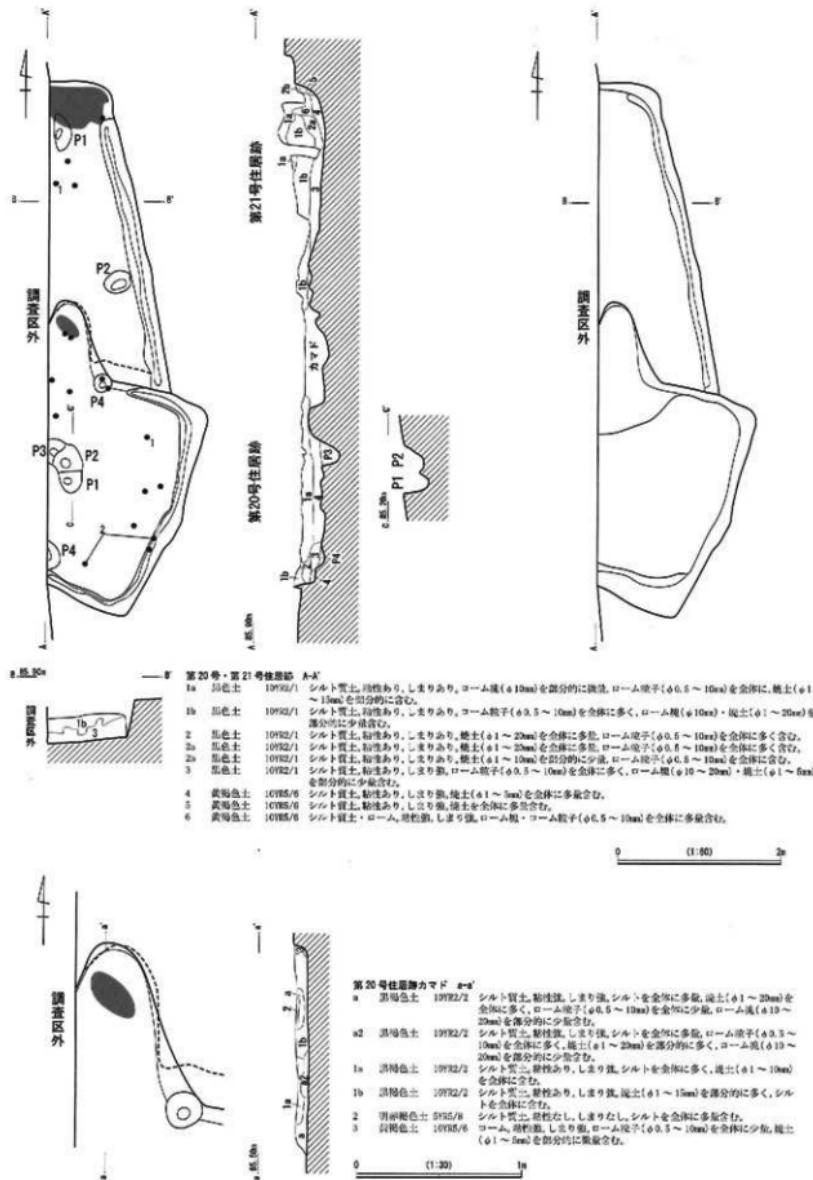
第 42 図 第 18 号・第 19 号住居跡 (SI-18・SI-19)



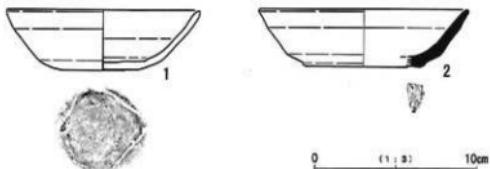
第43図 第18号住居跡 (SI-18) 出土遺物

第15表 第18号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	形状	残存	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	特徴	用途・特徴	埴土	色調	焼成	出土位置
1	環形器	環	灰基 ～灰胎	—	(6.2)	(2.4)	内外面：ロクロ・ナデ、底部：余割り	白色粘・小粗	2SY7/2 灰青色	良	表面	
2	土器	高台付 環	灰基 ～灰胎	—	8.4	(3.4)	内外面：ロクロ・ナデ、底部：余割り・付高台	白色粘	7SY8/2 灰藍色	良	表面	
3	土器	壺	口縁部	(22.0)	—	(5.0)	口縁内外面：微粒ナデ、体部外側：ヘラケズリ、体部内面：ヘラ	白色粘	7SY8/3 に赤い褐色	良	表面	
4	土器	壺	灰基 ～灰胎	—	(3.8)	(19.5)	外面：ヘラケズリ、内面：ヘラナデ・ナデ	黑色粘・白色粘	SY8/3 に赤い褐色	良	表面	
5	瓦	平瓦	—	—	厚各 2.1	(9.5)	正面：白目灰、凸面：格子タタキ・ヘラナデ	白色粘・小粗	7SY8/2 に赤い褐色	良	表面	



第 44 図 第 20 号・第 21 号住居跡 (SI-20・SI-21)・第 22 号住居跡 (SI-20) カマド



第45図 第20号住居跡(SI-20)出土遺物

第16表 第20号住居跡出土遺物観察表

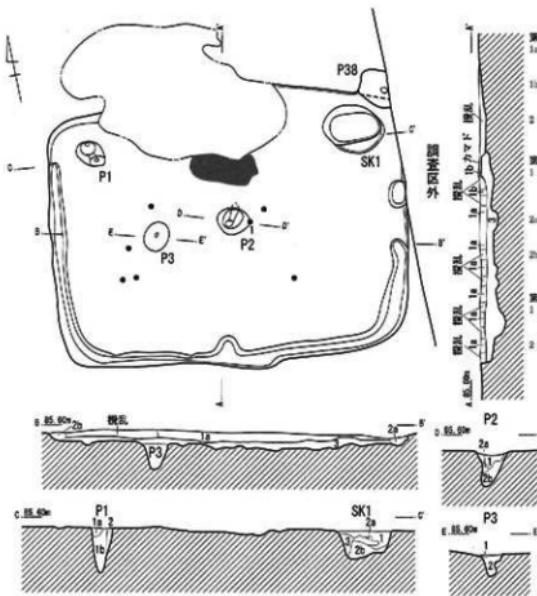
番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	厚さ (cm)	特徴	技法・特徴	土色	色調	焼成	出土位置
1	土器器	杯	口縁部 ～底部	11.8	4.8	3.7	内外面：ロクロ・ナデ、直縁；底面：赤褐色、圓潤ヘラケズリ	白色粒	7.5YR6/6 褐色	良	床面
2	土器器	平	口縁部 ～底部	12.8	7.4	3.5	内外面：ロクロ・ナデ、直縁；底面：赤褐色、圓潤ヘラケズリ	白色粒、薄色灰	2.5Y6/1 黃灰色	良	床面



第46図 第21号住居跡(SI-21)出土遺物

第17表 第21号住居跡出土遺物観察表

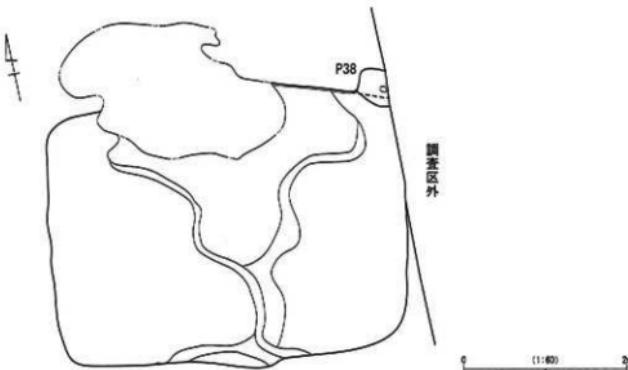
番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	厚さ (cm)	特徴	技法・特徴	土色	色調	焼成	出土位置
1	土器器	杯	口縁部 ～底部	14.0	-	3.0	二層内外面：褐色ナデ、直縁内面：ヘラケズリ、直縁内面：ヘテ ナデ・ナデ、内外面部分有	白色粒	2.5Y4/1 黃灰色	良	床面



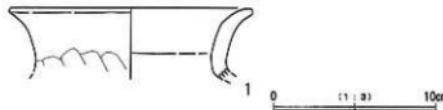
第 22 号住居跡 A-E-D-B-C

- 1a 黒褐色土 1978/2 シルト質土。粘性あり。しまり無。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に少含。粘土($\phi 1 \sim 3mm$)を部分的に多含。ローム度($\phi 10 \sim 50mm$)を部分的に含む。
 1b 黒褐色土 1978/3 シルト質土。粘性あり。しまり無。シルトを全体に多含む。
 2a 黒褐色土 1978/2 シルト質土。粘性あり。しまり無。ローム質。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多含む。則面。
 2b 黒褐色土 1978/1 シルト質土。粘性あり。しまり無。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多く、ローム度($\phi 10 \sim 50mm$)を部分的に多含む。
 3 黄褐色土 1978/6 ローム。粘性あり。しまり無。ローム・ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多含む。
 第 22 号住居跡 SK-1 D-C-E-B
- 1 黑褐色土 1978/1 ローム。粘性あり。しまり無。コーム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多く、コーム度($\phi 10 \sim 50mm$)を部分的に少含む。
 2 黑褐色土 1978/2 シルト質土。粘性あり。しまり無。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多く、ローム度($\phi 10 \sim 50mm$)を部分的に少含む。
 3 白い黒褐色土 1978/4 シルト質土。ローム。粘性あり。しまり無。ローム・コーム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多含む。
 4 黄褐色土 1978/6 ローム。粘性あり。しまり無。コーム度。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多含む。

6 (1:60) 2m



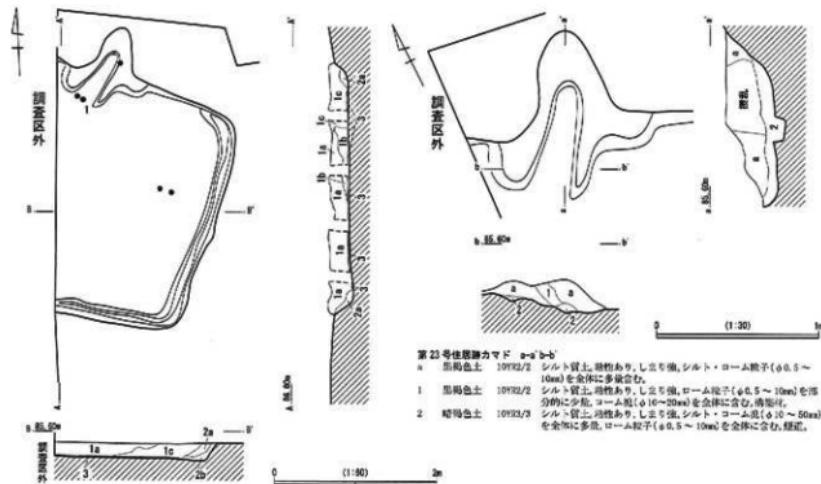
第 47 図 第 22 号住居跡 (SI-22)



第48図 第22号住居跡(SI-22)出土遺物

第18表 第22号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	容積	残存	口径(cm)	底径(cm)	厚さ(cm)	技法、特徴	黏土	色調	造成	出土状況
1	土器部	変	口縁部	(14.8)	-	(4.4)	二重片外唇: 鋸歯ナデ, 圓周内面: ヘラケズリ, 圓周内面: ヘタ ナデ, 小穴	泥質灰・白色灰 小孔・砂粒	10YR6/4 に5Y5/6灰褐色	良	床直



第49図 第23号住居跡(SI-23)



第50図 第23号住居跡(SI-23)出土遺物

第19表 第23号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	容積	口径(cm)	底径(cm)	厚さ(cm)	技法、特徴	粘土	色調	造成	出土状況	
1	鍬形器	平	口縁型 二重性	(15.6)	-	(3.2)	円外唇: ロクロ・ナデ	白色灰・黑色灰 小孔	25Y6/1 灰黑色	良	床直
2	土器部	底	把手型	-	-	-	外唇: ヘラナデ・凹頭状	白色灰	25Y7/3 浅灰色	良	灰土

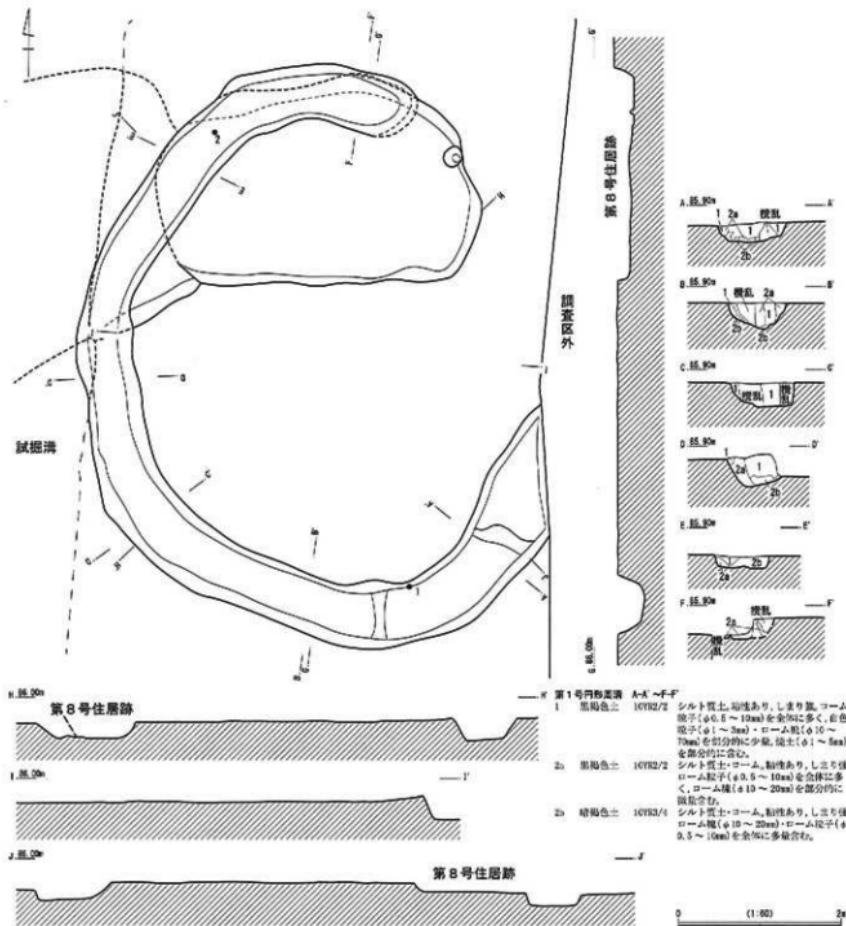
2. 円形周溝 (SZ)

第1号円形周溝 (SZ-01) (第51・52図・第20表)

C-2・3グリッドに位置する。北東部が開口する円形を呈し、東側の一部が調査区外へ続く。第7号住居跡 (SI-07) と第8号住居跡 (SI-08) を壊す。検出された規模は、外径 7.00m、内径 5.50m、周溝幅 0.65m ~ 1.00m、深さ 0.17m ~ 0.34m を測る。トレンチャーにより搅乱される箇所も多いが、断面形は浅いU字状、西側端部のみ検出された周溝端部は丸みを帯びる。

遺物は2点を掲載した。1は土師器の鉢、輪積み痕が明瞭に残る。2は須恵器の壺であるが、本遺構に帰属するものではない。

帰属時期は不明である。



第51図 第1号円形周溝 (SZ-01)



第 52 図 第 1 号円形周溝 (SZ-01) 出土遺物

第 20 表 第 1 号円形周溝出土遺物観察表

番号	概状	直軸	直軸	直軸	直軸	柱穴・軒檻	出土	色調	焼成	馬士位置
		(m)	(m)	(m)	(m)					
1 主跡部	□縦溝 ～底部	（1.20）	（7.6）	5.8	（ナメル）	柱内・外側：模様ナメル、外縁下の外側：ヘラケズリ、内面：ヘラ ナメル、ナメル	褐色系、古色系、 小窓・漆脱	10YR6/4 11.5YR5/4 黄褐色	良	覆土
2 範出部	环 ～底部	-	（6.0）	（1.5）	内外面：コタロ・ナメル。底部：条切9		白色系、淡色系	5Y6/1 5Y6/1 灰色	良	覆土

3. 掘立柱建物跡 (SB)

掘立柱建物跡は、現地調査時点で付番した 3 棟 (SB-01 ~ SB-03) と、第 23 号土坑 (SK-23)、第 24 号土坑 (SK-24)、第 25 号土坑 (SK-25) の 3 基を整理調査時にまとめた 1 棟 (SB-04) である。

第 1 号掘立柱建物跡 (SB-01) (第 53 図)

C - 5 グリッドに位置する。東西方向に桁行が向く 1 間 × 2 間の側柱建物跡で、規模は桁行 2.50m、梁行 1.86m、長軸方位は N - 84° - E を測る。柱穴は 6 箇所が検出された。P1 と P2 に柱当たりが確認される。

第 2 号掘立柱建物跡 (SB-02) (第 54 図)

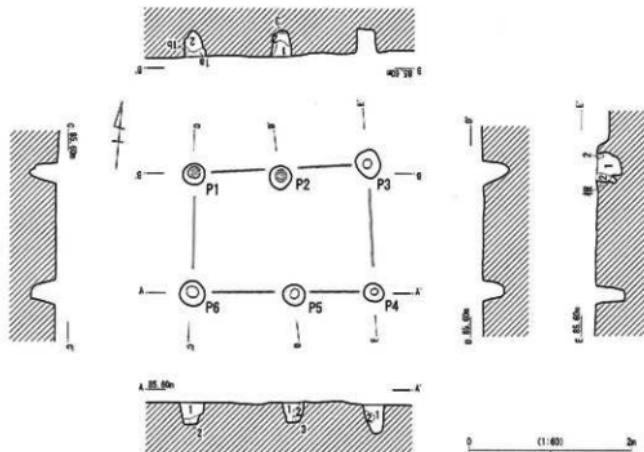
C - 5・6 グリッドに位置する。南北方向に桁行が向く 2 間 × 2 間の中央部に東柱を有する総柱建物跡である。P4 が 2 号溝に墳される。規模は桁行 4.56m、梁行 4.14m、長軸方位は N=0° を測る。柱穴は 9 箇所が検出される。P2 と P9 を除き柱当たりが確認される。

第 3 号掘立柱建物跡 (SB-03) (第 55 図)

E・F - 3・4 グリッドに位置する。南北方向に桁行が向く 2 間 × 2 間の中央部に東柱を有する総柱建物跡である。北東角部が調査区外へ続く。規模は桁行 4.29m、梁行 3.46m、長軸方位は N - 17° - E を測る。柱穴は 8 箇所が検出された。柱当たりは未確認である。

第 4 号掘立柱建物跡 (SB-04) (第 56 図)

整理作業時に第 23 ~ 25 号土坑 (SK-23 ~ 25) をまとめたものである。E・F - 2・3 グリッドに位置する。南北方向に桁行が向く。東側は調査区外へ続く。検出部分での規模は柱間 2.00m ~ 2.10m、長軸方位は N - 17° - E を測る。



第1号掘立柱建物跡 P1

1. 黒色土 10782/1 シルト質土、粘性強、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に散在含む。
2. 黒色土 10782/2 シルト質土、粘性強、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多く、ローム塊($\phi 10 \sim 50mm$)を部分的に散在含む。
3. 黑褐色土 10782/3 シルト質土、粘性強、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多く、ローム塊($\phi 10 \sim 50mm$)を部分的に少量含む。

第1号掘立柱建物跡 P2

1. 黒褐色土 10782/1 シルト質土、粘性強、しまり強。ローム塊($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に少量、ローム塊($\phi 10 \sim 20mm$)を部分的に含む。
2. 黄褐色土 10782/6 シルト質土、粘性強、しまり強。シルト・コーム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多量含む。
3. 黑褐色土 10782/6 シルト質土、ローム、粘性強、しまり強。シルト・コーム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多量含む。

第1号掘立柱建物跡 P3

1. 黒褐色土 10782/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多く、ローム塊($\phi 10 \sim 50mm$)を部分的に少量含む。
2. 黑褐色土 10782/1 シルト質土、粘性あり、しまりあり。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に少量、ローム塊($\phi 10 \sim 20mm$)を部分的に含む。

第1号掘立柱建物跡 P4

1. 黑褐色土 10782/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を部分的に多く、ローム塊($\phi 10mm$)を部分的に少量含む。
2. 黄褐色土 10782/2 シルト質土、粘性あり、しまりあり。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多量、ローム塊($\phi 10mm$)を部分的に少量含む。

第1号掘立柱建物跡 P5

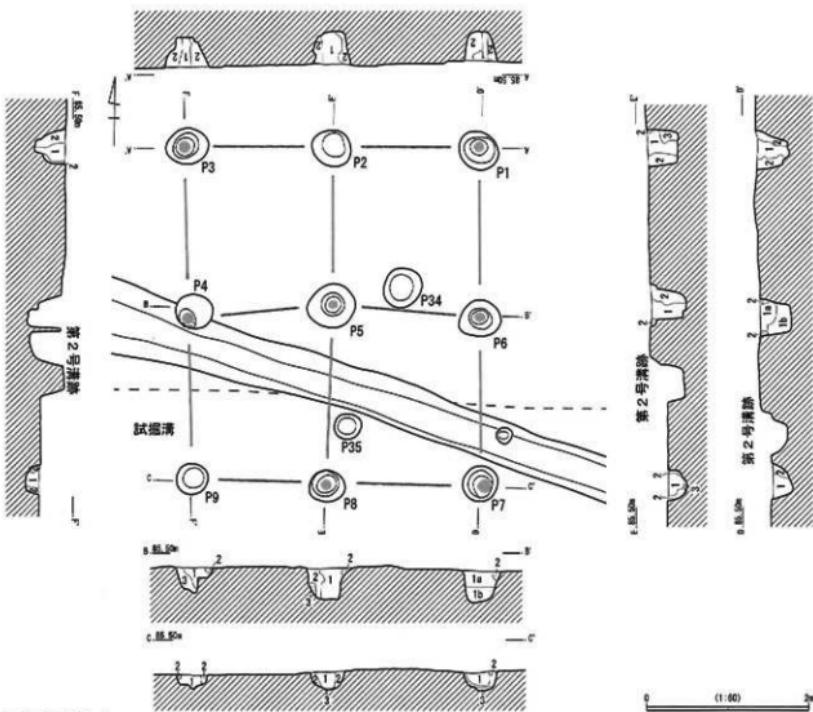
1. 黑褐色土 10782/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多く含む。
2. 黄褐色土 10782/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を部分的に多く含む。
3. 黑褐色土 10782/8 シルト質土、粘性あり、しまり強。シルト・コーム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多量含む。

第1号掘立柱建物跡 P6

1. 黑褐色土 10782/2 シルト質土、粘性あり、しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を部分的に少量含む。

ピット名	延長 (m)	幅幅 (m)	深さ (m)	回号
P1	0.27	0.20	0.32	柱当たる
P2	0.29	0.27	0.33	柱当たる
P3	0.35	0.30	0.31	
P4	0.24	0.22	0.26	
P5	0.26	0.25	0.25	
P6	0.31	0.31	0.28	

第53図 第1号掘立柱建物跡 (SB-01)



第2号柱立柱建物跡 P1

- 1 黄土土 10192/1 シルト質土・粒性あり、しまりあり。ローム塊(ø10 ~ 30mm)を部分的に少度、ローム粒子(ø0.5 ~ 10mm)を全体に含む。
- 2 黄褐色土 10192/2 シルト質土・粒性あり、しまりあり。ローム粒子(ø0.5 ~ 10mm)を全体に多量、ローム塊を全体に多く含む。

第2号柱立柱建物跡 P2

- 1 黄土土 10192/1 シルト質土・粒性あり、しまりあり。ローム粒子(ø0.5 ~ 10mm)を全体に多く、ローム塊(ø10 ~ 30mm)を部分的に少度含む。
- 2 黄褐色土 10192/6 シルト質土・ローム・粒性あり、しまりあり。ローム粒子(ø0.5 ~ 10mm)を全体に多く、ローム塊を部分的に多く含む。

第2号柱立柱建物跡 P3

- 1 黄土土 10192/1 シルト質土・ローム・粒性あり、しまりなし。ローム粒子(ø0.5 ~ 10mm)を全体に少度、ローム塊(ø1 ~ 10mm)・黄土(ø1 ~ 5mm)を部分的に微量含む。
- 2 黄褐色土 10192/6 シルト質土・ローム・粒性あり、しまりなし。ローム粒子(ø0.5 ~ 10mm)を全体に多く、ローム塊(ø10 ~ 70mm)・黄土(ø1 ~ 5mm)を部分的に微量含む。

第2号柱立柱建物跡 P4

- 1 黄土土 10192/1 シルト質土・粒性差、しまりなし。ローム粒子(ø0.5 ~ 10mm)を全体に少度、ローム塊(ø10 ~ 30mm)を部分的に含む。
- 2 黄褐色土 10192/6 シルト質土・ローム・粒性差、しまり差。シルト・コーム粒子(ø0.5 ~ 10mm)を全体に多量含む。
- 3 黄褐色土 10192/6 シルト質土・ローム・粒性差、しまり差。シルト・コーム粒子(ø0.5 ~ 10mm)を全体に多量含む。

第2号柱立柱建物跡 P5

- 1 黄土土 10192/1 シルト質土・粒性あり、しまりあり。ローム粒子(ø0.5 ~ 10mm)を全体に多く、ローム塊(ø10 ~ 40mm)を部分的に少度含む。
- 2 黄褐色土 10192/6 シルト質土・ローム・粒性差、しまりあり。ローム粒子(ø0.5 ~ 10mm)を全体に多く、シルト(ø1 ~ 5mm)・ローム塊(ø10 ~ 30mm)を全体に微量、ローム塊(ø10 ~ 40mm)を部分的に含む。
- 3 黄褐色土 10192/6 ローム・粒性差、しまりなし。シルト・ローム塊(ø0.5 ~ 10mm)を全体に多量含む。

第2号柱立柱建物跡 P6

- 1a 黄土土 10192/1 シルト質土・粒性あり、しまりあり。ローム粒子(ø0.5 ~ 10mm)を全体に多く、ローム塊(ø10 ~ 40mm)を部分的に少度含む。
- 1b 黄褐色土 10192/2 シルト質土・ローム・粒性あり、しまりあり。ローム粒子(ø0.5 ~ 10mm)を全体に多く、シルト(ø1 ~ 5mm)・ローム塊(ø0.5 ~ 10mm)を全体に多量含む。
- 2 黄褐色土 10192/3 シルト質土・ローム・粒性あり、しまりあり。ローム・シルト・ローム塊(ø0.5 ~ 10mm)を全体に多量含む。

第2号柱立柱建物跡 P7

- 1 黄土土 10192/1 シルト質土・粒性あり、しまりあり。ローム粒子(ø0.5 ~ 10mm)を全体に少度、ローム塊(ø10 ~ 50mm)を部分的に少度含む。
- 2 黄褐色土 10192/2 シルト質土・粒性あり、しまりあり。ローム粒子(ø0.5 ~ 10mm)を全体に少度、ローム塊(ø10 ~ 30mm)を部分的に少度含む。
- 3 黄褐色土 10192/6 ローム・粒性差、しまり差。シルト・ローム粒子(ø0.5 ~ 10mm)を全体に多量含む。

第2号柱立柱建物跡 P8

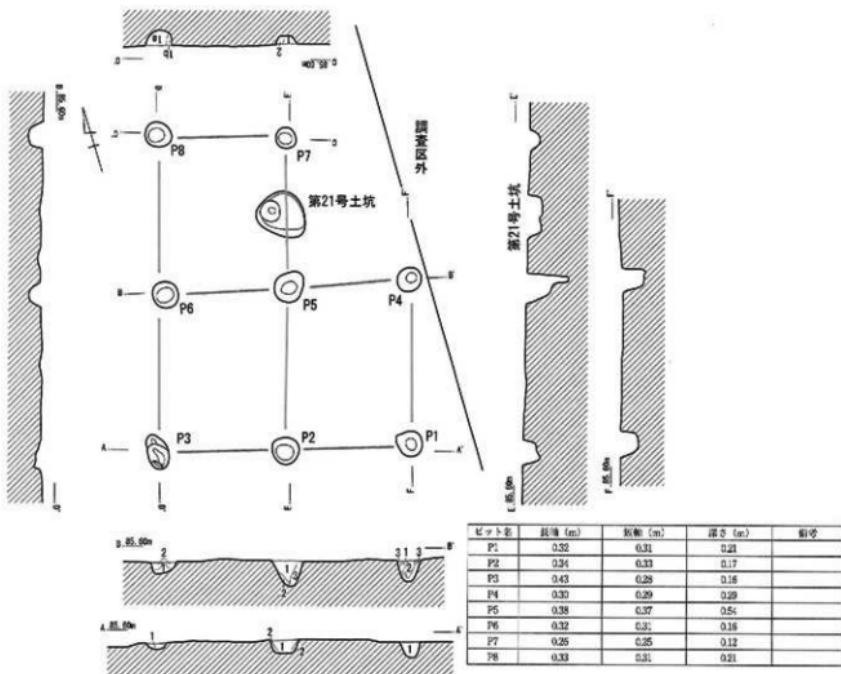
- 1 黄土土 10192/1 シルト質土・粒性あり、しまりあり。ローム粒子(ø0.5 ~ 10mm)を全体に多く、ローム塊(ø10 ~ 15mm)を全体に多く、ローム塊(ø10 ~ 20mm)を部分的に少度含む。
- 2 黄褐色土 10192/1 シルト質土・粒性あり、しまりあり。ローム粒子(ø0.5 ~ 10mm)を全体に少度、ローム塊(ø10 ~ 15mm)を全体に少度含む。
- 3 黄褐色土 10192/6 ローム・粒性差、しまり差。シルト・ローム粒子(ø0.5 ~ 10mm)を全体に多量含む。

第2号柱立柱建物跡 P9

- 1 黄褐色土 10192/2 シルト質土・粒性あり、しまりあり。ローム粒子(ø0.5 ~ 10mm)を全体に多量、ローム塊(ø10 ~ 50mm)を部分的に少度含む。
- 2 黄褐色土 10192/3 シルト質土・粒性あり、しまりあり。ローム粒子(ø0.5 ~ 10mm)を全体に多量、ローム塊(ø10 ~ 30mm)を部分的に少度含む。

ピット名	長幅 (m)	短幅 (m)	深さ (m)	備考
P1	0.48	0.08	0.38	柱当たり
P2	0.48	0.44	0.42	
P3	0.53	0.44	0.38	柱当たり
P4	0.46	0.42	0.46	柱当たり
P5	0.59	0.54	0.45	柱当たり
P6	0.52	0.45	0.43	柱当たり
P7	0.43	0.42	0.44	柱当たり
P8	0.44	0.39	0.40	柱当たり
P9	0.39	0.38	0.33	

第54図 第2号掘立柱建物跡 (SB-02)



第3号獨立柱建物跡 P1
1 黒褐色土 10YR2/2 シルト質土。粘性あり。しまりなし。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多く、ローム風($\phi 10 \sim 20\text{mm}$)を部分的に少含む。

第3号獨立柱建物跡 P2
1 黒褐色土 10YR2/2 シルト質土。粘性あり。しまり無。ローム風($\phi 10 \sim 20\text{mm}$)、ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を部分的に少含む。

2 黄褐色土 10YR2/2 シルト質土。粘性あり。しまり無。ローム風($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多く、ローム風を部分的に含む。

第3号獨立柱建物跡 P3
1 黑色土 10YR4/4 シルト質土。ローム。粘性あり。しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に少含。ローム風を部分的に含む。

第3号獨立柱建物跡 P4
1 黑褐色土 10YR2/2 シルト質土。ローム。粘性あり。しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に少含む。

2 黄褐色土 10YR2/2 ローム、粘性あり。しまり弱。ローム風、ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多含む。

3 黑褐色土 10YR2/3 レシット質土。粘性あり。しまり弱。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に少含。ローム風($\phi 10 \sim 20\text{mm}$)を部分的に含む。

第3号獨立柱建物跡 P5
1 黑褐色土 10YR2/2 シルト質土。ローム。粘性あり。しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に少含む。

2 黄褐色土 10YR2/6 シルト質土。粘性あり。しまり弱。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に少含。ローム風($\phi 10 \sim 20\text{mm}$)を部分的に多含む。

3 黑褐色土 10YR2/2 シルト質土。粘性あり。しまり弱。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多含む。

第3号獨立柱建物跡 P6
1 黑色土 10YR2/1 シルト質土。ローム。粘性あり。しまりなし。ローム風、ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多含む。

2 黄褐色土 10YR2/1 シルト質土。ローム。粘性あり。しまりなし。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に少含む。

第3号獨立柱建物跡 P7
1 黑色土 10YR2/1 シルト質土。粘性あり。しまりあり。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多く、ローム風($\phi 10 \sim 20\text{mm}$)を部分的に少含。地土($\phi 1 \sim 5\text{cm}$)を部分的に微含む。

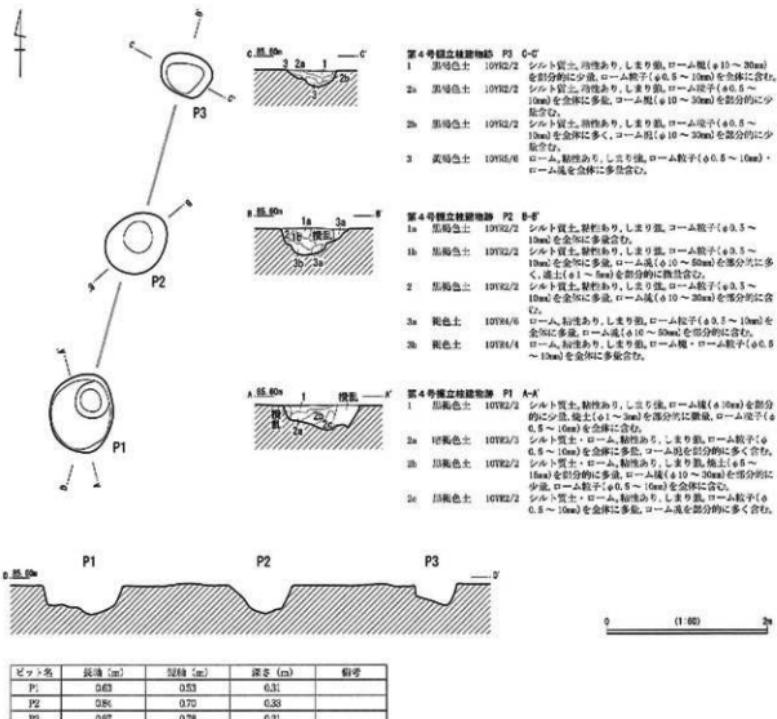
2 黑色土 10YR2/1 シルト質土。ローム。粘性あり。しまりあり。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多含。ローム風($\phi 10 \sim 20\text{mm}$)を部分的に微含む。

第3号獨立柱建物跡 P8
1a 泥炭色土 10YR2/2 シルト質土。粘性あり。しまりあり。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多く、ローム風($\phi 10 \sim 20\text{mm}$)を部分的に少含む。

1b 泥炭色土 10YR2/2 シルト質土。粘性あり。しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に少含。ローム風($\phi 10 \sim 20\text{mm}$)を部分的に微含。

6 (1:60) 38

第55図 第3号掘立柱建物跡 (SB-03)



第 56 図 第 4 号掘立柱建物跡 (SB-04)

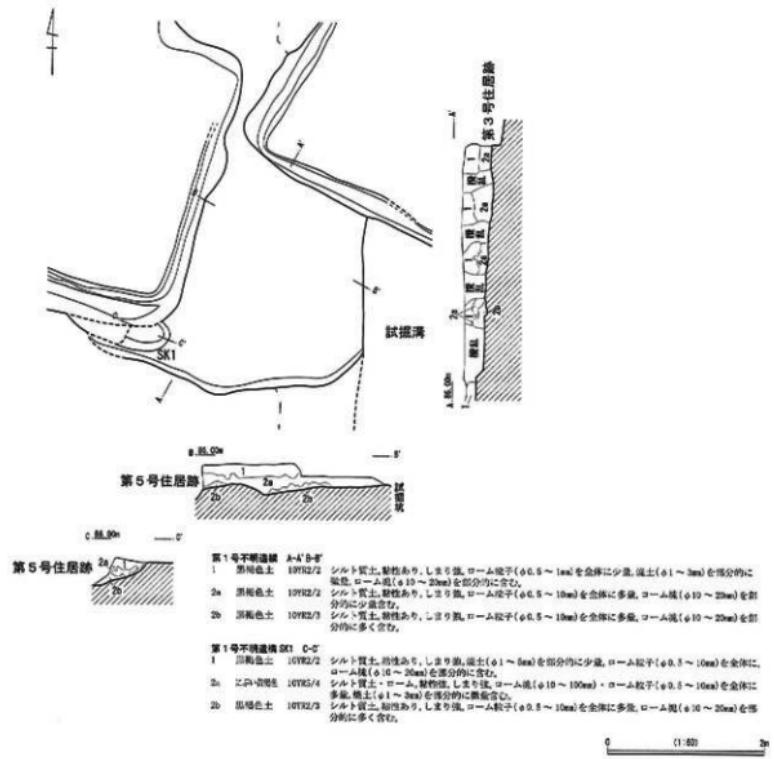
4. 性格不明遺構 (SX)

第 1 号性格不明遺構 (SX-01) (第 57・58 図・第 21 表)

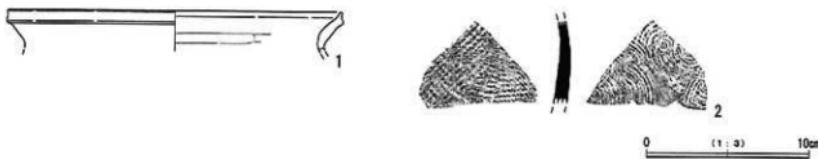
C-2 グリッドに位置する。平面形は不整形が推定され、壁面は外反して立ち上がる。西側を 5 号住居跡 (SI-05)、東側を 3 号住居跡 (SI-03) に接する。平面規模は不明、深さ 0.4m を測る。床面はトレンチャーより激しく擾乱されていたが、概ね平坦である。付帯施設の可能性として土坑 1 基 (SK1) が検出されるが、一部分の検出のため詳細は不明である。

遺物は 2 点を掲載した。1 は土師器の壺、2 は須恵器の壺である。どちらも本遺構に帰属するものではないと考える。

帰属性は不明である。



第 57 図 第 1 号性格不明遺構 (SX-01)



第 58 図 第 1 号性格不明遺構 (SX-01) 出土遺物

第 21 表 第 1 号性格不明遺構出土遺物観察表

番号	種別	型様	残存	口径 (mm)	底径 (mm)	厚さ (mm)	状況	特徴・呼称	粘土	魚鱗	焼成	出土位置
1	土器部	束	口縁部	30.2	-	(2.5)	口縁内外裏：微波ナメ		白色灰・小瘤	7.5TR6/4 (1.5mm)	真	覆土
2	瓶底部	束	全体	-	-	-	外側：母子タケキ、内側：同心円状凸起部		白色灰	7.5TR4/1 褐色灰	真	覆土

5. 土坑（SK）

第1号土坑（SK-01）（第59図）

C-3グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。南側を第6号土坑（SK-06）に壊される。規模は長軸0.95m以上、短軸0.70m、深さ0.24m、長軸方位はN-30°-Wを測る。

第2号土坑（SK-02）（第60図）

C-3グリッドに位置する。平面系は不整椭円形を呈する。規模は長軸1.17m、短軸0.70m、深さ0.42m、長軸方位はN-16°-Eを測る。

第3号土坑（SK-03）（第59図）

C-3グリッドに位置する。平面系は不整椭円形を呈する。東側は調査区外へ続く。規模は長軸2.00m以上、短軸0.72m、深さ0.29m、長軸方位はN-70°-Wを測る。

第4号土坑（SK-04）（第61図）

C-3・4グリッドに位置する。平面系は楕円形を呈する。規模は長軸1.13m、短軸0.43m、深さ0.38m、長軸方位はN-20°-Eを測る。

第5号土坑（SK-05）（第62図）

C-3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。規模は長軸2.37m、短軸0.67m、深さ0.53m、長軸方位はN-45°-Wを測る。

第6号土坑（SK-06）（第59図）

C-3グリッドに位置する。平面形は長方形が推定される。西側で第1号土坑（SK-01）を壊し、東側は調査区外へ続く。規模は長軸1.38m以上、短軸0.76m、深さ0.39m、長軸方位はN-47°-Wを測る。

第7号土坑（SK-07）（第63図）

C-3グリッドに位置する。平面形は不整円形を呈する。規模は長軸0.93m、短軸0.84m、深さ0.17m、長軸方位はN-72°-Eを測る。

第8号土坑（SK-08）（第64図）

C-3・4グリッドに位置する。平面形は楕円形が推定される。南側を第9号土坑（SK-09）、第1号溝跡（SD-01）に壊される。東側は調査区外へ続く。規模は長軸1.09m以上、短軸0.59m、深さ0.43m、長軸方位はN-60°-Wを測る。

第9号土坑（SK-09）（第64図）

C-3・4グリッドに位置する。平面形は楕円形が推定される。第8号土坑（SK-08）を壊し、東側を第1号溝跡（SD-01）に壊される。規模は長軸2.23m以上、短軸0.22m、深さ0.32m、長軸方位はN-76°-Wを測る。

第10号土坑（SK-10）（第65図）

B-5グリッドに位置する。平面形は不整椭円形を呈する。規模は長軸1.27m、短軸0.49m、深さ0.19m、長軸方位はN-17°-Wを測る。

第 11 号土坑 (SK-11) (第 66 図)

B - 5・6 グリッドに位置する。平面形は橢円形を呈する。規模は長軸 0.56m, 短軸 0.40m, 深さ 0.11m, 長軸方位は N - 18° - E を測る。

第 12 号土坑 (SK-12) (第 67 図)

B - 6 グリッドに位置する。平面形は橢円形を呈する。規模は長軸 0.50m, 短軸 0.40m, 深さ 0.13m, 長軸方位は N - 33° - E を測る。

第 13 号土坑 (SK-13) (第 68 図)

B - 6 グリッドに位置する。平面形は橢円形を呈する。規模は長軸 0.66m, 短軸 0.56m, 深さ 0.12m, 長軸方位は N - 87° - W を測る。

第 14 号土坑 (SK-14) (第 69 図)

B - 6 グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。規模は長軸 0.46m, 短軸 0.43m, 深さ 0.22m を測る。

第 15 号土坑 (SK-15) (第 70 図)

C - 5 グリッドに位置する。平面形は橢円形を呈する。規模は長軸 0.91m, 短軸 0.70m, 深さ 0.17m, 長軸方位は N - 68° - E を測る。

第 16 号土坑 (SK-16) (第 71 図)

C・D - 6 グリッドに位置する。平面形は橢円形を呈する。規模は長軸 0.73m, 短軸 0.40m, 深さ 0.20m, 長軸方位は N - 70° - E を測る。

第 17 号土坑 (SK-17) (第 72 図)

D - 5 グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。規模は長軸 0.89m, 短軸 0.87m, 深さ 0.24m を測る。

第 18 号土坑 (SK-18) (第 73 図)

E - 5 グリッドに位置する。平面形は不整形を呈する。規模は長軸 1.72m, 短軸 1.51m, 深さ 0.44m, 長軸方位は N - 60° - E を測る。

第 19 号土坑 (SK-19) (第 74 図)

D - 4 グリッドに位置する。平面形はほぼ円形を呈する。規模は長軸 1.39m, 短軸 1.22m, 深さ 0.74m, 長軸方位は N - 78° - W を測る。

第 20 号土坑 (SK-20) (第 75 図)

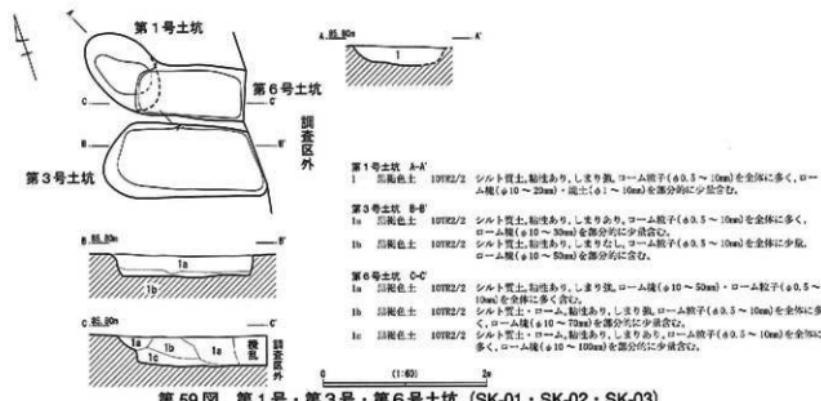
E - 4 グリッドに位置する。平面形はほぼ円形を呈する。規模は長軸 0.93m, 短軸 0.81m, 深さ 0.39m, 長軸方位は N - 67° - W を測る。

第 21 号土坑 (SK-21) (第 76 図)

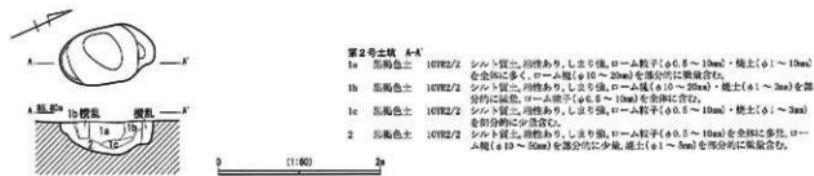
E - 4 グリッドに位置する。平面形は不整形を呈する。第 3 号掘立柱建物跡内 (SB-01) に位置する。規模は長軸 0.64m, 短軸 0.53m, 深さ 0.30m, 長軸方位は N - 48° - W を測る。

第25号土坑 (SK-25) (第77図)

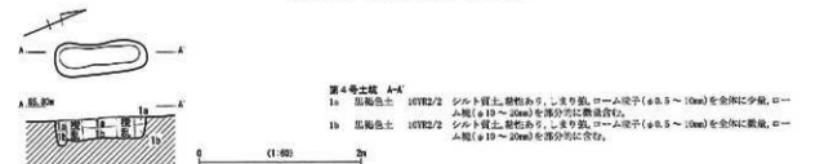
E-4グリッドに位置する。平面形は不整橢円形を呈する。規模は長軸0.80m、短軸0.44m、深さ0.19m、長軸方位はN-10°-Wを測る。



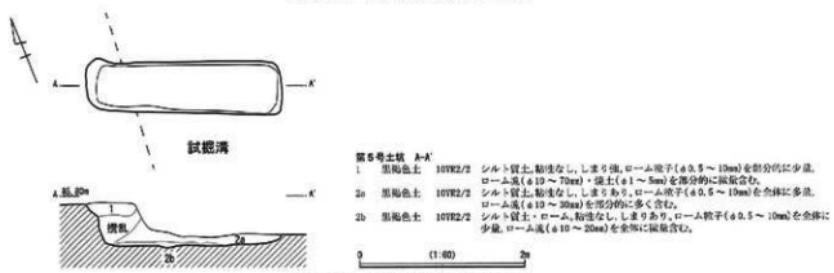
第59図 第1号・第3号・第6号土坑 (SK-01・SK-02・SK-03)



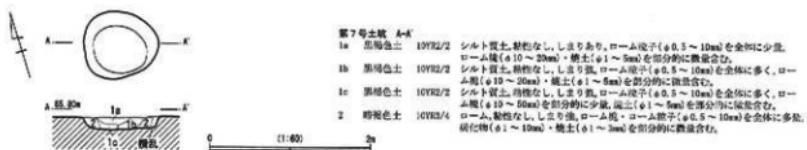
第60図 第2号土坑 (SK-02)



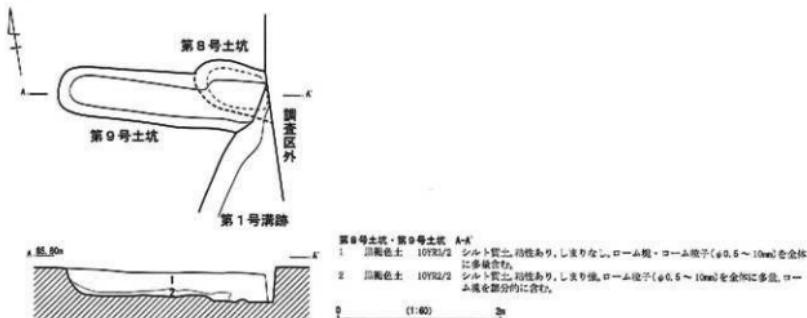
第61図 第4号土坑 (SK-04)



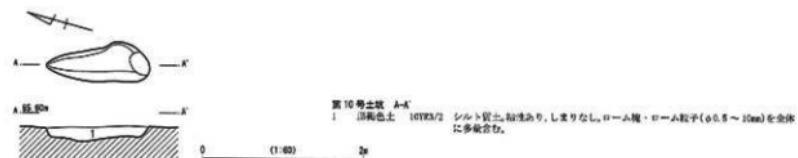
第62図 第5号土坑 (SK-05)



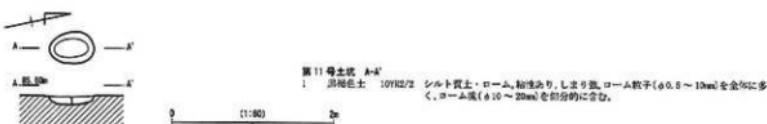
第63図 第7号土坑 (SK-07)



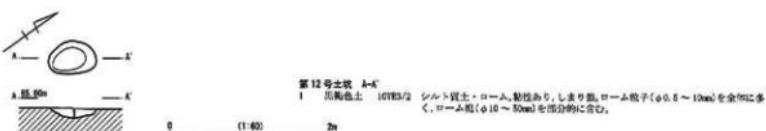
第64図 第8号・第9号土坑 (SK-08・SK-09)



第65図 第10号土坑 (SK-10)



第66図 第11号土坑 (SK-11)



第67図 第12号土坑 (SK-12)

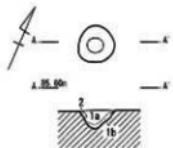


A. 1.5-2.0m —— K

第 13 号土坑 A-A'
1 黒褐色土 10YR2/2 シルト質土・ローム・粘性あり。しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多く、ローム塊($\phi 10 \sim 20mm$)を部分的に少數含む。



第 68 図 第 13 号土坑 (SK-13)

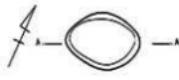


A. 1.5-2.0m —— K

第 14 号土坑 A-A'
1a 深褐色土 10YR2/2 シルト質土・粘性あり。しまり強。ローム塊($\phi 10 \sim 20mm$)・ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を部分的に少數含む。
1b 暗褐色土 10YR3/3 シルト質土・粘性あり。しまり強。ローム塊($\phi 0.5 \sim 10mm$)を部分的に少數含む。ローム塊を全体に多く含む。
2 暗褐色土 10YR3/3 シルト質土・ローム・粘性あり。しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多く含む。ローム塊($\phi 10 \sim 20mm$)を部分的に少數含む。粘性を部分的に含む。



第 69 図 第 14 号土坑 (SK-14)

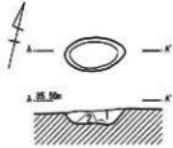


A. 1.5-2.0m —— K

第 15 号土坑 A-A'
1 黒褐色土 10YR2/2 シルト質土・ローム・粘性あり。しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多く含む。ローム塊を部分的に含む。



第 70 図 第 15 号土坑 (SK-15)

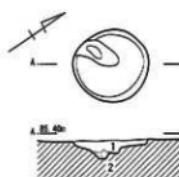


A. 1.5-2.0m —— K

第 16 号土坑 A-A'
1 黒褐色土 10YR2/2 シルト質土・粘性あり。しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に少數。ローム塊($\phi 10 \sim 20mm$)を部分的に多く含む。地土(A)～5mmを部分的に含む。
2 黄褐色土 10YER5/5 シルト質土・ローム・粘性あり。しまり強。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多數。ローム塊を部分的に含む。



第 71 図 第 16 号土坑 (SK-16)



A. 1.5-2.0m —— K

第 17 号土坑 A-A'
1 黄色土 10YR2/1 シルト質土・ローム・粘性あり。しまりあり。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に少數。ローム塊($\phi 10 \sim 20mm$)を部分的に多く含む。
2 黄色土 10YR2/1 シルト質土・ローム・粘性あり。しまりなし。ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を全体に多數。ローム塊を全体に多く含む。



第 72 図 第 17 号土坑 (SK-17)

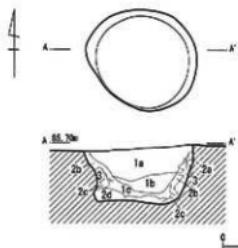


A. 1.5-2.0m —— K

第 18 号土坑 A-A'
1 黄色土 10YR2/1 シルト質土・粘性あり。しまり強。白色粒子($\phi 1 \sim 3mm$)・ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)・ストリッピング($\phi 2 \sim 5mm$)を部分的に少數含む。
2 黄色土 10YR2/1 シルト質土・粘性あり。しまり強。ローム塊・ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10mm$)を部分的に多く、白色粒子($\phi 1 \sim 3mm$)を部分的に質重含む。

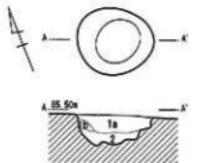


第 73 図 第 18 号土坑 (SK-18)



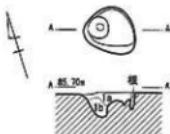
第19号土坑 A-A'	
1a	黒褐色土 10TR2/2 シルト質土, 动性なし, しまり強, 白色粘子(φ1~3mm), ローム粒子(φ0.5~10mm)を部分的に混含。
1b	黒褐色土 10TR2/2 シルト質土, 动性なし, しまり強, 硅土(φ1~10mm)を部分的に混含, コーム粘子(φ0.5~10mm)を含む。白色粘子(φ1~2mm)を部分的に混含。
1c	黒褐色土 10TR2/2 シルト質土, 动性なし, しまり強, 硅土(φ1~5mm)を部分的に混含。
2a	暗褐色土 10TR3/3 シルト質土, 动性なし, しまり強, ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く, スカリア(φ1~10mm)を部分的に混含。
2b	暗褐色土 10TR3/3 シルト質土, 动性なし, しまり強, ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く, 硅土(φ0.5~10mm)を部分的に混含。
2c	暗褐色土 10TR3/2 シルト質土, 动性なし, しまり強, ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く, ローム泥(φ0~3mm)を部分的に混含。
2d	暗褐色土 10TR3/2 シルト質土, 动性なし, しまり強, ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く, ローム泥(φ0~3mm)を部分的に混含。
3	黄褐色土 10TR5/6 ローム, 动性なし, しまり弱, ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量含む。

第74図 第19号土坑 (SK-19)



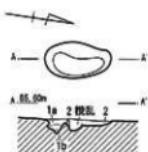
第20号土坑 A-A'	
1a	泥炭土 10TR2/1 シルト質土, 油性あり, しまり強, ローム粒子(φ0.5~10mm)を部分的に少含。
1b	泥炭土 10TR2/1 シルト質土, 油性あり, しまり強, ローム粒子(φ0.5~10mm)を部分的に少含。
2	泥炭土 10TR2/2 シルト質土, 油性あり, しまり強, ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量含む, ローム泥(φ0~10mm)を部分的に含む。

第75図 第20号土坑 (SK-20)



第21号土坑 A-A'	
1a	暗褐色土 10TR2/2 シルト質土, ローム, 油性あり, しまり強, ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く, ローム泥(φ10~30mm)を部分的に少含。
1b	暗褐色土 10TR3/2 シルト質土, ローム, 油性あり, しまり強, ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く, 硅土(φ1~10mm)を部分的に少含。

第76図 第21号土坑 (SK-21)



第25号土坑 A-A'	
1a	粘土土 10TR2/1 シルト質土, 油性あり, しまり強, ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量含む, ローム泥(φ10~100mm)を部分的に多く含む。
1b	粘土土 10TR4/4 シルト質土, ローム, 油性あり, しまりなし, ローム泥, コーム粘子(φ0.5~10mm)を含む。
2	粘土土 10TR2/2 シルト質土, ローム, 油性あり, しまりなし, ローム泥(φ10~80mm)を部分的に多く, ローム泥(φ0.5~10mm)を全体に含む。

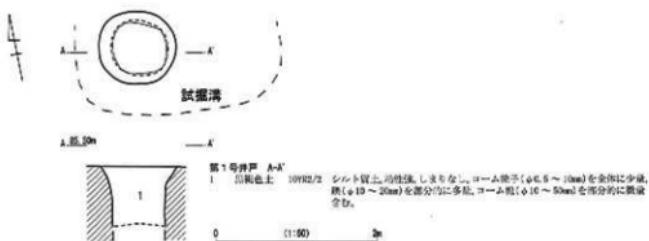
第77図 第25号土坑 (SK-25)

6. 井戸跡 (SE)

第1号井戸跡 (SE-01) (第 78 図)

C - 4 グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。壁面はやや外反しており、断面形は漏斗状を呈する。平面規模は $0.97m \times 0.90m$ 、深さは $0.75m$ 以上を測る。覆土には人頭台大の礫を充填して埋められた様相が確認された。

中世以降の帰属が推定される。



第 78 図 第1号井戸跡 (SE-01)

7. 溝跡 (SD)

第1号溝跡 (SD-01) (第 79 図)

B・C - 4 ~ 6 グリッドに位置する。平面形は北東から南東方向にやや西側に弧を描くが、ほぼ直線的に延びる。両端はそれぞれ調査区外へ続く。第8号 (SK-08)・第9号土坑 (SK-09) を壊し、第2号溝 (SD-02) に壊される。平面規模は長さ $26.50m$ 以上、幅 $0.75m \sim 1.00m$ 、深さは $0.35m \sim 0.40m$ を測る。長軸方位は N - 25° - E を測る。

中世以降の帰属が推定される。

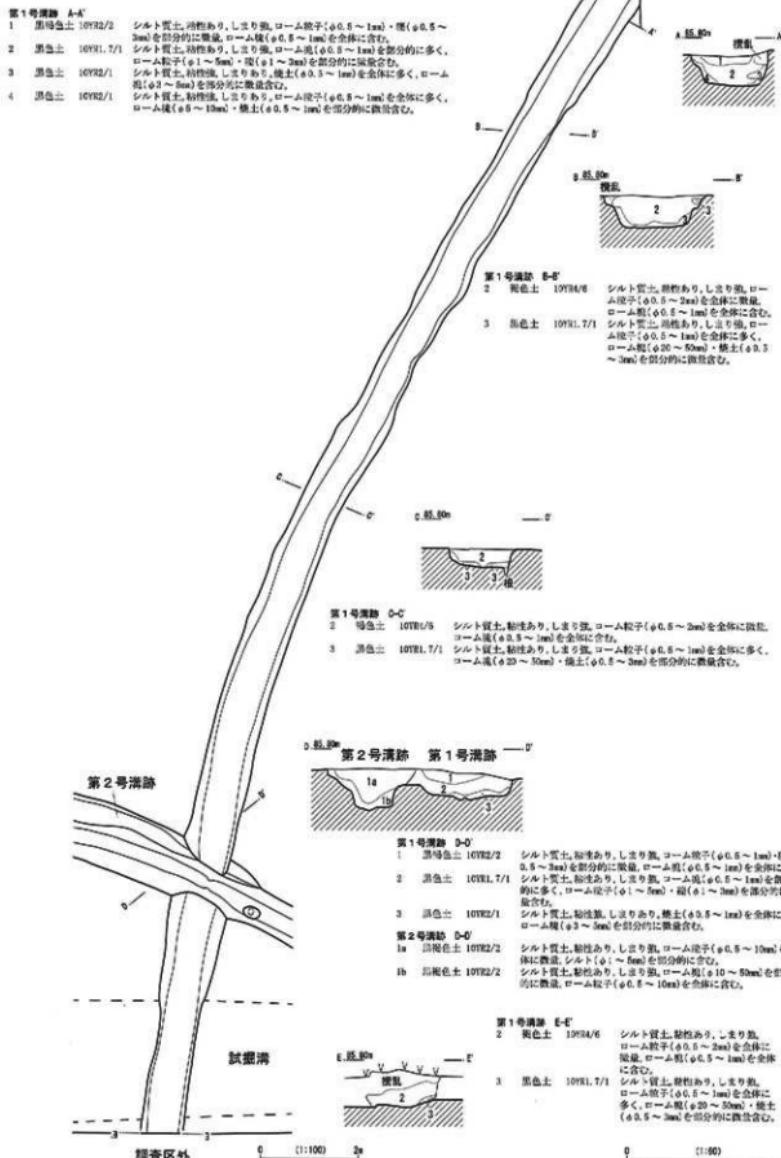
第2号溝跡 (SD-02) (第 80 図)

B ~ D - 5・6 グリッドに位置する。平面形は北西から南東方向に直線的に伸びる。両端はそれぞれ調査区外へ続く。第1号溝 (SD-01) を壊し、切合い部付近から西側方向の北側上端部に拡張された様相が確認される。平面規模は長さ $20.30m$ 以上、幅 $0.70m \sim 1.30m$ 、深さは $0.24m \sim 0.49m$ を測る。長軸方位は N - 30° - W を測る。

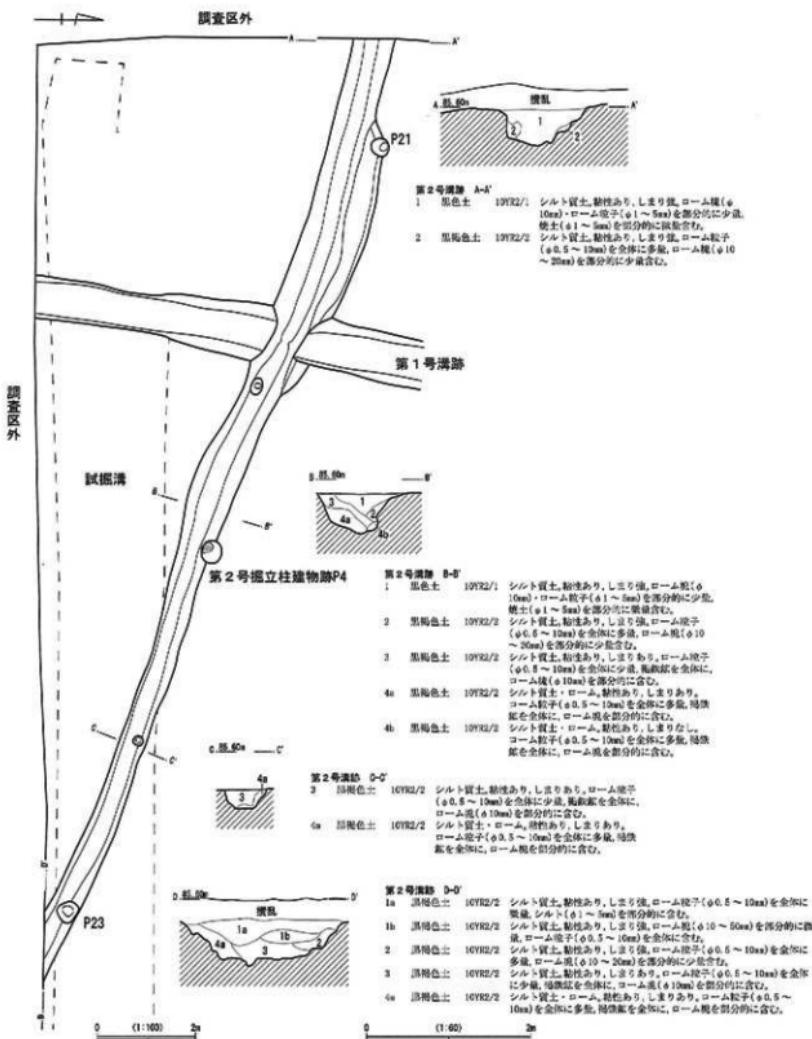
中世以降の帰属が推定される。

8. ピット (第 81 ~ 84 図・第 22 表)

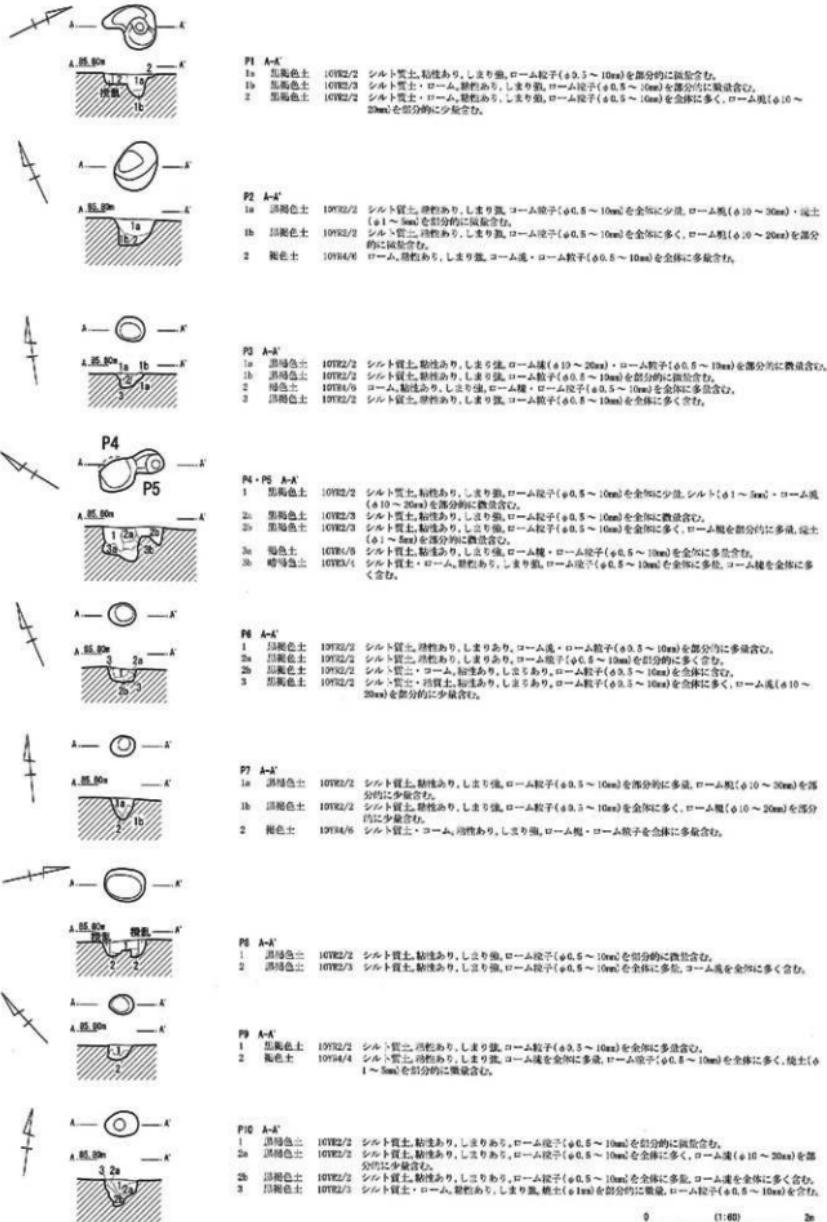
ピットは C - 3・4 グリッドと B - 5・6 グリッドにややまとまって検出された。ピット同士が組み合って掘立柱建物を成すわけでもなく、ピット間の距離もまちまちであり目的や用途などの推定はできない。



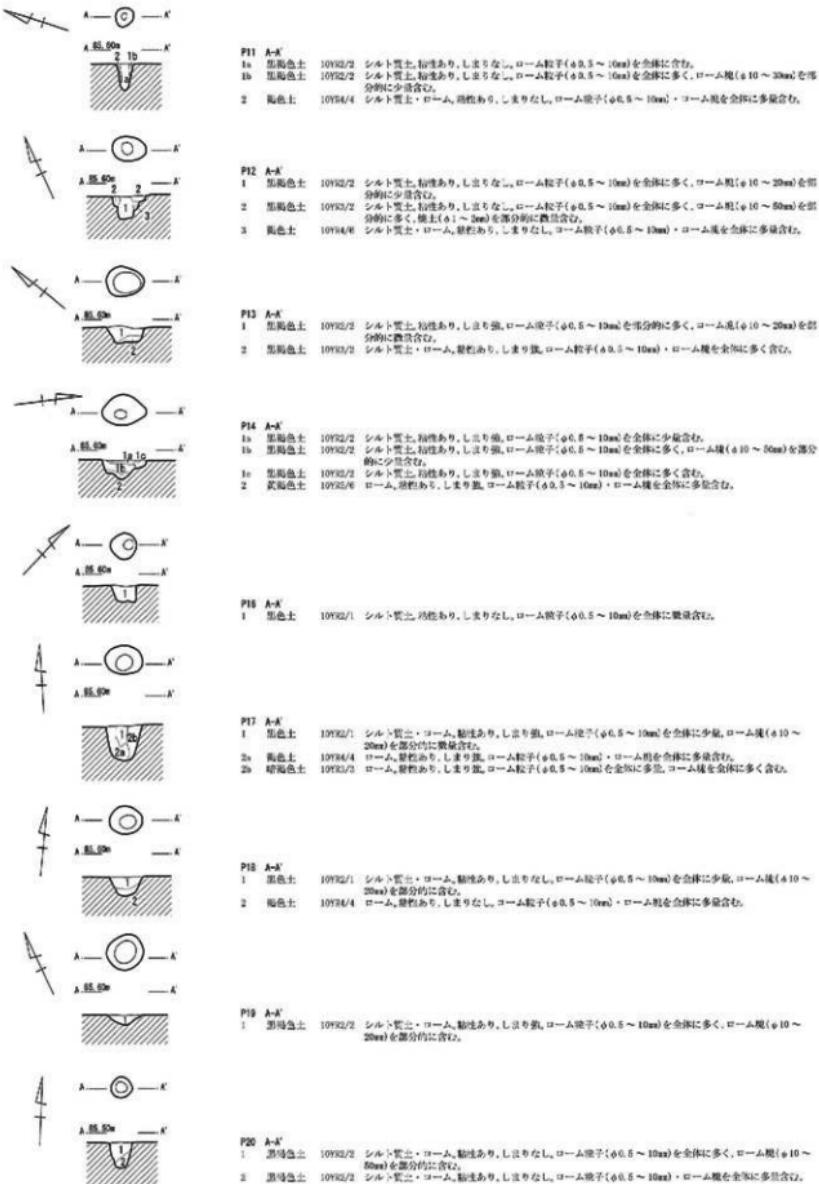
第79図 第1号溝跡 (SD-01)



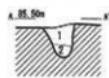
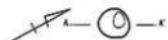
第80図 第2号溝跡 (SD-02)



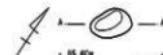
第 81 図 ピット (1)



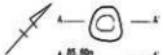
第82図 ピット(2)



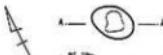
- P21 A-A'
- 1 黒褐色土 10YR2/2 シルト質土・ローム・粘性あり・しまりなし・ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多く、コーム塊($\phi 10 \sim 50\text{mm}$)を全層に少量含む。
 - 2 黄褐色土 10YR5/6 シルト質土・ローム・粘性あり・しまりなし・ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多量、ローム塊($\phi 10 \sim 50\text{mm}$)を全層に多く含む。



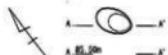
- P22 A-A'
- 1 淡褐色土 10YR2/2 シルト質土・粘性あり・しまり強・ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多く、ローム塊($\phi 10 \sim 50\text{mm}$)を部分的に含む。
 - 2 青褐色土 10YR5/6 ローム・粘性あり・しまりなし・ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)・ローム塊を全層に多量含む。
 - 3 岩褐色土 10YR2/2 シルト質土・粘性あり・しまり強・ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多量、ローム塊($\phi 10 \sim 50\text{mm}$)を部分的に多く含む。
 - 4 黑褐色土 10YR2/2 シルト質土・粘性あり・しまり強・ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)・ローム塊($\phi 10 \sim 100\text{mm}$)を部分的に多く含む。



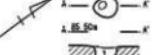
- P23 A-A'
- 1 淡褐色土 10YR2/1 シルト質土・コーム・粘性あり・しまりなし・ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多く、コーム塊($\phi 10 \sim 50\text{mm}$)を部分的に少量含む。



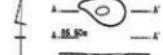
- P24 A-A'
- 1 黒褐色土 10YR2/2 シルト質土・粘性あり・しまりなし・ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多量、ローム塊を部分的に多く含む。
 - 2 黄褐色土 10YR5/6 ローム・粘性あり・しまりなし・ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)・ローム塊を全層に多量含む。
 - 3 黑褐色土 10YR2/5 シルト質土・粘性あり・しまりなし・ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)・ローム塊を部分的に少量含む。
 - 4 黑褐色土 10YR5/5 ローム・粘性強・しまりなし・ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)・ローム塊を全層に多量含む。



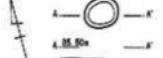
- P25 A-A'
- 1 淡褐色土 10YR2/1 シルト質土・コーム・粘性弱・しまりなし・ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多く、ローム塊($\phi 10 \sim 50\text{mm}$)を部分的に含む。
 - 2 褐褐色土 10YR5/6 ローム・粘性強・しまりなし・ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)・コーム塊を全層に多量含む。



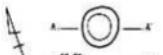
- P26 A-A'
- 1 淡褐色土 10YR2/1 シルト質土・コーム・粘性弱・しまりなし・ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多く、ローム塊($\phi 10 \sim 50\text{mm}$)を部分的に含む。
 - 2 褐褐色土 10YR5/6 ローム・粘性強・しまりなし・ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)・コーム塊を全層に多量含む。



- P27 A-A'
- 1 淡褐色土 10YR2/1 シルト質土・粘性あり・しまり強・粘土($\phi 1 \sim 10\text{mm}$)を全体に多く、ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全層に少量含む。
 - 2 褐褐色土 10YR2/2 シルト質土・ローム・粘性あり・しまりなし・ローム塊・ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多量含む。

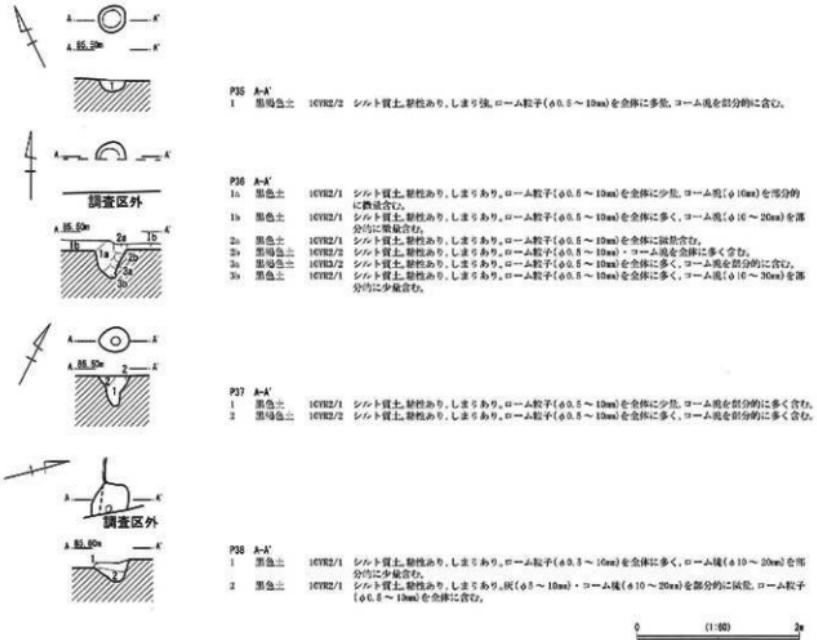


- P28 A-A'
- 1 黒褐色土 10YR2/2 シルト質土・コーム・粘性あり・しまりあり・ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に少量、ローム塊($\phi 10 \sim 30\text{mm}$)を部分的に少量、泥炭($\phi 1 \sim 10\text{mm}$)を全層に含む。
 - 2 黑褐色土 10YR2/2 シルト質土・ローム・粘性あり・しまりあり・ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多く、ローム塊($\phi 10 \sim 50\text{mm}$)を部分的に含む。



- P29 A-A'
- 1 黑褐色土 10YR2/2 シルト質土・コーム・粘性あり・しまりあり・ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に少量、ローム塊($\phi 10 \sim 30\text{mm}$)を部分的に少量、泥炭($\phi 1 \sim 10\text{mm}$)を全層に含む。
 - 2 黑褐色土 10YR2/2 シルト質土・ローム・粘性あり・しまりあり・ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多く、ローム塊($\phi 10 \sim 50\text{mm}$)を部分的に多量含む。

第83図 ピット(3)



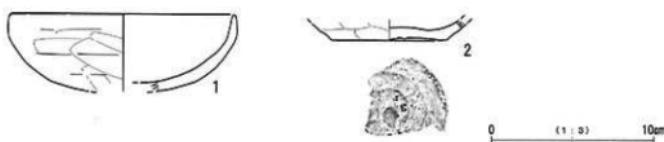
第 84 図 ピット (4)

第 22 表 ピット計測表

測量名	地点	平面形	長軸方位	高さ (m)	緩幅 (m)	深さ (m)	備考	測量名	地点	平面形	長軸方位	高さ (m)	緩幅 (m)	深さ (m)	備考
P1	西側反応帯	不整形	N - 58° - E	0.67	0.53	0.30		P26	東南	円形	-	0.26	0.25	0.22	
P2	西側反応帯	梢円形	N - 45° - E	0.62	0.68	0.34		P21	南西	不整形	-	0.37	0.35	0.41	第 2 号請証発達。
P3	西側反応帯	梢円形	N - 70° - W	0.35	0.29	0.16		P22	南	不整形	N - 40° - E	0.50	0.34	0.40	
P4	西側反応帯	不整形	N - 56° - W	0.52	0.37	0.48	P5 を横穿。	P23	南	不整形	-	0.43	0.43	0.22	第 2 号請証を横す。
P5	西側反応帯	不整形	N - 56° - W	0.38	0.29	0.21	P4 に接続する。	P24	南	梢円形	N - 47° - W	0.54	0.37	0.41	
P6	西側反応帯	梢円形	N - 67° - W	0.33	0.26	0.20		P25	北東	円形	-	0.26	0.25	0.22	P24 と接合
P7	西側反応帯	梢円形	N - 69° - E	0.30	0.25	0.27		P26	南	梢円形	N - 30° - W	0.46	0.29	0.67	
P8	西側反応帯	後円形	N - 30° - E	0.50	0.41	0.22		P27	東	円形	-	0.26	0.25	0.36	欠番
P9	西側反応帯	後円形	N - 60° - W	0.30	0.24	0.19		P28	東	円形	-	0.26	0.25	0.35	欠番
P10	西側反応帯	後円形	N - 73° - E	0.41	0.30	0.34		P29	東	円形	-	0.26	0.25	0.35	欠番
P11	南西	円形	-	0.23	0.22	0.33		P30	東	円形	-	0.26	0.25	0.36	欠番
P12	南西	梢円形	N - 64° - W	0.41	0.30	0.54		P31	南東	不整形	-	0.26	0.25	0.36	
P13	南西	梢円形	N - 40° - W	0.46	0.37	0.26		P32	南東	不整形	N - 79° - W	0.58	0.35	0.25	
P14	南西	不整形	N - 8° - E	0.51	0.36	0.24		P33	南	梢円形	N - 82° - E	0.43	0.36	0.17	
P15	欠番	円形	-	0.23	0.22	0.33		P34	南	円形	-	0.47	0.47	0.26	
P16	西面	円形	-	0.31	0.31	0.21		P35	西	円形	-	0.34	0.31	0.36	
P17	西面	梢円形	N - 82° - W	0.35	0.46	0.44		P36	西	円形	-	0.36	(0.22)	0.45	西面は調査区外へ接す。東面は調査区外へ接す。
P18	西面	梢円形	N - 84° - E	0.41	0.34	0.24		P37	西	梢円形	N - 53° - E	0.36	0.30	0.38	
P19	南西	円形	-	0.45	0.42	0.12		P38	東北北寄り	梢円形	N - 87° - W	0.44	(0.38)	0.27	岩 22 分布層を横す。東面は調査区外へ接す。

9. 遺構外の遺物（第85図・第23表）

遺構外の出土遺物として、2点を掲載した。1・2どちらも土師器の壊である。1は古墳時代後期、2は平安時代のものと推定される。



第85図 遺構外出土遺物

第23表 遺構外出土遺物観察表

番号	種別	管柱	残存	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	技法・特徴	粘土	色調	焼成	出土状況
1	土師器	环	口部 底部 破片	(13.6)	-	(4.8)	1号移外壁：施陶ナマケ、口部外側：ヘラケズリ、底部内面：ヘラナマケ、ナマケ、サザ、口部内外側粗粒付着	白色粘	107°F/2 灰青褐色	真	表土
2	土師器	环	口部 底部 破片	-	(7.0)	(1.3)	2号下半外壁：ヘラケズリ、内面：ヘラナマケ・ナマケ、底部：圓軸 ヘラケズリ	白色粘	7.5°F/3 灰青褐色	真	表土

(4) まとめ

今回の調査地点は從前に調査されたE・F・G・H地点に近接する。今回の調査地点では竪穴住居跡23軒が検出されている。その内訳は古墳時代中期1軒、古墳時代後期9軒、奈良時代3軒、平安時代の5軒、時期不明が5軒である。そのうち古墳時代後期以降の住居跡が主体をなしている。これは從前の調査成果を見ても同様である。

1. 出土遺物について

古墳時代中期とした住居跡も遺物は少なく、出土した高坏片から中期とした。

古墳時代後期以降の住居跡では、遺構の重複から、出土遺物の一括性は弱い。古墳時代後期では丸底の土師器環が主体となる。口縁部と底部との境に段を持ち、口縁部が直立するものと、外側に聞くもの、底部から内湾しながら立ち上がるものが認められる。これに長胴甕が伴う。須恵器は蓋が出土している。土器以外では第15号住居跡からは無茎の有孔鉄鑓が出土している。

奈良時代では、平底で内湾する坏が主体となる。口縁部大きく器高の低い皿状のものや、それに脚がつくものが存在する。須恵器の坏も認められる。底部は全面回転ヘラケズリされる。

平安時代では、須恵器の坏と高台付坏が認められ、坏の底部は回転ヘラケズリされるものと、糸切り痕を残すものが認められる。土師器坏は平底で内面が黒色処理され細かな磨きが認められる。甕は武藏型甕と常総型甕両者が見られ、住居跡ごとにその主体となるものが異なっている。このほかに墨書き土器や灰釉陶器の壺が出土している。

第9号住居跡から出土した墨書き土器は、土師器环の底部外面に書かれている(第21図2)。二字で「衣厨」と考えられる。時期は9世紀後半である。複数文字の墨書きで「厨」を含むものとして、下野国府跡から「國厨」・「寒川厨」・「川厨」・「寒厨」が出土している。その他周辺地域でも同様に「國厨」・「郡厨」、「○○厨」・「△厨」などが出土している。

○○には郡名が、△には郡名の一字を用いる例が多い。『倭名類聚抄』によると下野国の郡名として足利郡・梁田郡・安蘇郡・都賀郡・寒川郡・河内郡・芳賀郡・塙屋郡・那須郡が知られるが、「衣」を含む郡名は見られない。郷名では河内郡に衣川が存在する。郷名の一字と「厨」が組み合わさる類例は県内には見られない。県外では茨城県牛久市ヤツノ上遺跡(小高1993)で二字の例として「阿弥厨」と墨書きされた土師器环が出土している。

一方で、本遺跡は東山道の推定ルート沿いに存在し、鬼怒川沿いには『延喜式』に記載のある衣川駅があつたことが知られるところから、今後、遺跡の性格も併せて検討する必要がある。

2. 住居跡について

古墳時代後期以降の住居跡の主軸は概ね3方向に分けられる。

A：北北西をとるもの(第1・21号住居跡)

B：ほぼ北をとるもの(第2・10・15・22号住居跡)

C：北東から北北東をとるもの(第3・5・6・9・11・12・13・14・16・18・19・20・23号住居跡)

時期的にみるとA・Bはいずれも古墳時代後期の住居跡である。Cは古墳時代後期に加え奈良時代以降の住居跡の主軸方位となる。

カマドがある住居跡は時期を問わず、北壁にカマドを構築している。住居跡の主軸方位とカマドのそれがほぼ等しいものが主体である。第1・10号住居跡は焚口が西側に、第20号住居跡は焚口が東側に掘れている。

カマド以外の付帯施設としては貯蔵穴が認められる。いずれもカマドと相対した時、その右側に築かれている。この原則は第9号住居跡に見られるように、カマド付け替え後も踏襲されているようで、新たに貯

蔵穴も作り変えている。

住居の主軸方位に関しては、本調査地点に西接し、古墳時代後期を中心に 12 軒の住居跡を調査した G 区でも、住居主軸方位は B・C 方位で同じ傾向である（水野ほか 2015）。南東に位置する E 区では A・B 方位が主体である。本地点と異なる点は東主軸（東壁にカマドを持つ）の住居跡が 2 軒検出されているが、いずれも奈良時代（8 世紀前半）の住居跡である。

従前の調査では間仕切り溝を持つ住居跡が検出されている。時期は古墳時代後期で、一辺が 6 m 前後でも採用されている住居跡はあるが、他の住居跡に比べ大きなもの、概ね一辺 7 m を超えるものではその採用率が高い。本地点では、格別大きな住居跡は存在せず、最も大きな第 10 号住居跡でも、 6.92×6.90 m で 7 m 未満である。そのためか、間仕切り溝を持つ住居跡はない。また、カマドの反対側に張り出し部を持つ住居跡も存在していない。

水野順敏氏により本遺跡の時期ごとの遺構分布状況がまとめられている（水野ほか 2015）。それによる本遺跡の西側に古墳時代後期の集落の中心が見込まれている。大型住居跡や張り出し部を持つ住居跡の分布状況からも納得がいく見解であり、その中心から若干であるが東側に位置する本地点では、大型住居跡や張り出し部を持つそれが認められないであろう。

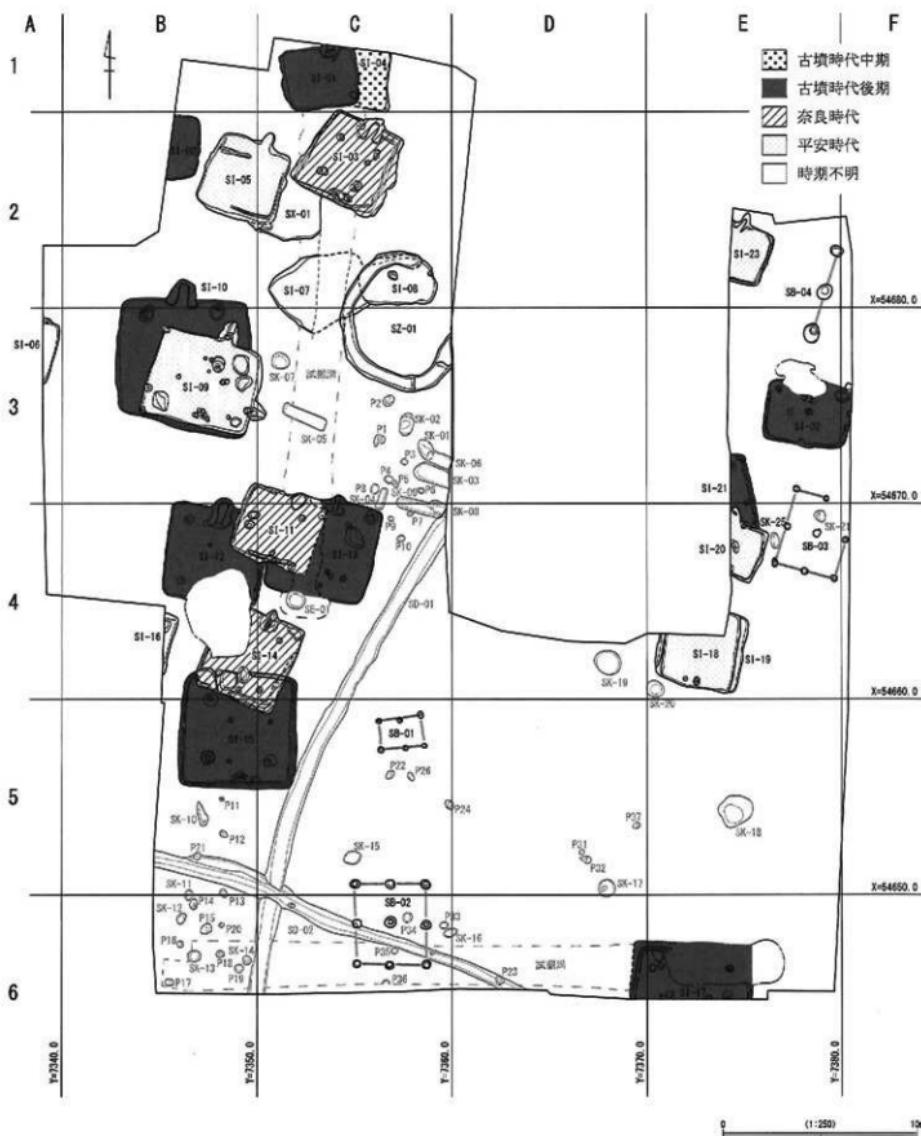
さらに水野氏は、奈良時代以降は集落の中心が西側に移ることを想定している。これに従うと本地点がその一角であるが、古墳時代後期とは違い、集落規模も縮小し、その集落を構成する住居跡も大型住居跡も認められず、格差のあまりない等質なものになっている。古墳時代後期と比べ、集落構造も変化していったものと思われる。ただし、第 9 号住居跡の墨書き土器や灰釉陶器に見られるように、他の住居跡と違いが見いだせるものも存在する。

3. その他

掘立柱建物跡と考えられるものが検出されているが、出土遺物がないことから、その時期を詳らかにすることはできない。ただし、住居跡との軸方位の近似から、第 2 号掘立柱建物跡は古墳時代後期のものと考えられる。

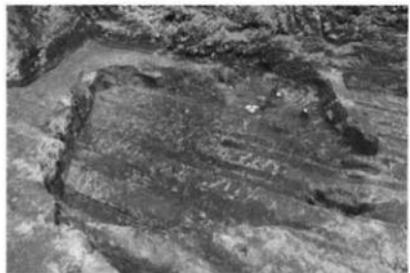
参考文献

- 楠木茂雄 2010 「西刑部西原遺跡」 桐木県埋蔵文化財調査報告第 329 集 桐木県教育委員会
内山敏行ほか 2010 「東谷・中島地区遺跡群 10 権現山遺跡北側（2～4 区・SG1 区）・杉村（G N 1 区）」 桐木県教育委員会（財）とちぎ生涯学習文化財団
今平利幸 2014 「西刑部西原遺跡」 F 区 宇都宮市埋蔵文化財調査報告第 86 集
・三輪季幸
小高五十二
白寄智隆 1993 「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（1）ヤツノ上遺跡」
茨城県教育財團文化財調査報告第 81 集
2010 「西刑部西原遺跡」 E 区 宇都宮市埋蔵文化財調査報告第 76 集
宇都宮市教育委員会
高島英之 2012 「第 3 章 番名記載墨書き・刻畫土器小考」「出土文字資料と古代の東国」 同成社
初山季行ほか 1999 「東谷・中島地区遺跡群 1 権現遺跡（1 区）」 桐木県教育委員会
（財）桐木県文化振興事業団
土生朝治ほか 2007 「西刑部西原遺跡」 宇都宮市埋蔵文化財調査報告第 59 集
宇都宮市教育委員会
平川南 2000 「第 3 章 1. 「厨」 墓寄土器論」「墓寄土器の研究」 吉川弘文館
藤田寅夫 2000 「杉村・権現・環同北」 桐木県埋蔵文化財調査報告第 241 集
・安藤美保
谷中豊ほか 2001 「権現山遺跡・百目鬼遺跡」 桐木県埋蔵文化財調査報告第 257 集
橋本県教育委員会（財）とちぎ生涯学習文化財団
庄子貞雄 1987 「Ⅲ 火山灰土壤学と考古学」「土壤学と考古学」 博友社
橋木県
細野哲、佐藤隆 1984 「土地分類基本調査 千生」
水野順敏ほか 2015 「黒ボク土器の生成史」「第四紀研究」 54(5) 第四紀学会
2015 「西刑部西原遺跡（G 区）」 宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第 89 集
宇都宮市教育委員会
三輪季幸ほか 2014 「西刑部西原遺跡（F 区）」 宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第 86 集
宇都宮市教育委員会



第 86 図 検出構造時期別分布図

写 真 図 版



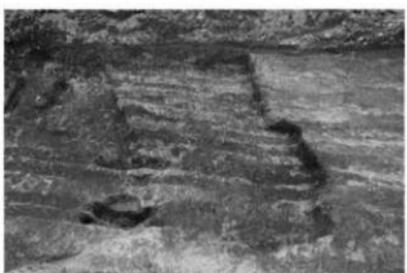
第1号住居跡（SI-01）検出状況（南から）



第2号住居跡（SI-02）検出状況（東から）



第3号住居跡（SI-03）検出状況（南から）



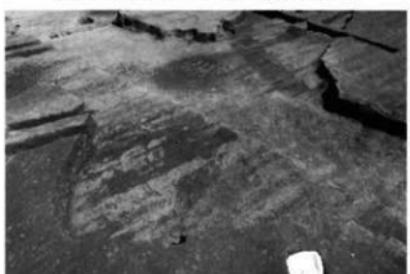
第4号住居跡（SI-04）検出状況（南から）



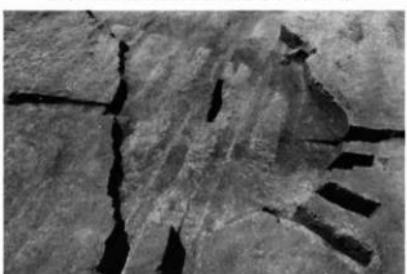
第5号住居跡（SI-05）検出状況（南から）



第6号住居跡（SI-06）検出状況（東から）



第7号住居跡（SI-07）検出状況（南西から）



第8号住居跡（SI-08）検出状況（東から）

図版2



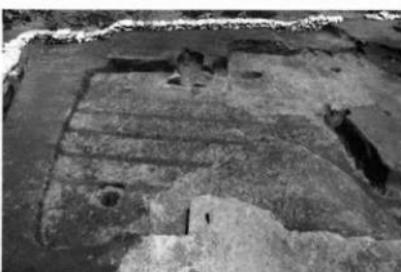
第9号住居跡（SI-09）検出状況（南から）



第10号住居跡（SI-10）検出状況（南から）



第11号住居跡（SI-11）検出状況（南から）



第12号住居跡（SI-12）検出状況（南から）



第13号住居跡（SI-13）検出状況（南から）



第14号住居跡（SI-14）検出状況（南から）



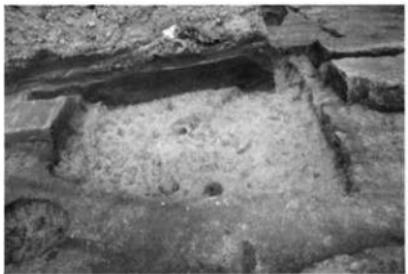
第15号住居跡（SI-15）検出状況（東から）



第16号住居跡（SI-16）検出状況（東から）



第17号住居跡（SI-17）検出状況（西から）



第18・19号住居跡（SI-18・19）検出状況（南から）



第20号住居跡（SI-20）検出状況（南から）



第21号住居跡（SI-21）検出状況（東から）



第22号住居跡（SI-22）検出状況（東から）



第23号住居跡（SI-23）検出状況（東から）



第1号円形周溝（SZ-01）検出状況（東から）



第1号掘立柱建物跡（SB-01）検出状況（南から）

図版4



第2号掘立柱建物跡（SB-02）検出状況（南から）



第3号掘立柱建物跡（SB-03）検出状況（南から）



第4号掘立柱建物跡（SB-04）検出状況（東から）



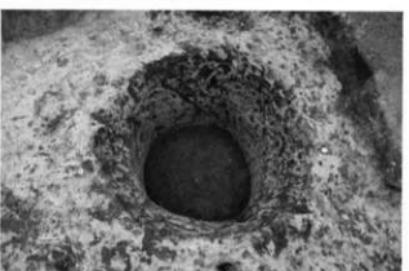
第1号性格不明造構（SX-01）検出状況（北から）



第1号井戸跡（SE-01）土層断面（北から）



第1号井戸跡（SE-01）検出状況（北から）

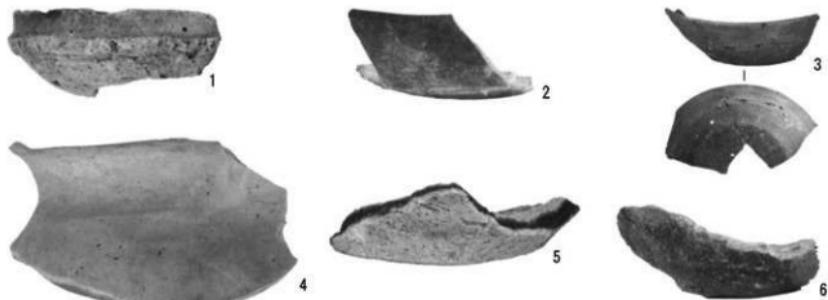


第1号井戸跡（SE-01）検出状況（北から）



基本層序（北から）

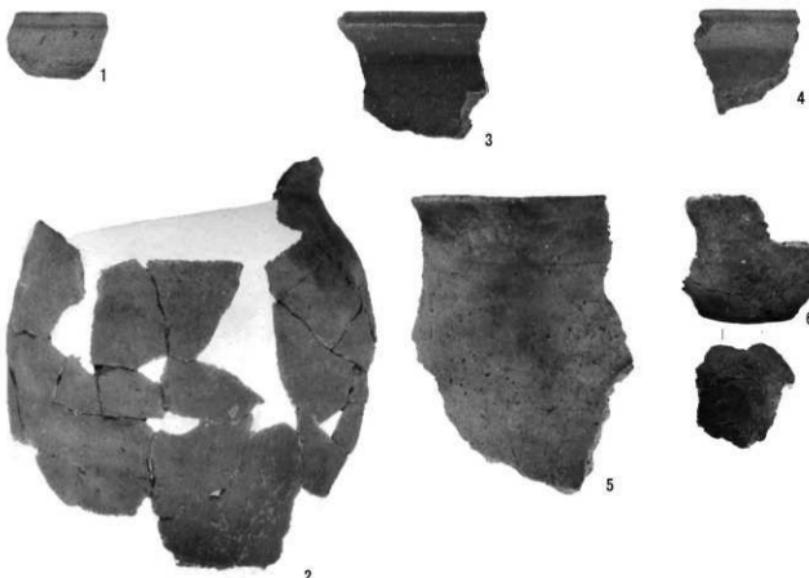
図版5



第1号住居跡 (SI-01) 出土遺物

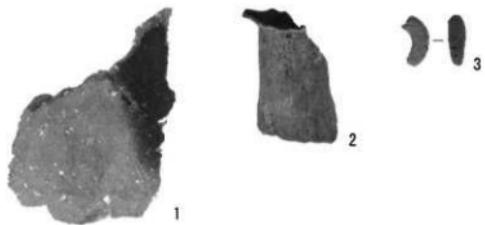


第2号住居跡 (SI-02) 出土遺物

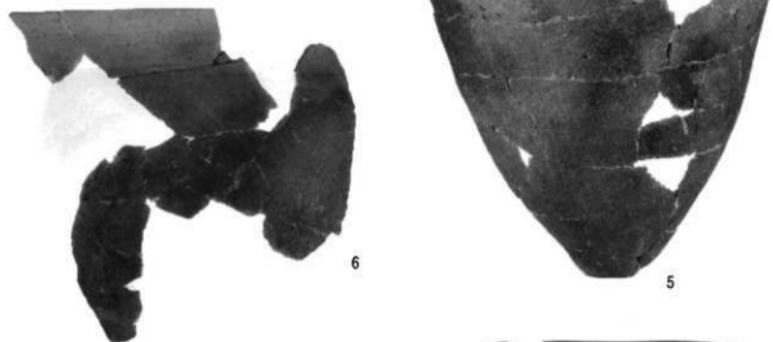
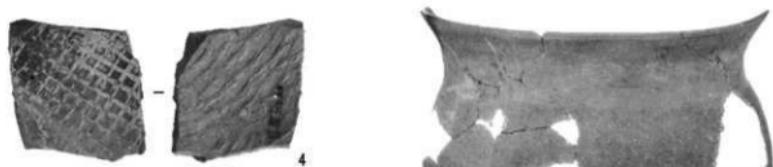


第3号住居跡 (SI-03) 出土遺物

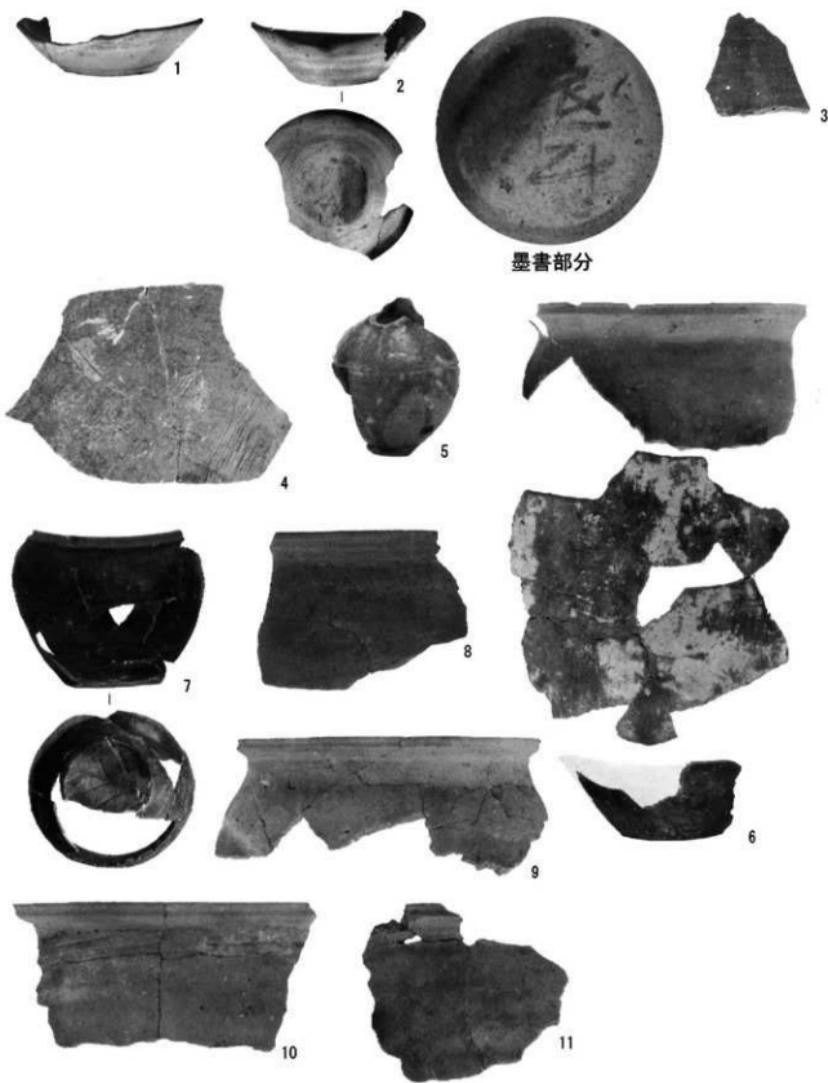
图版 6



第4号住居跡 (SI-04) 出土遺物



第5号住居跡 (SI-05) 出土遺物



第9号住居跡 (SI-09) 出土遺物

图版8



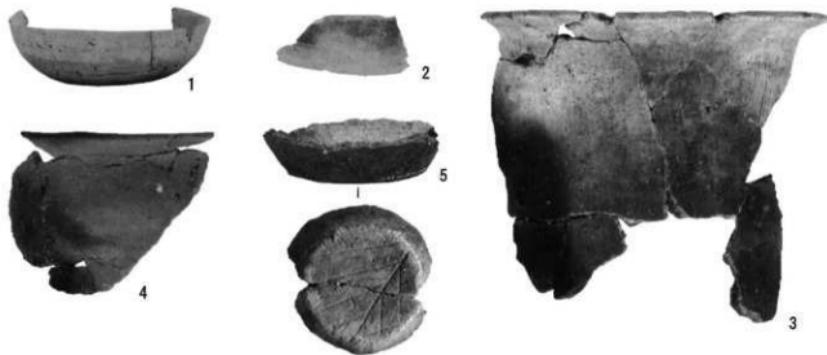
第10号住居跡 (SI-10) 出土遺物



第11号住居跡 (SI-11) 出土遺物

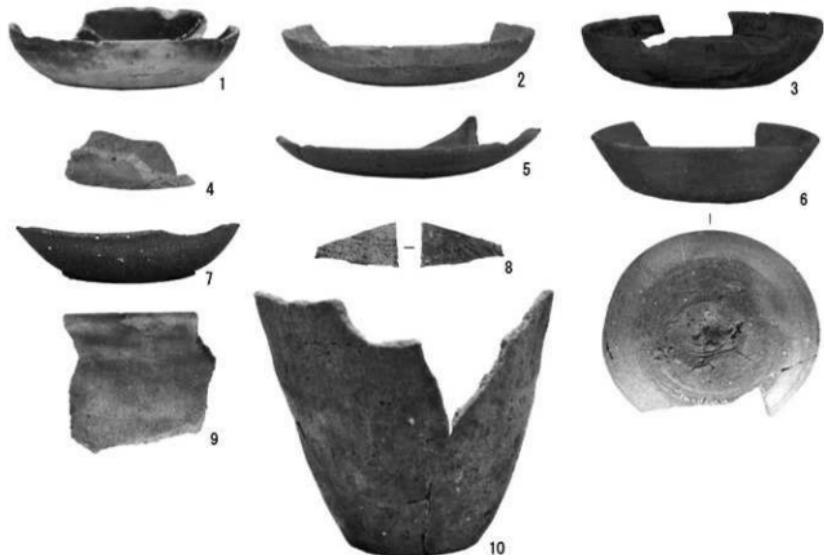


第12号住居跡 (SI-12) 出土遺物

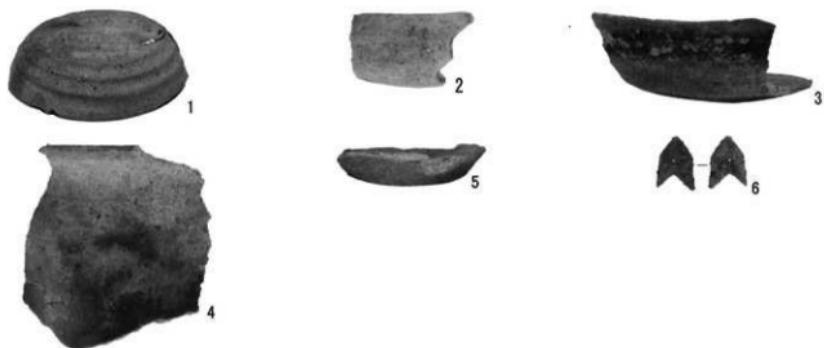


第13号住居跡 (SI-13) 出土遺物

図版9



第14号住居跡 (SI-14) 出土遺物



第15号住居跡 (SI-15) 出土遺物

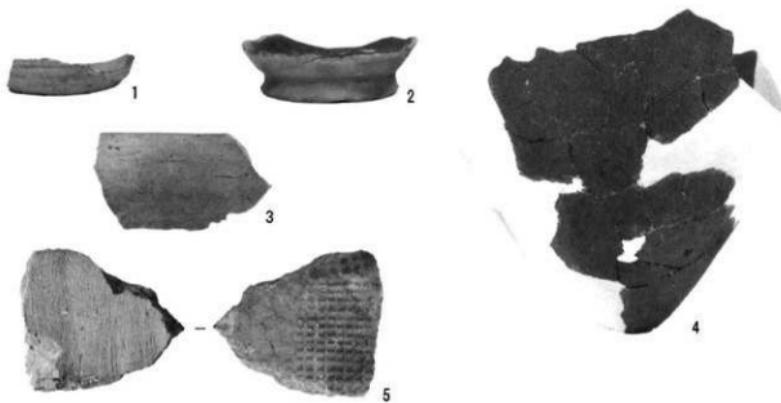


第16号住居跡 (SI-16) 出土遺物



第17号住居跡 (SI-17) 出土遺物

图版 10



第 18 号住居跡 (SI-18) 出土遺物



第 20 号住居跡 (SI-20) 出土遺物



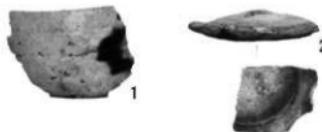
第 21 号住居跡 (SI-21) 出土遺物



第 22 号住居跡 (SI-22) 出土遺物



第 23 号住居跡 (SI-23) 出土遺物



第 1 号円形周溝 (SZ-01) 出土遺物



第 1 号性格不明造構 (SX-01) 出土遺物



造構外出土遺物

報告書抄録

宇都宮市埋蔵文化財調査報告書 第106号
西刑部西原遺跡（J区）

発行日 2020（令和2）年3月31日
編集 株式会社東京航業研究所
〒350-0855 埼玉県川越市伊佐沼28番1

TEL 049-229-5771
発行 宇都宮市教育委員会
〒320-8540 栃木県宇都宮市旭1-1-5

TEL 028-632-2764
印刷 関東図書株式会社
〒336-0021 埼玉県さいたま市南区別所3-1-10
TEL 048-862-2901